2019年度 スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト 「障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業」 成果報告書

2020年4月 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟が実施した2019年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認 手続きが必要です。

はじめに

内閣府が発行している令和元年版障害者白書によると、「国民のおよそ 7.6%が何らかの障害を有している…」とある。そのパーセンテージは年々増えている。また、身体障がい、知的障がい、精神障がいの三区分の概数を合わせた障がい者数は約964万人となっている。日本の苗字ランキング TOP5 の佐藤、鈴木、高橋、田中、伊藤の苗字の人達の合計は約751万人。それらの苗字の人の顔はすぐに思い浮かぶが、それよりも数の多い障がい者の人を思い浮かべられる人はどのくらいいるであろうか。

社会では障がいのある人達を「障がい者」とひと括りにしてしまいがちだが、障がい者といっても十人十色。一人として同じ人はいない。見た目だけでは障がい者と分からない人もたくさんいる。障がいのことを知らないがために、無意識な差別や偏見も生じてくる。障がい者を分けて管理する社会では健常者と障がい者は触れ合う機会が少なく、肌感覚でお互いを理解することが難しい。言葉や文字で「差別や偏見を無くそう!」と唱えても何をどうしていいのか解らなければ状況はあまり変わらない。障がいの有無に関係なく、様々な人が混ざり合い関わるのが当たり前な環境にしていかなければ、差別や偏見はなくならず、共生社会の実現は難しいであろう。

日本障がい者サッカー連盟は、理念に「広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する」を掲げている。障がい者と健常者が当たり前に一緒に遊びやスポーツを楽しむ環境になれば、障がい者への差別や偏見のない共生社会の実現に近づいていけるのではないかと考えているからだ。

この度のスポーツ庁委託事業として実施した 2019 年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」の成果がサッカーだけに留まらず他のスポーツや全都道府県に広がり、地域の共生社会づくりの一助になることを心から願っている。

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 専務理事 松田薫二

目次

14	10	W	1-
は	し	(X)	(_

		頁
I. 事業概要		6
1. 事業の目的と内容		
(1) 現状と課題		
(2) 本事業の目的		
(3) 内容		
①実施体制		
②アンケート調査		
③9 地域障がい者サッカー連携会議		
④実施スケジュール		
	• • • • •]	11
1. 調査目的		
2. 調査方法		
(1) 調査方法		
(2) アンケート配布・回収期間		
(3) 調査対象		
(4)回収状況		
(5) 調査実施機関		
(6) その他		
(7)本調査に協力者いただいた障がい者サッカー登録クラブチームのプロフィー	ール	
3. 調査結果		
Ⅲ.9地域障がい者サッカー連携会議	• • • • 10	ia
1. 目的	10	9
2. 概要		
(1) 参加者		
(2) 参加条件		
(3) 実施期間と参加人数		
(4) 参加者属性		
(5) 満足度調査		
3. 事業内容		
(1) 共通		
(2) 北海道		
(3) 東北		
(4) 関東/午前の部		
(5) 関東/午後の部		
(6)北信越		
(7)東海		
(8) 関西		
(9) 中国		
(10)四国		
(11) 九州		

Ⅳ. インクルーシブフットボールフェスタ	• • • • 177
1. インクルーシブフットボールフェスタとは	
2. 東京での連携事例	
3. 地域での連携事例	
4. 各イベント実施概要	
TT D.III	
V. 成果	• • • • 184
1. 障がい者サッカーネットワークの構築(連携機会の創出)	

- 2. 全国の好事例・先進事例の把握
- 3. 障がい者サッカー7競技団体の共通課題の抽出

おわりに

【添付資料】

- 1. メディア関連資料
- 2. アンケート調査資料
- 3.9地域障がい者サッカー連携会議案内資料

【報告書作成担当者】

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

専務理事松田薫二理事田中暢子事務総長山本康太事務局員神谷衣香

インターン 大野里穂 (明治大学)

インターン 近藤沙耶 (桐蔭横浜大学大学院)

I. 事業概要

1. 事業の目的と内容

(1) 現状と課題

東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催年を迎え、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて機運醸成、環境整備等がさらに進んでいるが、いずれもパラリンピック競技に関わる活動に限り、地域も首都圏が大半を占めている。また、東京 2020 大会へ向けて実施されているものが多く、大会後にはパラスポーツ競技団体の約6割が活動縮小を予定する等、継続性、発展性に不安が残る。

サッカー界では、2014年5月15日に公益財団法人日本サッカー協会(以下、JFA)が「JFAグラスルース宣言」を行い、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを身近に楽しめる環境を目指し、障がい者サッカーとの連携が始まった。そして、2016年4月に7つの障がいサッカー競技団体*1(以下、7競技団体)が社員となる一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(以下、JIFF)が設立され、JIFFの活動により首都圏を中心として、Jリーグクラブとの連携は徐々に進んではいるものの、首都圏以外の地域における7競技団体と都道府県サッカー協会やJリーグクラブとの関係構築や、障がい者が安心・安全にサッカーを楽しめる環境になるには未だ多くの課題が存在している。

*1=特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会、一般社団法人日本 CP サッカー協会、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会、一般社団法人日本ろう者サッカー協会

(2) 本事業の目的

本事業は、以下の4つを目的として実施した。

- a. 障がい者スポーツ団体を対象とした支援のニーズ調査
- b. 障がい者スポーツ団体に対する体制整備に係る助言等の実施
- c. 一般のスポーツ団体と障がい者スポーツ団体の連携の推進
- d. 障がい者スポーツ支援への理解の促進を図るための情報提供等の実施

(3) 内容

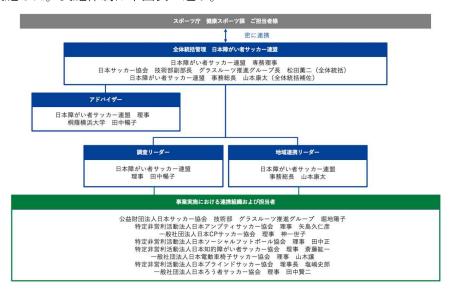
JIFF は、上記の課題に取り組むべく、JFA とともに 2019 年度「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」として「7 競技団体の登録クラブチームへのアンケート調査」、「9 地域障がい者サッカー連携会議(以下、地域連携会議)」を実施した。

アンケート調査は、障がい者スポーツ団体(障がい者サッカー団体)を対象とした支援のニーズ調査 および体制整備に係る助言、同団体支援への理解の促進を図るための情報提供を行うことを目的として 実施し、調査対象 269 チーム中、132 チームからの回答を得た。

地域連携会議は、一般のスポーツ団体(サッカー団体)と障がい者スポーツ団体(障がい者サッカー団体)間の連携を図ることを目的として、全国9地域(北海道、東北・宮城県、関東・東京都、北信越・長野県、東海・愛知県、関西・大阪府、中国・広島県、四国・愛媛県、九州・鹿児島県)で実施し、7競技団体の地域担当者、7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、延べ340名が参加した。

① 実施体制

事業実施におけるコアメンバーを3名体制とし、関連する組織および担当者もプロジェクトメンバーとして実施した。実施体制は下図表の通り。



全体統括を担う JIFF の専務理事松田は、JFA 技術部副部長とグラスルーツ推進グループ長を兼務している。グラスルーツ推進グループは、JFA 内で障がい者サッカーを担当する部署で、JIFF と JFA のスムーズな連携が可能。

全体統括補佐および地域連携リーダーを担う JIFF の事務総長山本は、これまで加盟団体である特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会で事業戦略(広報、資金調達、マーケティング等)を統括、大会運営を経験し、代表チームおよびクラブチームとの連携を行ってきており、加盟団体や登録するクラブチームの環境に精通している。

アドバイザー・調査リーダーを担う理事の田中は、スポーツ政策学を専門とし、中央競技団体の競技 環境整備に関する研究が多くある。また、実践として公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事、一 般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザーなどを務めている。

関連する組織とのスムーズな連携を行うため、事業実施における連携組織およびメンバーには各連携 組織からプロジェクトメンバーとして入ってもらった。

② アンケート調査

障がい者サッカー7 競技団体に登録するクラブチームを対象に、障がい者スポーツ団体に対して体制整備に係る助言と障がい者スポーツ(障がい者サッカー)支援への理解の促進を図るための情報提供を行うこと目的に実施した。チームを取り巻く環境や活動状況について調査し実態を把握することで、「9地域障がい者サッカー連携会議」において各地域の活動および普及状況にあわせた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりに繋げる。調査対象 269 チーム中、132 チームからの回答が得られた。

詳細については、Ⅱ.アンケート調査にて後述する。

③ 9地域障がい者サッカー連携会議

全国9地域(北海道、東北・宮城県、関東・東京都、北信越・長野県、東海・愛知県、関西・大阪府、中国・広島県、四国・愛媛県、九州・鹿児島県)で「9地域障がい者サッカー連携会議」を実施し、7競技団体の地域担当者、7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、延べ340名が参加した。

詳細については、Ⅲ. 9地域障がい者サッカー連携会議にて後述する。

④ 実施スケジュール

全体スケジュール

実施事項				
実施時期	(1)支援ニーズの調 査	(2)体制整備に係る 助言等の実施	(3) 健常者サッカー (4) 障がい者サッカ と障がい者サッカー 一支援の理解の促 の連携の推進 進、情報提供等	備考
2019年7月	作業部会実施 (アンケート準備)			
8月			事業推進部会実施	
9月				
10月	 登録クラブ			•••
11月	チームへの		9 地域障がい (取りまとめ準備)	
12月	アンケート 調査の実施		者サッカー 連携会議の	
2020年1月		助言	開催	
2月		取りまとめ	書類作成	
3 月				

・作業部会スケジュール

	17米明式ハノシュール			
	日程	出席者	アジェンダ	
1	5月27日 (月) 18:00~20:00 JFAハウス内	JIFF 理事・監事 JIFF 事務局:山本康太、神谷衣香	・JIFF 理事会承認	
2	11月26日(火)11:30~13:30 JFAハウス内	JIFF 理事:田中暢子 JIFF 事務局:山本康太、神谷衣香、大野 里穂	・アンケート調査進捗・会議実施状況報告・目標設定等の再確認・報告書構成の検討	
3	12月12日(水)10:00~12:00 桐蔭横浜大学	JIFF 理事:田中暢子 JIFF 事務局:近藤沙耶、大野里穂	・報告書構成の検討	
4	2月11日(火)16:00~18:00 JFAハウス内	JIFF 理事:田中暢子 JIFF 事務局:山本康太、神谷衣香、近藤 沙耶、大野里穂、野寺風吹	報告書構成の検討報告書目次の作成役割の検討	

・事業推進部会スケジュール

主な出席者:

松田薫二(JIFF 専務理事、JFA 技術部副部長 グラスルーツ推進グループ長)

山本康太(JIFF 事務総長)

神谷衣香(JIFF 事務局員)

堀地陽子 (JFA 技術部グラスルーツ推進グループ)

	陽子(JFA 技術部グラスルー 日程・場所	出席者	アジェンダ
1	8月13日(火)10:00~11:00 JFAハウス内	山本康太、神谷衣香	・会議開催日程検討 ・会議コンテンツ検討
2	9月10日(火)11:30~12:30 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・会議開催日程検討・会議コンテンツ検討
3	10月1日(火)16:00~17:00 JFAハウス内	堀地陽子、山本康太、神谷衣香、大野里 穂	・会議コンテンツ検討
4	10月17日(木)11:00~12:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・会議コンテンツ検討
5	10月18日(金)11:30~13:30 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香、近藤沙耶	・会議コンテンツ検討
6	10月25日(金)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香、近藤沙耶	・進捗確認
7	10月28日(月)13:00~15:00 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香	・10月27日東海会議振り返り ・次回以降のアジェンダ検討
8	11月5日(火)10:00~12:00 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・次回アジェンダの再考・プレゼンテーション資料の修正
9	11月8日(金)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香	・進捗確認
10	11月22日(金)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香	・次回会議内容最終確認
11	11月27日(水)9:30~10:30 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香	・11月23日四国会議振り返り
12	11月28日(木)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・次回アジェンダ確認
13	12月2日(月)14:00~15:00 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香	・11月30日東北会議振り返り

14	12月5日(木)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・進捗確認
15	12月13日(金)9:00~10:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香	・次回会議内容最終確認
16	12月19日(木)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・12月14日中国会議振り返り・12月15日関西会議振り返り
17	1月7日(火)14:00~15:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・進捗確認
18	1月9日(木)10:30~11:30 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香、大野里穂	・次回会議内容最終確認
19	1月16日(木)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、堀地陽子、山本康太、神谷衣香	・1月11日北海道会議振り返り ・次回会議内容確認
20	1月31日(金)10:00~11:00 JFAハウス内	松田薫二、山本康太、神谷衣香	・1月19日北信越会議振り返り ・1月25日九州会議振り返り ・次回会議内容最終確認

・その他会議スケジュール(9 地域サッカー協会、Jリーグ)

	日程・場所	出席者	アジェンダ
1	7月11日 (木) 17:00~17:30 JFA ハウス内	Jリーグ:藤村昇司 JIFF 事務局:松田薫二、山本康太	・JリーグおよびJリーグクラブとの 連携の依頼・Jリーグクラブへの情報展開
2	7月11日 (木) 16:30~16:45 JFA ハウス内	JIFF 事務局:松田薫二、山本康太	・地域代表理事会議(JFA 主催)での 依頼
3	8月30日 (木) 9:30~10:30 JFAハウス内	J リーグ:藤村昇司、青山優香 JIFF 事務局:山本康太	・進捗報告

Ⅱ. アンケート調査

1. 調查目的

障がい者サッカー7 競技団体に登録するクラブチームを対象に、支援のニーズ調査および体制整備に係る助言、同団体支援への理解の促進を図るための情報提供を行うことを目的に実施した。チームを取り巻く環境や活動状況について調査し実態を把握することで、「9 地域障がい者サッカー連携会議」において各地域の活動および普及状況にあわせた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりに繋げる。

2. 調査方法

(1)調査方法

アンケート調査を実施。調査票をメールにて配布、一部、入力の環境や視覚障がい等の理由により添付のワードファイルに記入してもらい、メール送付にて回収した。

(2) アンケート配布・回収期間

2019年9月27日~2020年2月28日

(3)調査対象

JIFF に加盟する障がい者サッカー7 競技団体(日本アンプティサッカー協会、日本 CP サッカー協会、日本 ソーシャルブットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ろう者サッカー協会)に登録するクラブチーム。

(4) 回収状況

競技	調査対象チーム数	回答チーム数	回収率
アンプティサッカー	9	5	56%
CP サッカー	7	6	86%
ソーシャルフットボール	66	51	77%
知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル	119	25	21%
電動車椅子サッカー	31	19	61%
ブラインドサッカー/ロービジョンフットサル	28	18	64%
デフサッカー/デフフットサル	9	8	89%
合計	269	132	49%

※一部、チーム登録制度の未確立や活動状況の不安定さ等により、正確なチーム数の把握が難しく、回収率にも影響が生じた。

(5)調査実施機関

主催:日本障がい者サッカー連盟

協力:桐蔭横浜大学

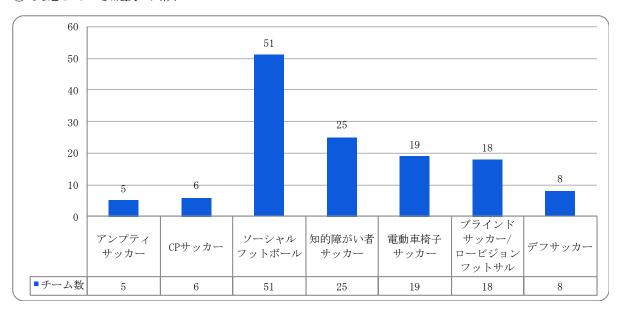
・本調査は、桐蔭横浜大学臨床研究倫理審査委員会の審査基準に準じて実施。

(6) その他

- ・本報告では、全国の障がい者サッカー7 競技団体に登録するクラブチーム全体の結果を示し、続いて競技別の調査結果、地域別の調査結果の結果を示していく。
- ・競技別の調査結果では、アンプティサッカー、CP サッカー、ソーシャルフットボール、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル、電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサル、デフサッカー/デフフットサルの順で表記する。
- ・地域別の調査結果では、北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州の順で表記する。

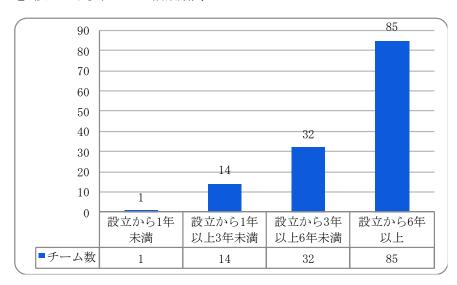
(7) 本調査に協力者いただいた障がい者サッカークラブチームのプロフィール (サンプル構成)

① 実施している競技の内訳



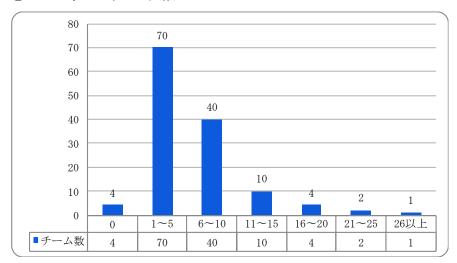
(n=132)

② 設立から現在までの活動期間



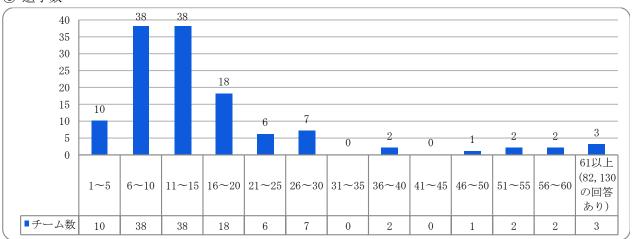
(n=132)

③ コーチ、スタッフの人数



(n=131) ※調査票の質問項目に合っていない回答は無効とした。

④ 選手数



(n=127) ※調査票の質問項目に合っていない回答は無効とした。

3. 調査結果

調査結果は、クラブチームが特定できる回答内容や情報を避け、次頁以降に「①全国の調査結果」「②競技別の調査結果」「③地域別の調査結果」の3つに分けて記載する。

(3) 調査結果①

全国の障がい者サッカーチームに対する調査結果

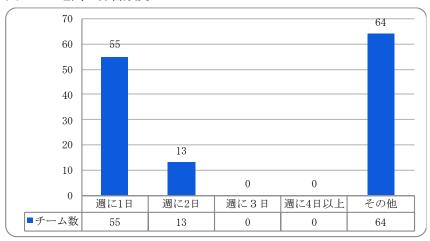
チーム活動(時間・場所・費用)

1. 練習頻度

Ι

「平均して1週間にどれくらいの頻度で練習していますか。」

図1. 1週間の練習頻度



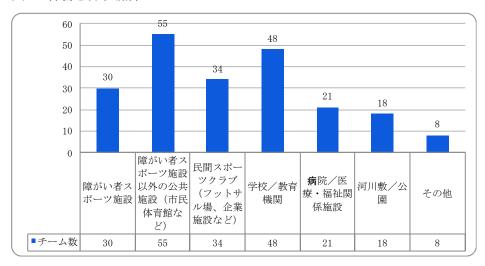
(n=132)

最も多い回答が「その他」 64 チーム (48.4%) で、次に「週に1日」 55 チーム (41.6%) となった。「その他」の具体的な回答として顕著だったものは、「月に2日(2週間に1日) 程度」の 36 チーム (全体の 27.2%)、「月に1日程度」の 10 チーム (全体の 7.5%) だった。117 チーム、全体の 88.6%が週1日以下の回答であり、全体的に練習頻度が少ないとの傾向が見られた。

2. 練習場所

「普段どこでサッカー・フットサルのチーム練習をしていますか。」(複数回答可)

図2. 練習を行う場所



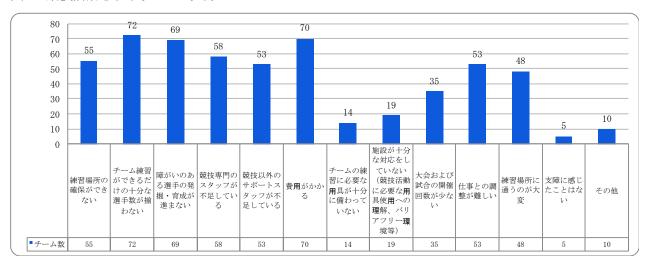
(n=132)

最も多い回答が「障がい者スポーツ施設以外の公共施設(市民体育館など)」55 チーム(41.6%)で、次に「学校/教育機関」48 チーム(36.3%)となった。

3. 競技活動における支障

「競技活動をするうえで、支障となっていることは下記の項目の中にありますか。」(複数回答可)

図3. 競技活動をするうえでの支障



(n=132)

最も多い回答が「チーム練習ができるだけの十分な選手数が揃わない」72 チーム (54.5%) で、次に「費用がかかる」70 チーム (53.0%)、「障がいのある選手の発掘・育成が進まない」69 チーム(52.2%)となった。

4. 競技活動で支障が生まれる具体的な理由は何か(自由回答)

<回答(抜粋)>

■練習への参加

- ・仕事の都合などでなかなか充分な人数が揃わない。
- ・仕事との両立が難しく、なかなか練習に参加できない選手もいる。
- ・体調等により、参加者数の変動が激しい。
- ・交通の便や練習場までの移動距離がネックとなり、練習時に選手を揃えるのが大変。
- ・歴史のあるチームだが、年齢層も高くなってきており体調を崩す選手も増え、練習に参加する選手は少なくなっており、選手間の競争や試合形式の練習は不十分であると感じる。
- ・選手の居住地が離れているため、全体練習がなかなかできない。

■選手やスタッフの不足

- ・新しく加入する選手、スタッフが集まらない。
- ・認知度が低く、そもそも競技人口が少ない。
- ・医療が進歩して、障がい者自体が少なくなってきている。
- ・2人以上休むとチームとしての練習ができない。
- ・選手が少ないので紅白戦がなかなかできないので、大会でのギャップがある。
- ・選手の平均年齢が高くなってきている。
- ・サッカー競技の専門指導者の不足。
- ・効果的なスタッフの集め方のノウハウが少ない。
- ・スタッフの年齢層が高く、次世代の運営の担い手が不足していることが課題。
- ・会計・関係機関との連絡調整・活動場所の確保等、チームを維持していくために必要な事務的・総務的な役割を担える人材が不足している。
- ・スタッフは全員仕事を抱え、限られた時間の中ボランティアで関わってくれている。
- ・医療的ケアを必要とする選手の対応。

■練習場所の確保

- ・練習場所の抽選倍率が大きいため、なかなか確保できない。
- ・キャンセル待ちになることが多く、直前まで練習日が確定できない。
- ・ゴール設備、ボールを蹴れる体育館が1箇所しかない。他の団体も使うため冬は特に確保が難しい。
- ・練習場所が障がい者寄りの施設ではない。バリアフリー設備がない。
- ・傷や汚れを危惧され新たな練習場所の開拓も難しい。
- ・障がい者スポーツ施設のバスケットボールコートが通常時、一面使えない。
- ・公共の体育館を借りる際に「サッカー」と名が付いているので借りられない。
- ・公式の広さが確保できる体育館が少ないので大会出場した際に、調整が難しい時がある。
- ・フットサルができる体育館の確保が難しく、グラウンドで練習をしている。
- ・県の人口が少なく競技場所が限られているため、集まりにくい。
- ・駅から体育館までの移動手段がない。

■活動費の不足

- 活動費用、交通費の確保が課題。
- ・クラブチームのため全額自己負担となる。
- ・大きな大会(全国大会など)があると遠方のチームは交通費の面で負担が大きい。
- ・民間の施設で活動をするには費用が高額になる。
- ・遠方からの来る選手スタッフの移動費の負担が大きいため、練習に参加できる人数が限られてくる。
- ・費用面が影響して引退や活動を休止する選手も出ている。
- ・スポンサーを募集する活動はスタッフ人数が少ないため、なかなか活動できない状況。
- ・遠征があると介助者の旅費などの負担が増えるので、スポンサーを見つけたい。
- ・ナイターで練習しているが、公的施設だが照明料は実費のため減免が認められない。
- ・用品が高額(電動車椅子サッカー)。

■大会や試合が少ない

- ・大会数が公式なものが県大会と日本選手権のみに限られてしまっているので、リーグ戦の 実施を希望している。
- ・大会および試合の開催回数は、充分にもてていない。
- チーム数が少ないので定期的な試合をすることが難しい。
- ・近隣にチームも無く、練習試合をしたくても相手が無い状況。

■競技レベルの違い

・少子化によりやってきた環境にバラツキが見え、レベルの差が明確であるため、初心者と経験者の溝が 難しい。エンジョイなのか本気なのかバラツキがある。

保護者の理解

・本人はやりたくても、親の協力がなければならないためなかなか普及につながらない。

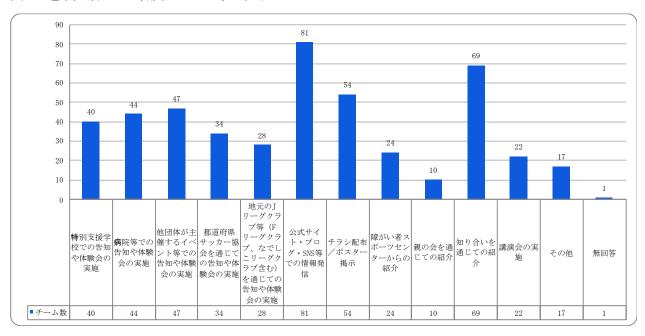
■その他

- ・周囲のスポーツに対する理解や練習時間、場所の確保。
- ・地域で普及が進んでいない。
- ・怪我をしたときの対応方法、保険について検討する必要がある。
- ・広報や医療機関との連携、県サッカー協会との連携。
- ・認定コーチの講習会が少ない。

5. 選手発掘および普及の取り組み

「選手発掘および普及のために取り組んでいることがあれば教えてください。」(複数回答可)

図4. 選手発掘および普及のための取り組み



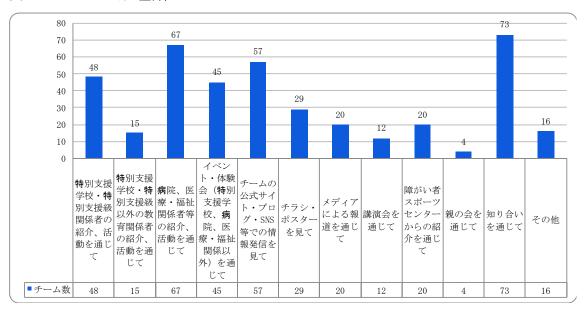
(n=132)

最も多い回答が「公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信」81 チーム (61.3%) で、次に「知り合いを通じての紹介 69 チーム (52.2%) となった。

6. 現チームメンバーの加入経緯

「現在のチームメンバーは、どのようにチームに入りましたか。」(複数回答可)

図5. チームへの加入経緯位



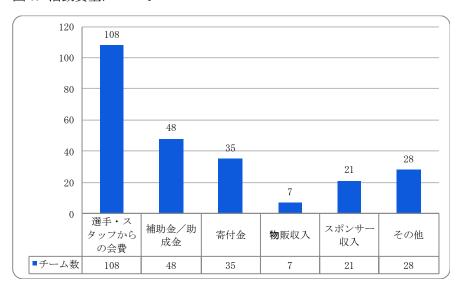
(n=132)

最も多い回答が「知り合いを通じて」73 チーム (55.3%) で、次に「病院、医療・福祉関係者等の紹介、 活動を通じて」67 チーム (50.7%) となった。

7. 活動資金

「活動資金はどのように得ていますか。」(複数回答可)

図 6. 活動資金について



(n=132)

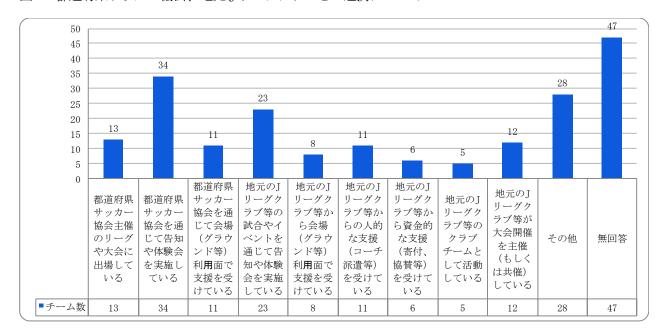
最も多い回答が「選手・スタッフからの会費」108 チーム (81.8%) であり、次いで「補助金/助成金」48 チーム (36.3%) となった。

都道府県サッカー協会、地元Jリーグクラブとの連携および期待

1. 都道府県サッカー協会、地元 J リーグクラブとの連携

「都道府県サッカー協会、地元 J リーグクラブ等 (F リーグクラブ、なでしこリーグクラブ含む) と既に連携して実施していることがあれば、教えてください。」(複数回答可)

図7. 都道府県サッカー協会、地元」リーグクラブとの連携について



(n=132)

 Π

最も多かったのは「無回答」47 チーム(35.6%)であり、次いで「都道府県サッカー協会を通じて告知 や体験会を実施している」34 チーム(25.7%)となった。 2. 都道府県サッカー協会と連携したいこと、または一緒に何かをできるアイディアがあれば、教えてください。(自由回答)

<回答(抜粋)>

■インクルーシブな場づくり

- ・障がい種別を超えたフットボールの取り組み
- ・障がいの種別を超えた練習会
- ・障がいあるなしの人々との対戦、交流会
- ・障がいの有無にかかわらず、様々な人と交流できるようなイベントに参加したい。
- ・県でサッカー協会と共に障がい者サッカーを認知・推進する場の設置。他のカテゴリー (1-4 種、女性、シニアなど) との交流を増やす。
- ・障がい者サッカー部門をつくることも重要ですが、障がい・女子・シニアサッカー関係なく「楽しんで サッカーをする」的な分野を確立したい。
- ・インクルーシブサッカー教室、まぜこぜ(障がい者と健常者、老若男女)サッカー教室の開催
- 様々なサッカーをひとつの会場で行う等。
- ・各障がい者サッカーチーム同士の交流が出来る場をもっと沢山持って欲しい。
- ・ウォーキングサッカーであれば、みんなで出来るのではないかと考えています。

■体験会、講演会などの実施、協力

- ・障がい者スポーツの普及イベントでの講義
- ・各種障がい者サッカーの体験会等、イベントの共同開催
- ・地域指導者と連携し、対象選手の情報の共有をして選手の発掘が出来たらと思う。またクラブチームと して指導者講習の際の協力もできるのではないかと考えている。
- ・交流会や交流試合、クリニックの開催。
- ・イベント等あれば参加してみたい。
- 地元Fリーガーとイベント

■広報支援

- ・人材発掘のための宣伝
- ・HP等での情報共有、イベントの紹介
- ・既存の大会時での、障がい者サッカー体験会や紹介の機会
- ・体験会ブースなど参加させていただいたり、公的なPRの場に出させていただきたい。
- ・地元のプロチームの試合でデモンストレーション

■練習場所、会場の確保

- ・会場(グラウンド等)利用面で支援。
- ・大会開催における会場の確保
- 大きな会場の優先利用。
- ・練習場所の確保

■指導者派遣等、強化面

- ・専門家による指導があれば嬉しい
- 練習のサポート(担当スタッフが初心者なので)
- ・指導者派遣や勉強会の開催などをしていただけると嬉しい
- ・選手・スタッフへの技術指導などの人的サポート
- ・指導者、レフリーなどの育成の協力体制をつくりたい

■審判派遣、育成

- ・大会の際に資格保有者審判を派遣してもらえたら嬉しい
- 大会実施時の審判
- ・審判の育成

選手の発掘

・都道府県サッカー協会に所属する選手(特に高校)で障がいのある選手がいた場合、競技を紹介してもらえると選手発掘につながる。

■大会の共催

- ・大会などの共催
- ・一般の方に観戦して頂ける大会の開催

■資金面

- ・資金面の援助(遠征費等)、他障がい者サッカー団体との交流。
- ・大会等の協賛
- ・遠征費等の支援金の助成をしていただけるとありがたい。
- ・活動場所の確保や資金面での支援があれば非常にありがたい。

■その他

- ・事業計画に障がい者の活動を組み込む
- ・協会内に正式に障害者部門が組織化されれば、広報や人的協力者も望めそう
- 社会人リーグへの参加など
- ・まだ連携したいという話がチーム内で出ていませんのでこれから検討します。
- ・情報共有を増やしてほしい。
- ・合同練習をさせてくれる健聴者のチームがあると嬉しいと思います。
- ・選抜チームへのユニフォームの貸与
- 地域リーグのホーム開催
- ・県サッカー協会加盟を望む
- ・練習への参加や大会の応援等。

3. 地元 J リーグクラブと連携したいこと、または一緒に何かをできるアイディアがあれば、教えてください。(自由回答)

<回答(抜粋)>

- ■ホームゲーム時に障がい者サッカーのPR
- ・ホームゲーム時 (試合前のイベント含む) の体験会や PR の実施
- 前座試合の実施
- ホームゲームでの試合前やハーフタイム等での告知
- ・障害者を知らない人や障害者がサッカーをしていることも知らない人が多い。その状況の中で、障害者 サッカー選手は、世間に自分が障害者であることを知られたくない人も多い。普及活動がなかなか進まな い理由の一つである。どんな人でもサッカーが楽しめる環境を作っていく為に、例えば J リーグの試合前 に積極的にクラブが障害者サッカー選手や障害者と交流できイベントを行って、交流するモデルケースを 見せてもらえ普及活動が進んでいくと思われる。

■イベントの開催

- 大会やイベントの共催
- ・体験会の実施
- ・地元Jリーグクラブ主催の公式戦、大会の実施
- ・地元」リーグクラブ主催のイベント開催
- ・Jリーグクラブ、パートナー企業と合同でのイベント開催

■練習会、サッカー教室

- ・サッカー教室の開催
- ・障がい者・健常者問わない形でのサッカースクールの開催
- ・継続して行う練習会など当事者への支援もお願いしたい。
- ・プロの世界を知る方の出前講座(当事者優先だが地域住民も参加できることとする)など地域でも開催 してもらえるとありがたい。

■交流機会

- ・選手との交流会
- ・Jリーグ試合観戦への招待
- ・選手の講話等を通した交流
- ・年1回でも良いので、選手・コーチが実際に練習に参加し、一緒にプレーすることで、Jリーガーとプレー出来たことへの喜びや、練習参加へのモチベーションアップにつながると思います。
- ・J リーグ試合観戦への招待や J 選手からの試合前のモチベーションなどのメンタリティーについての講話
- ・地元「リーグクラブと試合やサッカークリニック的なことが出来ると良いなと思います。
- ・ユース世代への、体験会
- ・精神科病院への慰労訪問

- ■障がい者サッカーチームの運営、チームへの支援等
- ・」リーグクラブ内に障がい者サッカーチームやスクールの設立
- 」リーグクラブがそれぞれチームを傘下に入れること
- ・下部組織に、障がい者サッカーとしての区別なく、1つのカテゴリーとして持つことを各地元Jリーグに義務付けるというのも、将来的に面白いかもしれません。
- ・」リーグクラブの影響力や専門性を生かし、運営に協力していただけるとありがたい。
- ・クラブチームのユニフォームを着て大会の開催
- スポンサーの紹介
- ・活動場所の確保や資金面での支援があれば非常にありがたい。

■指導者派遣等、強化面

- ・コーチ派遣
- ・定期的な指導者の派遣
- ・Jリーグクラブ選手たちからの指導
- ・技術的な指導や練習メニューの紹介。

■普及

- 普及活動
- ・一歩が踏み出せずにいる選手(当事者)の発掘を兼ねたイベント
- ・選手発掘のための宣伝をお願いしたい。
- ・」リーグクラブのIPでの紹介
- ・地域イベント開催による啓蒙活動
- ・学校訪問、大会やイベントヘゲスト出演 (解説や交流など)

■」リーグクラブの障がい理解

- ・選手・スタッフ向けのブラインドサッカー研修
- 手話を覚えていただきたい
- ・Jリーグクラブ向けの当事者による講演

■その他

・Jリーグ百年構想をもとにした共同作業。

4. 障がい者サッカーが今後更なる発展をするうえで、何が重要・必要だと感じますか。具体的なご意見があれば、教えてください。(自由回答)

<回答(抜粋)>

■選手・スタッフの発掘・育成

- ・選手・スタッフの人材確保
- ・選手育成・スタッフ育成
- ・プレイヤー数の増加、競技力の向上
- ・競技人数やチーム数の拡大
- ・技術力・競技力の向上と健常者が選手として参加できる環境整備
- サポートスタッフの充実
- ・指導者の育成、指導者の障がい理解の促進
- ・障がい理解とサッカーに関する専門性を併せもったスタッフの増加
- ・ボランティア人員の確保
- ・健常者の参加(一緒にプレーすること)は、バスケットボールを見ていて発展につながると感じている。
- ・他チームのスタッフは競技やルール知識不足により選手の怪我が多いので、今後なにかしらの講習会を 開きたい

■情報発信、広報 PR

- ・障がい者サッカーへの理解または知名度を高めること
- ・スポーツとしての魅力の発信
- ・とにかく知ってもらうこと、魅力も課題も
- ・情報発信ツールと専門家よるブランディング
- ・情報発信出来る環境整備。
- ・地元テレビ、新聞社、ラジオなどメディアでの露出も必要と思う(見世物にならないような配慮も必要)
- ブームを一過性のものにしないこと。
- ・幅広く活動していることを、多くの人に知ってもらう事。特に障がいを持ってない方に。
- ・興味関心がない人にも魅力を知ってもらい、人的、金銭的サポートが整うこと。
- ・普及啓発。日常的に普段の生活の中で組み込まれていく事が大切だと思います。
- ・各々で行なっている活動の情報発信をし、知見を広げる。参加者の増加や情報交流の機会に繋がるので はと考える。
- ・スポーツ番組などの出演
- 試合のテレビ放送
- ・JFA 機関紙でのページ数増加。サッカー週刊誌も同様
- メディアに取り上げられるように働きかける
- ・一般の方に観戦して頂けるような大会の宣伝
- ・社会理解を深めるイベントの開催などが必要だと思います。
- ・一般の方の理解が深まること。
- ・障がい者サッカーに対する地域・関係者への周知と理解が必要だと思う。
- ・メディアや SNS を駆使して競技自体を知ってもらうことが大切だと思います

- ・パラスポーツこそしっかりビジネス化して障がい者の雇用や収入になるようになっていくのが今後さらなる発展に繋がるのではないかと考えます。
- ・「障がい者サッカー」がどういうサッカーなのか、どういう大会があるのかなど、もっとアピールする事が必要だと思います。 J リーグなどと協力し、メディアを使って広めていければ。
- ・知名度を上げること、各県で大会やイベントを頻繁に行わないと何も始まらない。チームだけの努力に は限界がある。

■インクルーシブな場づくり

- ・障がい者というくくりではなく、いろんな選手が混ざり合うチームでの交流試合等。
- ・障がいサッカーは7種目ありますが、一緒に全種目の選手が集まって「サッカーを楽しむ」全国大会的なイベントを継続して行う。
- ・障がいの有無に関わらず、ユニファイドのようなみんなが楽しめる環境(場所)配慮。
- ・健常者のサッカー環境は多いので、そこの指導者にいかに受入等知ってもらうかが重要である。障がい者だけで構成されるチームは厳しいので、相互理解が、重要となると考えます。
- ・障がいの有無に関係なく、サッカーという枠組みで運営を行う
- ・健常者も参加できる大会もあっていいのかなと思う。

活動資金の調達

- ・金銭面による負担の軽減
- ・競技を続けるうえで経済的負担を少しでも軽減すること。現状では生きていくことが優先される。
- ・資金面を得るためにはどうすべきかが課題である。現状自腹を切ることが多く、日本代表に行きたくて も行けない現状。家庭での負担等。覚悟の部分で躊躇する。
- ・活動費に困ることが多いため、資金確保の勉強会を開催するなどして、知識をつけていくこと、そのノウハウを共有すること。活動周知の機会についても必要性を感じます。

■競技環境の整備

- ・障がい者が活動できる場所、どの障がいでも利用ができる場所の確保
- ・サッカーができる場所を定期的に使用できるところを確保できたらよいと思います。
- ・参加しやすいレベルの場の提供
- ・練習場や、障がいのカテゴリーを問わず、選手が集まれる場所があると良い。
- ・障がい者も健常者と一緒に利用できる施設などを増やしてもらえると、地域の方々の目に触れてより普及活動や理解を深めるためにも良いかと思います。
- ・施設面の優遇措置
- ・電動車椅子サッカーのため、多数の充電場所の確保(充電する台数が限られている)
- ・どんな障がいを持っていても、やりたいと思えばすぐに始められる環境づくり、また、当事者や家族らに自分にもできるサッカーがあるということを知っていただき、選択肢として持っていただくこと、そのための普及活動が重要だと思います。
- ・一番は競技を行う環境だと思います。競技を行う施設なりグラウンドなりが、バリアフリーで且つ選手が思い切ってプレーを出来る環境と場所の確保。そして、競技を行う選手に対し、必要な経済的支援。
- ・運営母体に有給スタッフを置き、情熱のある方に専従で競技の発展に努めてほしい。
- ・各都道府県で運営・競技者等の差が大きいので、まずは、こういった情報収集から、長い目での発展へ

向けた動きに期待します。

- ・専門的な人材や公共団体、民間企業からの活動援助
- ・冷暖房完備されている体育館の練習場所が必要
- ・人材の発掘と練習会に参加するための移動支援など
- ・特別支援学校以外の一般小中学校のサッカークラブの受け入れ態勢の充実と教員の理解で、子ども年代 のサッカーへのかかわりがかなり違ってくると思います。
- ・皆の可能性を示すことができれば。競技志向だけで押すとエンジョイ志向の人が離れる、エンジョイ志向で押すと競技志向の人が他競技へ行ってしまう。双方に、楽しめ取り組める工夫ができれば(ただし、そのためにはやはりある程度の競技人口が必要)

■サッカー界での連携

- ・多くの指導者に知って頂き、また実際に見て体験する時間を設ける。
- ・7つの障がい者サッカーの競技や対象選手の特徴を理解し、身近にそういう選手の情報があれば、指導者から都道府県協会へ情報として上げる。その選手にあったサッカーができる環境へとつなぐ。コーディネートの役割をしてもらう。
- ・各チームの代表者だけでも構わないので、情報交換をする機会を作って欲しい。
- ・協会やクラブとの連携。活動を体制化していくこと。
- ・まず現在の活動を継続する事。そして人と人がサッカーを通じて相互に繋がる事。その過程で相互に協力や助け合って活動して行く事。
- ・現在はパラリンピック催間近であり注目が集まっているが、その後もしっかりと横(障がい者サッカー 団体)と縦(JFA、JIFF)のつながりをもつこと。
- ・それぞれの障がい者スポーツチームは地道に活動を続けていると思います。ただ活動を続けていく時に問題にあたることも多くあります。そういった時に、サッカー協会や J リーグチームなどの大きな団体に対して気軽に相談できる関係があると、小さいところですが障がい者サッカーの発展につながるのではと考えています。
- ・フットサル界の問題点を健常者と障がい者と一緒になって話し合って解決することだと思います。
- ・他団体との連携(障がい者サッカー協会が各都道府県にできると横のつながりができる)
- ・障がい者サッカー協会の各チームへの指導及び協力体制を築いていくことで、各チームの組織力が向上 し、また協会による各チームの状況把握に繋がるのではないかと考える。
- ・障がい者サッカーの7団体がもっと密に交流して、共に競技の普及と認知を深めるイベントの実施など 一体感を持って、チームとして動いて行くことが必要である。お互いの長所と短所を分析して、それぞれ の長所を取り込んで各団体が活動していければ、競技の発展につながっていく。
- ・各地域で活動(交流会)を推進すること
- ・各地域のサッカークラブとの交流 (試合はもちろんレクなどの交流会)

■選手・関係者の主体性

- ・当事者が主体的に動くこと。
- ・自分たちで発信できるようにしていかなければ続いていかない。
- ・障がい者チーム自らの啓蒙活動と活動の継続。
- ・マスコミ・メディアへの露出。選手が本気で普及に努めること。

■多方面の人との交流、連携

- ・企業との連携(雇用など)
- ・障がい者サッカーの関係者以外との交流
- ・試合をしながら、または試合が終わった後で広く一般との意見交換や話し合いの場が必要(サッカーイベントをして終わりではなく)。

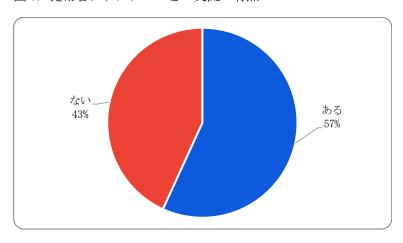
■その他

- ・各障がい者団体のヴィジョンの明確化。
- ・JFAと一緒になることが必要。
- ・」リーグのクラブが、障がい者サッカークラブを下部組織としてもつ。
- ・スペインリーグは、ラリーガからトップダウンで、障がい者サッカーチームを全チームに作るように知らせを出し、交流戦を行っている。
- ・日常生活との連動 (QOLの向上)
- ・競技引退後の関わりの継続(役割・居場所・指導者としてなど)
- ・魅せる競技へのルール改善
- ・選手個人が企業スポンサーとの契約
- ・特別支援学校などの授業など公的なスポーツとして取り組んでもらうこと。スポンサー協賛いただきつつ、アピールを多くできるスポーツになるかどうかなど。

交流活動(健常者クラブチーム、他競技のクラブチーム)

1. 健常者クラブチームとの交流の有無 「健常者クラブチームと練習、試合等の交流、トレーニングをすることはありますか。」

図8. 健常者クラブチームとの交流の有無



(n=132)

 \coprod

健常者クラブチームとの交流は、「ある」が 57%で、「ない」が 43%であった。半数以上が「健常者クラブチームとの交流がある」という結果となった。

2. 健常者クラブチームとの交流を実施している場合、その目的、頻度、内容を教えてください。(自由回答)

<回答(抜粋)>

■チームの強化のため

- ・4ヶ月に1度くらい。強度の強い試合の実施。
- ・大会前のトレーニングマッチの相手として、知り合いのチームにこちらのルールに合わせてもらい、年 2~3回程度。
- ・練習試合を行い、練習したことを試す場
- ・高いレベルのなかでやりたい。レベルアップのため自主的に参加するメンバーがいる。
- ・当チームで主催している大会への招待や他の一般チーム主催大会への参加。目的としては、チームのレベルアップや地域の人との交流など。頻度としては半年に1回程度。
- ・年に1回くらい。目的はチームの強化、障がい者サッカーを知ってもらうため。内容は合同練習と試合。
- ・大会があるときに必要に応じて練習試合の実施
- ・不定期でトレーニングマッチを開催
- ・毎月2~4回のトレーニングマッチ
- ・全国大会前の、練習試合として、年1回程度行っています。
- ・試合前などに技術向上のため(年数回)
- ・チームの強化のため月に1回
- ・より質の高いレベルでのプレーの機会を作るという目的で、健常者のリーグ戦への参加で年に4~5試合を行なっています。

■人数の確保のため

- ・練習人数の確保、交流試合。頻度は半年に1回程度
- サッカー経験者とのゲームを年に3回程
- ・主に当事者のみで練習会を成立させる事が難しいので、時に健常者も交えて練習している。また個人的な人の繋がりを大切にするため。
- ・目的は、人数が少ない中での合同練習。月1回。ミニゲーム形式。

■障がい理解、相互理解

- ・障がいの理解を深める活動と、同じサッカーチームとしての交流のために行っています。健常者の方は、 ウォーキングサッカーを行って頂いて対戦して頂いております。頻度は月イチ程度です。ただし場所がないので、確保出来た時にお願いしています。
- ・障がいの理解を深めてもらう
- ・障がいのチームであることを公表しつつ、一般の大会に年数回参加しています
- ・地元社会人フットサルチーム(男性2チーム・女性1チーム)と交流する機会を持っている。機会があれば誘い誘われ(ラインで)練習へ参加させてもらっている。当チーム監督から障害者チームであることを説明し、受け入れてくれたチームのみ参加している。月1~2回程度でゲーム中心の内容。
- ・ノーマライゼーションのために交流大会を実施(年1回ほど)
- ・障がいの枠だけに留まらず、一般の中で当たり前にスポーツができることが大切かと思っています。

- ・だれもが参加できるイベントへの積極的な参加を目的で、障がいのない人たちへのサッカー教室に当クラブ選手が一緒に参加しています。
- ・助けあう、支えてもらうから支えるという立場の理解を目的で、地元のマラソン大会などでボランティ ア活動としてイベントお手伝いをしています。
- ・相互理解と、技術向上のため。半年に1回程度。合同練習とトレーニングマッチ。

■その他

- 年に数回。障がい者と健常者が参加するフットサル大会など。
- ・毎月最低1回、当チームが障がい者と一般の混合チームなので頻度は多い。
- ・健常者に合わせたルールで行うことで、一般社会に適応していくことを目的にする。
- ・感謝の気持ちを持つという目的で、クラブ主催のお世話になった皆様を招待してのイベントの開催をしています。
- ・選手としてだけでなく指導者になるという可能性を高めるという目的で、子どもたちのサッカー教室に、 コーチ補助として当クラブ選手が手伝っています。

3. 健常者クラブチームとの交流が実施したくても実現できていない場合、障壁になっていることがあれば教えてください。(自由回答)

<回答(抜粋)>

■接点がない

- チームがあることを知らない。どう関わっていいかわからない
- 知られていない
- ・一般チームでも障がい者チームでも「いつ、どこで、どのレベルで」やっているか不明。お互いの情報量の少なさや興味のある人がどこに聞けばいいか不明。
- ・病院のなかで実施しているため、他のクラブチームとの交流はまだできていない。
- あまり会う機会がない
- ・健常者クラブチームと練習や試合等の交流をする機会がないことです。
- ・関りを持つ機会が殆どないが今後増やしていきたい。
- ・なかなか体育館が取れず試合などの交流がなかなかできない。

■費用負担

- ・民間の大会には費用が工面できない人がいる。
- 時間とお金がない。

■障がい特性や競技特性

- ・運動機能に差があるため、常連の方はスムーズであるが、運動習慣を目的としている観点があるため、 あまり本気でゲームをするのが難しい。
- ・電動車椅子の操作が難しく試合まで行うことは難しい。

■障がい理解、偏見

- ・相手側のある程度の障がいへの理解(「ある程度」で良いので)
- ・精神障がいに対する偏見

■人数が揃わない

- ・以前はあったがここ1年はない。人数が揃わないため。
- ・メンバーが働いているため人数の確保が難しい

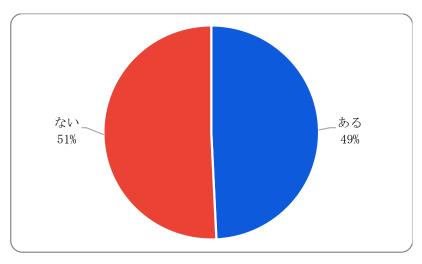
■その他

- どう行えばいいかがわからない
- ・一般の競技団体が活動する時間と合わない。
- ・適切な会場がない。
- 年齢層が高いため試合組むのも難しい
- ・選手間の意識のずれもある
- ・大学生とは体験会を行うが試合をということについては抵抗を感じる。
- ・大会もイベントもマンパワーが足りずなかなか行えず、健常者のチームになかなか認めてもらえない。

4. 他競技のクラブチームとの交流の有無

「他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流はありますか。」

図 9. 他競技のクラブチームとの交流の有無



(n=132)

他競技のクラブチームとの交流は、「ある」が 49%で、「ない」が 51%だった。「他競技のクラブチーム との交流がある」チームは約半数という結果となった。 5. 他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流の機会がある場合、その目的、頻度、内容を教えてください。(自由回答)

<回答(抜粋)>

■イベント等への参加や実施

- 体験会やイベントなどで一緒になる程度
- ・スポーツイベントでの体験会で交流があります。
- ・競技の普及と競技レベルの向上を目的としたイベント。不定期の実施。
- ・まぜこぜサッカーを年に1回やっており、参加しています。
- ・障がい者スポーツのイベント等で交流があります。頻度としては年数回で、内容としてはお互いの競技 を体験・見学させてもらっています。他競技の選手とは連絡先の交換も行っています。
- ・体験会での交流、交流会(食事会)の実施
- ・体験会などで他スポーツ(ボッチャやシッティングバレー)を一緒にする機会がありましたが年 1~2 回程度です。
- ・全障がい種別の参加できるフットサル大会に年に1回参加

■意見交換や知見の拡大

- ・横のつながりを多く持ち規模が小さいクラブとして広がりを持ちたかった。お互いに参考にしていける 環境を持ちたかった。
- ・意見交換、不定期、練習参加

■チームの強化

- ・週1回の練習会を実施するチームとは別に、練習会に参加するメンバーを中心に選抜チームを結成し、 技術の向上を図っている。頻度は月に一回。その中で、他県への遠征にてリーグ戦を行っている。
- ・強化の一環。健常者チームでもできるチームは少ないためお願いすることはある。
- ・公式試合に向けた強化のため。
- ・チームの強化。年1回。トレーニングマッチ。
- ・相互理解と、技術向上のため。半年に1回程度。合同練習。

■その他

- ・他障がいで頑張っている選手を見て、実際に一緒にプレーして勇気をもらっている。
- ・お互いのチームのPRと、選手スタッフ同士の交流
- ・練習人数の確保、交流試合。頻度は数ヶ月に1回程度。
- ・バスケットボールとの合同練習。指導者が同じという事もあり、手を使った位置確認の練習にもなり、 また、バスケットボールだったら好き、逆にフットサルだったら好きという事で人数が集まり、他競技の 体験も可能で、予約した施設利用も調整出来るようになった為。
- ・他障がいチームからの声かけによる。年1回程度。増やせたら良いがなかなか人数も揃わない。
- ・チーム同士の交流はありませんが、他の障がいのスタッフや選手が参加したり、見学に来ています。
- ・交流というより日常的に一緒に練習。
- ・障がい者サッカー7団体のイベントがあるのでそこで交流し、その後試合を見に来ていただいた。

6. 他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流の機会を持ちたいが出来ていない場合、どのような ことが障壁になっていますか。(自由回答)

<回答(抜粋)>

■余裕がない

- ・個々のチーム運営で手一杯であり、交流の調整や準備をする余裕がない。
- ・連絡先を知らない。(調べてない) いまは自分のチームをどう強化するかで精一杯。
- ・ツテがない事やスタッフが少ないため今以上の負担を強いる事になり、スタッフが疲弊してしまう結果 になる事。
- ・団体の歴史が浅い事と自身の運営能力が乏しい為に、他の障がい種目や他競技の団体と交流の機会が得られていない。
- ・練習ばかりに目があっているのが原因です。またその機会に対して無関心なことも一つの原因としてあると思います。これもチームとしての改善点として考えていきたいと思います。
- ・繋がりはあるが、競技としては運営側にその余力なく、練習機会を選手と設けるので手一杯。
- ・組織化されていない面もあるが、調整役が欲しい。
- ・現時点ではチームの活動だけで手いっぱいな状況。
- ・スタッフの時間的な余裕がない。
- ・練習時間が少ない

■情報がない

- ・選手同士、スタッフ同士の情報交換
- お互いの情報量の少なさやスケジュールの問題
- ・他の障がい者団体を知りえていない
- ・県の人口が少ない為、活動団体を探すのがなかなか難しいです。
- ・他障がいのある方のチームを知らない。
- ・県内にどのようなクラブがあるか把握できていないこと。
- ・ 他の競技の認識不足
- ・現状では県内での障がい者サッカーの現状が分からないため、まずは情報収集、交流から始めていく必要がある。

■場所やタイミングがない

- ・両方の障害者にとって使いやすい場所が無いです。駅から遠く車に乗れる障害の人のみしか参加できないや、場所の予約が取れない。価格が高くて借りられない等です。
- ・タイミングが合わないのみ(選手の仕事や他イベントや大会参加で)
- ・互いのチームとの連絡が取れない。交流をとる「場所」の確保ができない。
- 日程調整や時間の確保。
- 日程が合わない

■接点がない

イベントなどが少ない

- ・イベント以外で会う機会がない
- ・近くにチームがないため行う機会がない
- ・交流する機会がないことです。
- ・イベントで一緒になったことがあるが、個々の団体と交流はなし。7 団体が交流する機会を増やしてゆく必要がある。
- ・他障がい者サッカーチームとの繋がりが無い為
- ・主に他の団体の窓口とコンタクトが図れていないので、まだ交流の始まりそのものが始まっていない。
- まだ話を持ちかけていない。

■その他

- ・現時点では明らかな障壁は感じないが、相互に自身の団体の活動や発信を続ける必要があるのではと強く感じる。
- ・相手を尊重する・思いやる気持ちを持って活動して行けば、どこかで繋がりが芽生えるのではと考えています。
- ・必要性をあまり感じていない
- ・在住県がバラバラのため。
- ・意見交換する場がない。連携したいが、それぞれ自分のからにこもりがちではないかと思う。
- ・近隣にチームが無い。
- ・相手側の理解不足、認知度不足

(3) 調査結果②

7 競技団体別障がい者サッカーチームに対する調査結果

チーム活動(時間・場所・費用)

1. 練習頻度

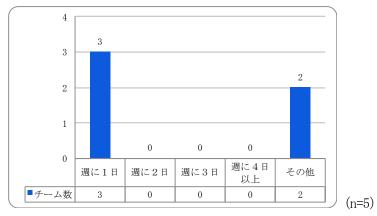
Ι

「平均して1週間にどれくらいの頻度で練習していますか。」

8割以上の割合で7競技全で練習頻度が週1日以下で、競技による差異は見られなかった

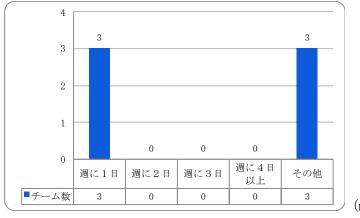
7 競技団体全てにおいて、「週に1日」と「その他」の回答が上位2つを占めた。また、「その他」の具体的な回答では、「月に2日程度」が33 チームで最も多く、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルとソーシャルフットボールの各1回答を除き、「月2、3回」の頻度を超える回答は見られなかった。アンプティサッカーでは5 チーム(100%)、CP サッカーでは6 チーム(100%)、ソーシャルフットボールは46 チーム(90.1%)、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルは21 チーム(84%)、電動車椅子サッカーでは17 チーム(89.4%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは15 チーム(83.3%)、デフサッカー/デフフットサルでは7 チーム(87.5%)のチームが週1日以下の練習頻度であり、競技間での大きな差はみられなかった。

図10. アンプティサッカーチームの回答



「その他」の回答は、「月に1日」、「月に2~3日」がそれぞれ1チームあった。

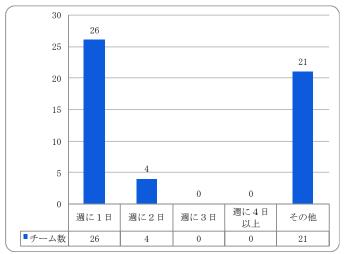
図11. CP サッカーチームの回答



(n=6)

「その他」の回答は、「月に2日」が2チーム、「月に1日」が1チームあった。

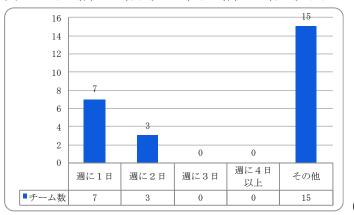
図12. ソーシャルフットボールチームの回答



(n=51)

「その他」の回答では「月に2日程度」が10チームで最も多く、次に「月に1日」が5チームあった。

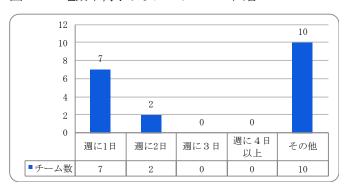
図13. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答



(n=25)

「その他」の回答では、「月に2日」が8チームで最も多く、次に「月に1~2日」が3チームあった。

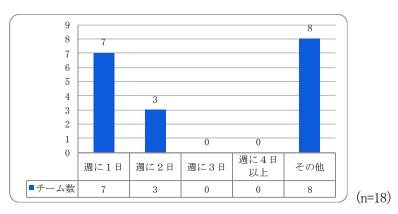
図14. 電動車椅子サッカーチームの回答



(n=19)

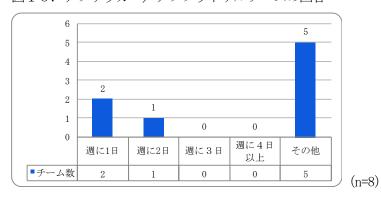
「その他」の回答は、「月に 2 日」が 6 チームで最も多く、次いで「月に 1 日」が 3 チーム、「月に 2~3 日」が 1 チームあった。

図15. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「月に2日程度」が7チームと最も多く、1チームは「年数回」だった。

図16. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



「その他」の回答では、「月に 2 日程度」が 3 チームで最も多く、「年に一度」と「年間に 3~4 回合宿を実施」が 1 チームずつあった。

2. 練習場所

「普段どこでサッカー・フットサルのチーム練習をしていますか。」(複数回答可)

競技による差異が見られた

それぞれ最も多かった回答は、アンプティサッカーでは5チーム(100%)が「民間スポーツクラブ(フットサル場、企業施設など)」、CP サッカーでは6チーム(100%)、電動車椅子サッカーでは12 チーム(63.1%)が「障がい者スポーツ施設」、ソーシャルフットボールでは27 チーム(52.9%)が「障がい者スポーツ施設以外の公共施設(市民体育館など)」、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルでは19 チーム(76%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは13 チーム(72.2%)が「学校/教育機関」、デフサッカー/フットサルでは4チーム(50%)が「河川敷/公園」となった。

0 民間ス スポーツ ポーツク 障がい者 スポーツ 病院/医療・福祉 施設以外 ラブ 学校/教 河川敷/ その他 (フット の公共施 育機関 施設 設(市民 サル場、 関係施設 体育館な 企業施設 など) ■チーム数 0 (n=5)

図17. アンプティサッカーチームの回答

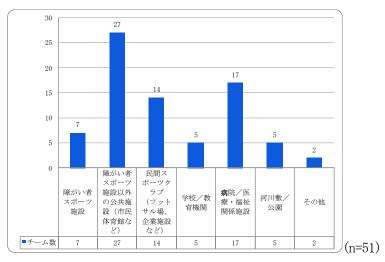
「その他」の回答は、「小学校跡地」があった。



図18. CP サッカーチームの回答

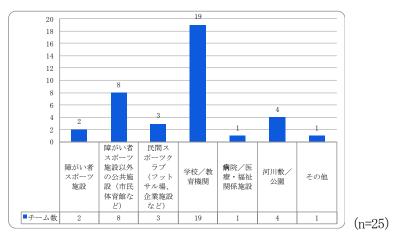
(n=6)

図19. ソーシャルフットボールチームの回答



「その他」の回答には、「廃校」、「Jリーグクラブの練習場」があった。

図20. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答



「その他」の回答は、「法人施設内」があった。

図21. 電動車椅子サッカーチームの回答

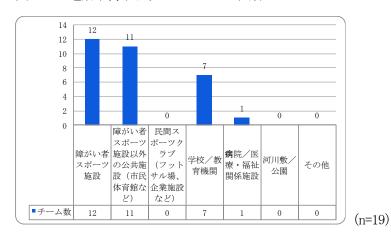
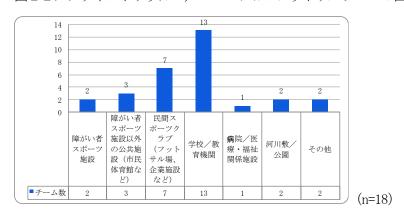
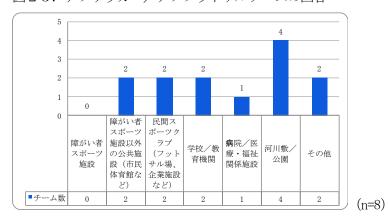


図22. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「公共施設」、「法人体育館」があった。

図23. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「会社のグラウンド」、「チーム練習なし」があった。

3. 競技活動における支障

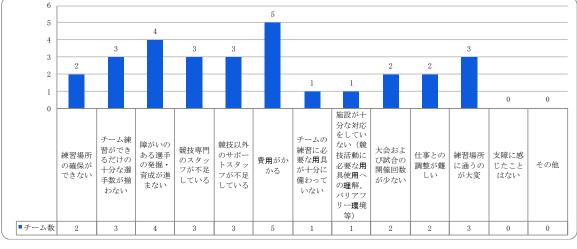
「競技活動をするうえで、支障となっていることは下記の項目の中にありますか。」(複数回答可)

競技による差異が見られた

それぞれ最も多かった回答は、アンプティサッカーでは5チーム (100%)、ソーシャルフットボールでは 26 チーム (50.9%) が「費用がかかる」、CP サッカーでは 4 チーム (66.6%) が「障がいのある選手の発掘・ 育成が進まない」、「選手以外のサポートスタッフが不足している」、「仕事との調整が難しい」、知的障がい 者サッカー/知的障がい者フットサルでは13チーム(52%)が「練習場所が確保できない」、電動車椅子サ ッカーでは13 チーム(68.4%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは17 チーム(94.4%)が 「障がいのある選手の発掘・育成が進まない」、デフサッカー/フットサルでは8チーム(100%)が「チー ム練習できるだけの十分な選手数が揃わない」となった。

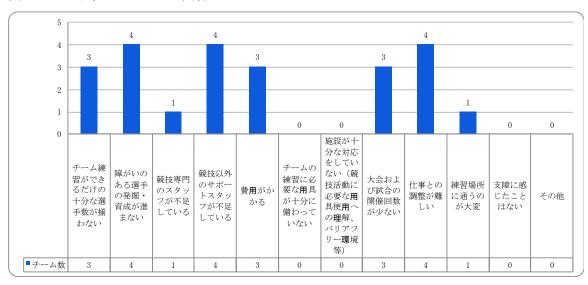
4 3

図24. アンプティサッカーチームの回答



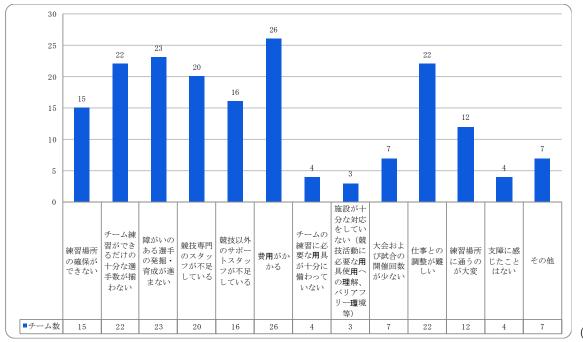
(n=5)

図25. CP サッカーチームの回答



(n=6)

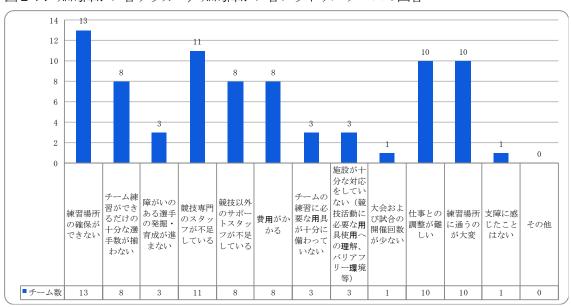
図26. ソーシャルフットボールチームの回答



(n=51)

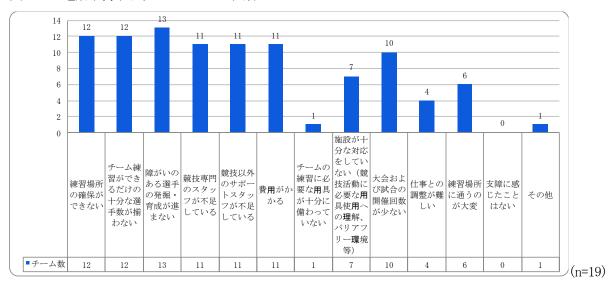
「その他」の回答では、「デイケアなので、ほかのプログラムがある」、「施設が中心で選手が増えないだけでなく、施設の休業日に動けるスタッフが乏しい」、「病院で実施しているため、対外試合や交流会への出場にはいくつかの条件や制約が必要となる」、「監督がいなくなったらチームとして存続が難しい」、「練習試合などの相手が少ない」、「遠征時の交通費の確保が困難。交通費が支払えず大会に参加できない選手もいる」、「近隣にフットサルに対応している体育館がない」があった。

図27. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答



(n=25)

図28. 電動車椅子サッカーチームの回答



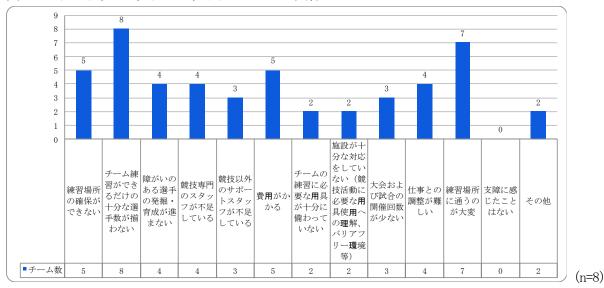
「その他」の回答は、「選手自身の体調」だった。

図29. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答



(n=18)

図30. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「遠距離からの交通費等の自己負担が大きい」、「グラウンドは紹介(案内)してもらえるが、体育館等屋内のほとんどがサッカー環境を整えていないので使えない、柔らかいボールでも断られる」があった。

5. 選手発掘および普及の取り組み

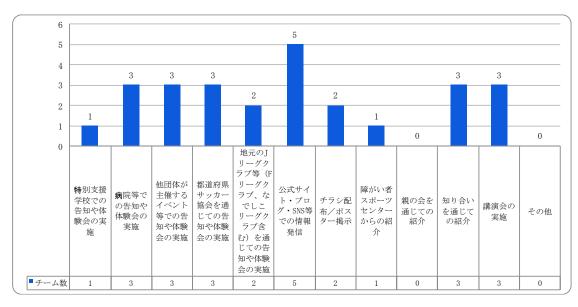
「選手発掘および普及のために取り組んでいることがあれば教えてください。」(複数回答可)

競技による差異が見られた

ソーシャルフットボールと知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルを除き、「公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信」が最も多い回答となった。

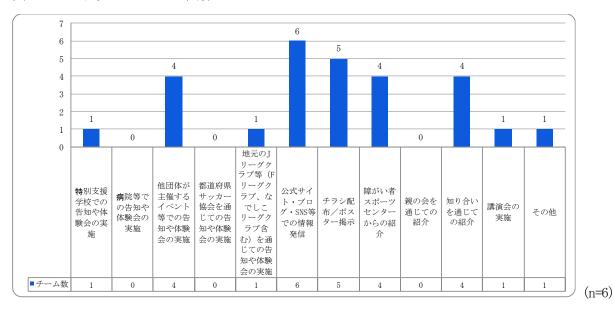
それぞれ最も多かった回答は、アンプティサッカーでは5チーム(100%)、CPサッカーでは6チーム(100%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは15チーム(83.3%)、デフサッカー/デフフットサルでは6チーム(75.0%)が「公式サイト・ブログ・SNS等での情報発信」、ソーシャルフットボールでは30チーム(58.8%)が「病院等での告知や体験会の実施」、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルでは18チーム(72.0%)が「特別支援学校での告知や体験会の実施」、電動車椅子サッカーでは12チーム(63.1%)が「公式サイト・ブログ・SNS等での情報発信」、「知り合いを通じての紹介」だった。

図31. アンプティサッカーチームの回答



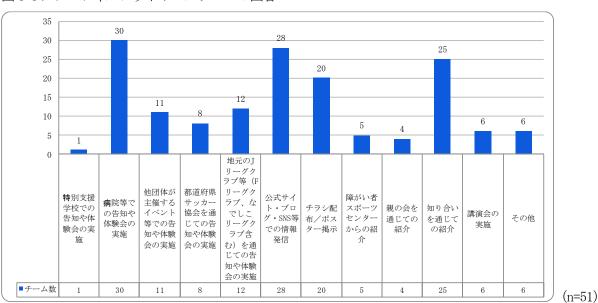
(n=5)

図32. CP サッカーチームの回答



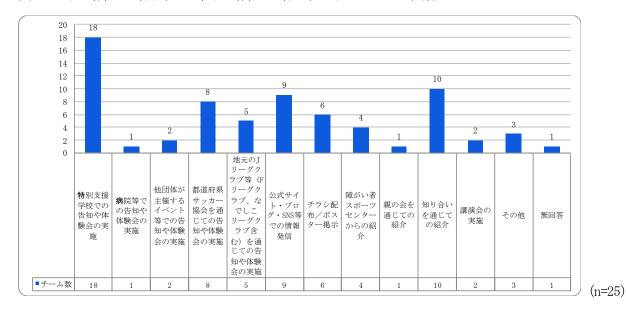
「その他」の回答は、「自主開催のイベントにて体験会やフレンドリーサッカー大会を実施」だった。

図33. ソーシャルフットボールチームの回答



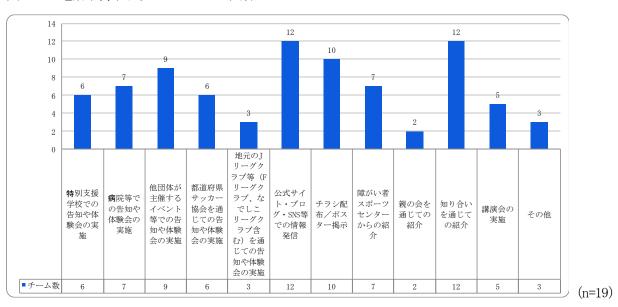
「その他」の回答では、「デイケアメンバーの口コミ」、「診療所のデイケアのみのチームなので、デイケア 登録メンバーに声をかけている」、「実習生に練習相手になってもらっている」、「退院後及び外来にて処方 が出た利用者様で興味がある方への説明を行っている」、「地元の中学校と交流会」、「こちらから積極的な 介入はせず、スポーツ活動を積極的に取り入れていることを問い合わせがあれば伝える程度」があった。

図34. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答



「その他」の回答は、「卒業生への説明」、「新入社員の勧誘」、「日韓交流を通して U-18 の育成、スカウティング」があった。

図35. 電動車椅子サッカーチームの回答



「その他」の回答は、「直接、声をかける」、「TOKYO 障スポ・ナビへの掲載」、「特になし」があった。

図36. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答

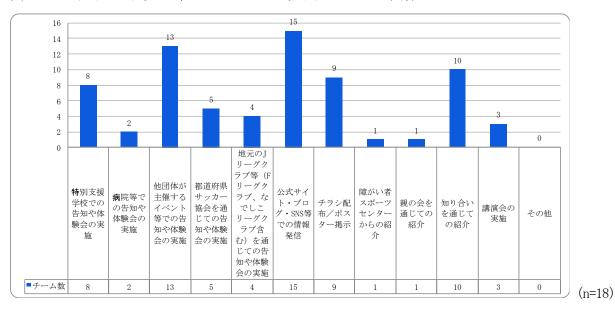
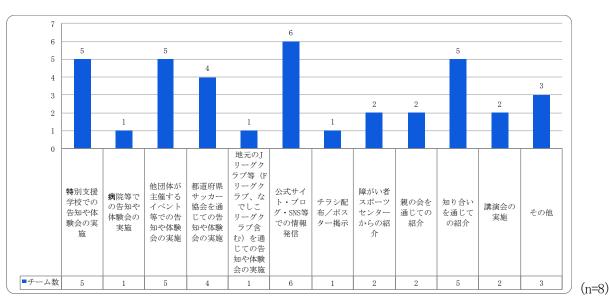


図37. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「新聞社に依頼」、「イベント」等があった。

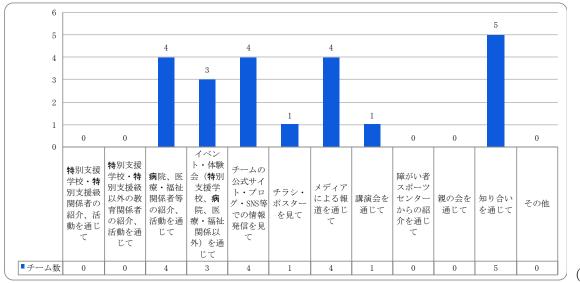
6. 現チームメンバーの加入経緯

「現在のチームメンバーは、どのようにチームに入りましたか。」(複数回答可)

競技による差異が見られた

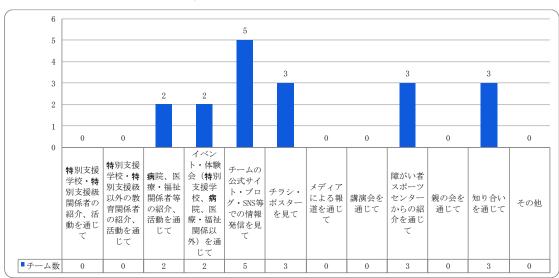
それぞれ最も多かった回答は、アンプティサッカーでは5チーム (100%)、電動車椅子サッカーでは13チーム (68.4%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは12チーム (66.6%)、デフサッカー/デフフットサルでは6チーム (75.0%) が「知り合いを通じて」、CPサッカーでは5チーム (83.3%) が「チームの公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信を見て」、ソーシャルフットボールでは44チーム (86.2%) が「病院、医療・福祉関係者等の紹介、活動を通じて」、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルでは21チーム (84.0%) が「特別支援学校・特別支援級関係者の紹介、活動を通じて」となった。

図38. アンプティサッカーチームの回答



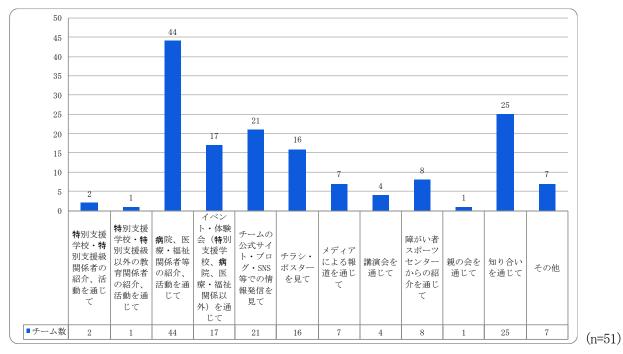
(n=5)

図39. CP サッカーチームの回答



(n=6)

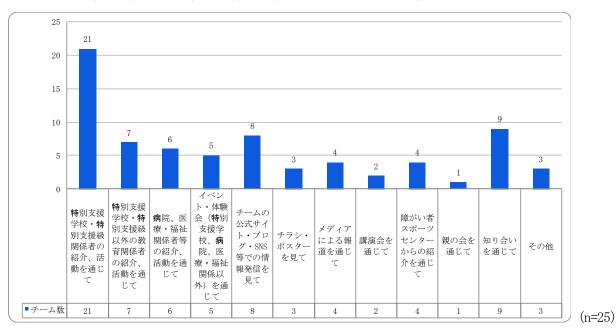
図40. ソーシャルフットボールチームの回答



「その他」の回答では、「職場からの紹介」、「ソーシャルフットボールを続けてきた過程での当事者の繋がり」、「退院後及び外来にて処方が出た利用者様で興味がある方への説明を行っている」、「当院リハビリテーションを利用した方」、「うつ病からの社会復帰施設を運営している会社の利用者、卒業生を対象としてメンバーを募集」、「たまたま当院のデイケアに登録したメンバーに声をかけて入った」「掲載された新聞記

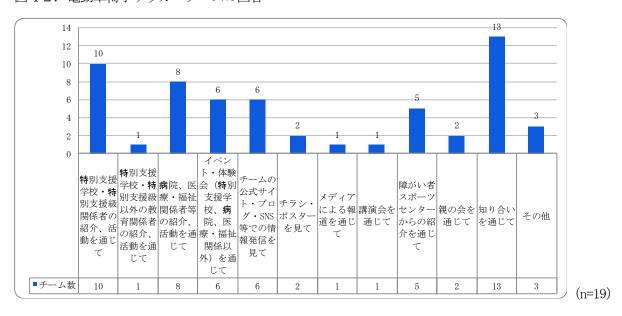
図41. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答

事を読んで」があった。



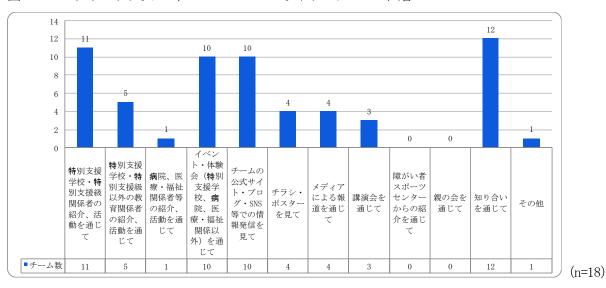
「その他」の回答は、「支援学校を卒業後に自分たちで発足」、「都道府県の知的障がい者サッカー連盟の HP を見て連絡」、「会社への新入社員を勧誘」があった。

図42. 電動車椅子サッカーチームの回答



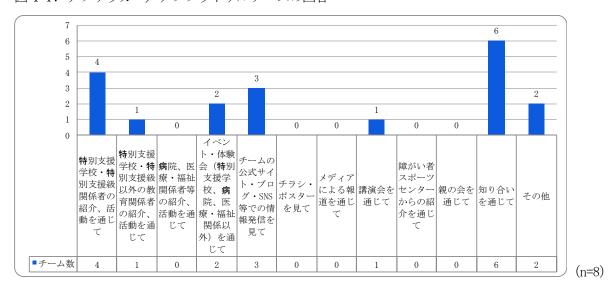
「その他」の回答は、「直接、声をかけて」、「懇願して」、「大会を観にきて」があった。

図43. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「母体が大学でその大学の学生が主に入る」があった。

図44. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「社会人になって、たまたまデフサッカーをしている先輩に誘われた」、「県内で働いている為」があった。

7. 活動資金

「活動資金はどのように得ていますか。」(複数回答可)

アンプティサッカーを除く競技では、競技による差異はみられなかった

それぞれ最も多かった回答は、アンプティサッカーでは4チーム(80.0%)が「スポンサー収入」、CP サッカーでは6チーム(100%)、ソーシャルフットボールでは33チーム(64.7%)、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルでは23チーム(92.0%)、電動車椅子サッカーでは19チーム(100%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは17チーム(94.4%)、デフサッカー/デフフットサル8チーム(100%)が「選手・スタッフからの会費」となった。

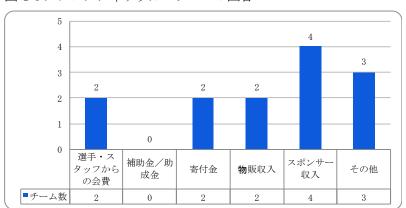


図45. アンプティサッカーチームの回答

「その他」の回答は、「講演会や体験会での講師料」が2チーム、「体験会の謝金などを選手スタッフから 寄付してもらっている」が1チームだった。

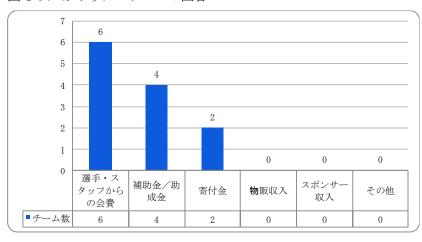
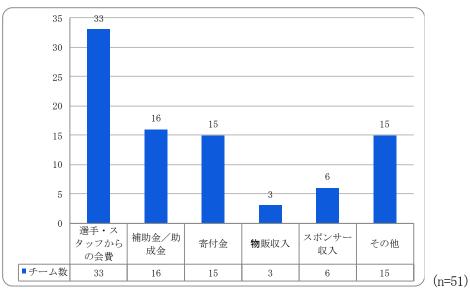


図46. CP サッカーチームの回答

(n=6)

(n=5)

図47. ソーシャルフットボールチームの回答

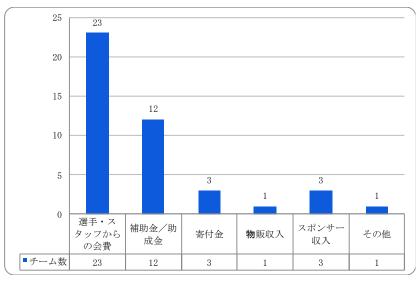


「その他」の回答は、以下の通り。

病院やクリニック、施設から(11 チーム)

練習・活動時に選手・メンバーから参加費や活動費を得ている(2チーム) 病院やクリニック、施設からと、選手の自己負担の両方(2チーム)

図48. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答



(n=25)

「その他」の回答は、「活動資金は、ほぼ0円。月会費を徴収しているが、バス代 などの遠征費、大会参 加費などに消える。スタッフもボランティア。用具等は学校の借用に甘えている」だった。

図49. 電動車椅子サッカーチームの回答

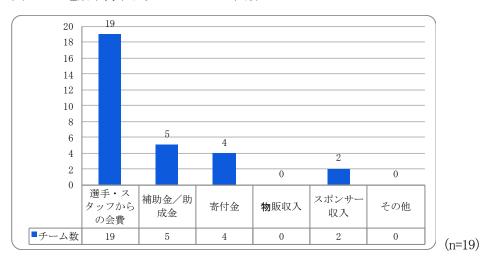
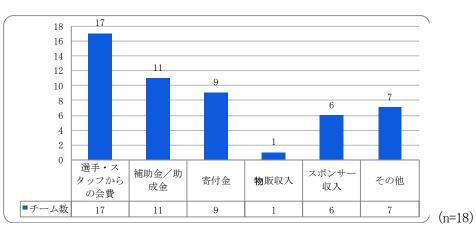
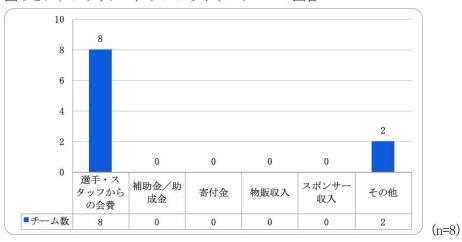


図50. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「体験会の謝金など」が6チーム、「協会からの寄付金分配」が1チームだった。

図51. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「合宿参加費」、「ほぼ自己負担」だった。

1. 都道府県サッカー協会、地元 J リーグクラブとの連携

「都道府県サッカー協会、地元 J リーグクラブ等 (F リーグクラブ、なでしこリーグクラブ含む) と既に連携して実施していることがあれば、教えてください。」(複数回答可)

競技による差異が見られた

それぞれ最も多かった回答は、アンプティサッカーでは3チーム (60.0%) が「都道府県サッカー協会を通じて告知や体験会を実施している」、「地元の J リーグクラブ等の試合やイベントを通じて告知や体験会を実施している」、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルでは10チーム (40.0%)、デフサッカー/デフフットサルでは3チーム (37.5%) が「都道府県サッカー協会を通じて告知や体験会を実施している」、CP サッカーでは3チーム (50.0%)、ソーシャルフットボールでは25 チーム (49.0%)、電動車椅子サッカーでは10チーム (52.6%)、ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルでは9チーム (50.0%) が「特になし/無回答」となった。

図52. アンプティサッカーチームの回答



(n=5)

図53. CP サッカーチームの回答

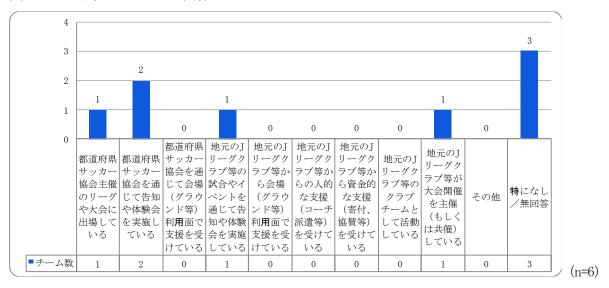
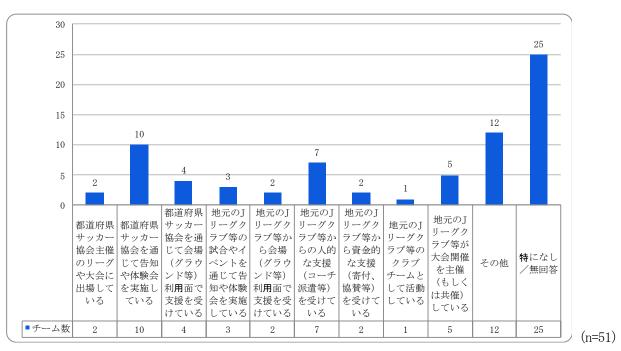
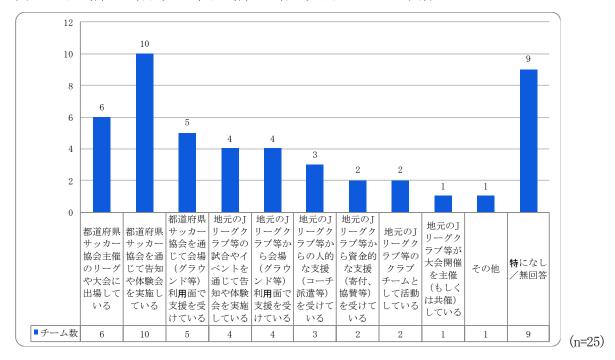


図54. ソーシャルフットボールチームの回答



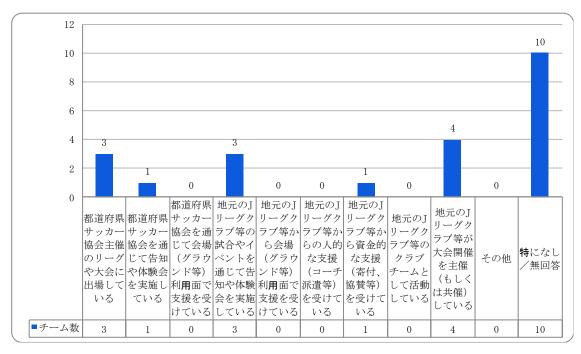
「その他」の回答では、「今後主催の大会審判を名寄サッカー協会に依頼」、「県・市サッカー協会のイベントに参加」、「チームで主催している大会を通じて地域のチームと知り合い、繋がりを持っている」、「都道府県サッカー協会からソーシャルフットボール大会・交流会の開催費・運営費の一部補助・支援を受けている」、「J リーグクラブとそのメインスポンサーと共催して大会開催している」、「県サッカー協会から地元開催のソーシャルフットボール予選会に審判を派遣してもらった」、「県サッカー協会からは大会の後援名義の利用で協力して頂いている。また、地元Fリーグクラブからは大会の際のフットサルクリニックの運営で協力いただいている。」、「年1回、交流会のコーチに来て頂いている」があった。

図55. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答



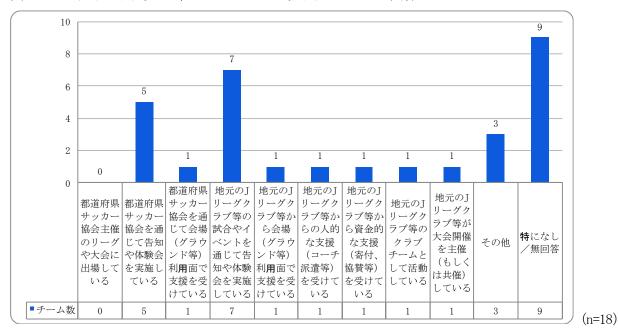
「その他」の回答は、「年に一度、地元」リーグクラブのホームゲームにおける前座試合を行わせてもらっている」だった。

図56. 電動車椅子サッカーチームの回答



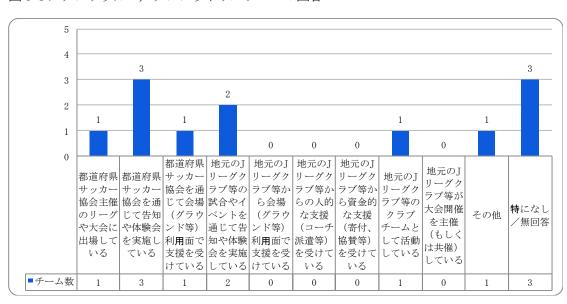
(n=19)

図57. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答



「その他」の回答は、「県サッカー協会内にある、障がい者サッカー特別委員会に参加し、体験会を開催するなどしている」、「地域リーグ会場にあっては後援・協力を得る」、「地元 J リーグクラブと一緒に事業を行っている(年1回程度)」があった。

図58. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



(n=8)

1. 健常者クラブチームとの交流の有無

「健常者クラブチームと練習、試合等の交流、トレーニングをすることはありますか。」

競技規則(一般のサッカー・フットサルとのルールの違い)による差異が見られた

一般のサッカー・フットサルと競技規則が似ているアンプティサッカー (100%)、CP サッカー (100%)、デフサッカー/デフフットサル (87%)、ソーシャルフットボール (71%)、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル (64%) では健常者クラブチームとの交流が多くあり、独自のルールが多くあるブラインドサッカー/ロービジョンフットサル (17%)、電動車椅子サッカー (11%) では交流が少なかった。

図59. アンプティサッカーチームの回答

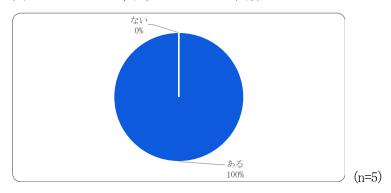


図60. CP サッカーチームの回答

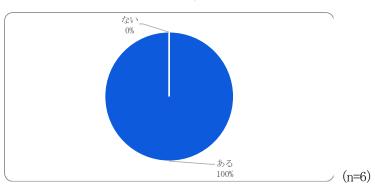


図61. ソーシャルフットボールチームの回答

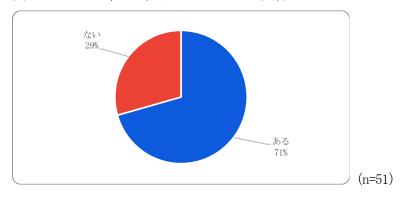


図62. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答

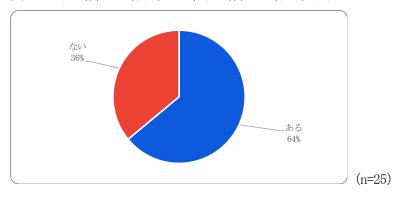


図63. 電動車椅子サッカーチームの回答

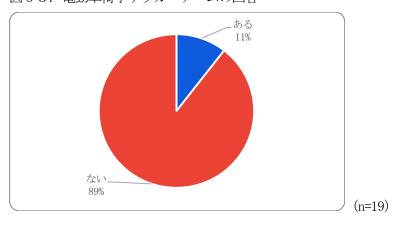


図64. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答

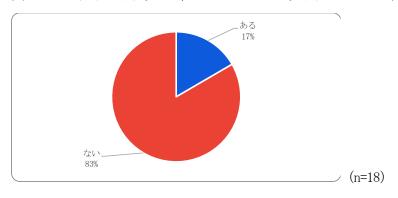
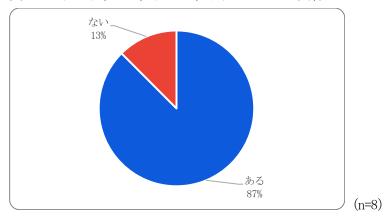


図65. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



4. 他競技のクラブチームとの交流の有無

「他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流はありますか。」

競技による差異が見られた

CP サッカー (100%)、デフサッカー/デフフットサル (87%)、アンプティサッカー (60%)、ブラインド サッカー/ロービジョンフットサル (56%)、ソーシャルフットボール (45%)、電動車椅子サッカー (37%)、知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル (36%) の順で他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流が多かった。

図66. アンプティサッカーチームの回答

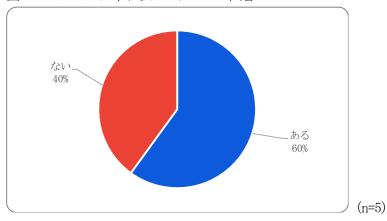


図67. CP サッカーチームの回答

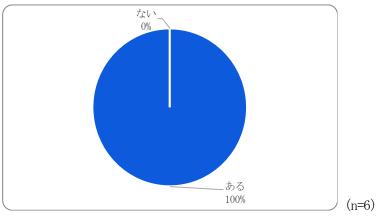


図68. ソーシャルフットボールチームの回答

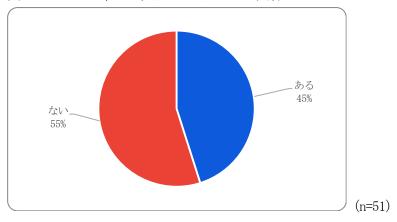


図69. 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサルチームの回答

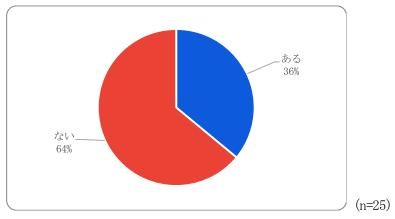


図70. 電動車椅子サッカーチームの回答

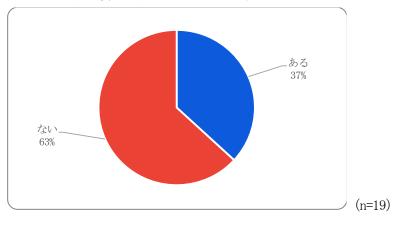


図71. ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルチームの回答

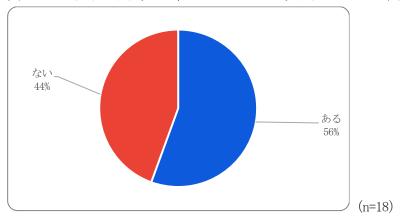
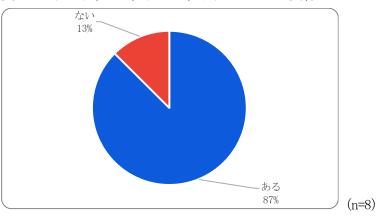


図72. デフサッカー/デフフットサルチームの回答



(3) 調査結果③

9地域別障がい者サッカーチームに対する調査結果

チーム活動(時間・場所・費用)

1. 練習頻度

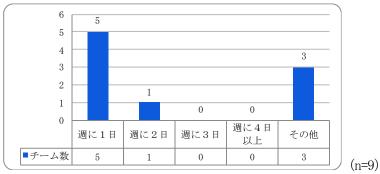
Ι

「平均して1週間にどれくらいの頻度で練習していますか。」

9地域全てで8割以上の割合で練習頻度が週1日以下で、競技による差異は見られなかった

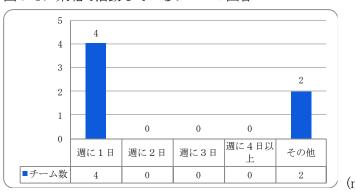
関西を除く8地域において、「週に1日」と「その他」の回答が上位2つを占めている。関西では、「週 に1日」と「週に2日」と「その他」の回答が上位3つを占めている。「その他」の具体的な回答を見ると、 関東と関西の各1チームを除き、「月2、3回」の頻度を超える回答は見られなかった。

図73. 北海道で活動しているチームの回答



「その他」は「月に1日」、「月に2日」、「年に3~4回合宿を実施」だった。

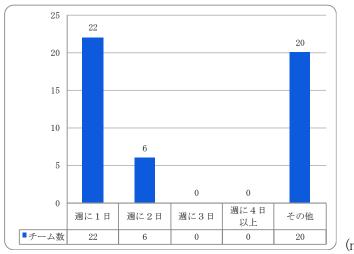
図74. 東北で活動しているチームの回答



(n=6)

「その他」の回答は、「月に2日」が2チームあった。

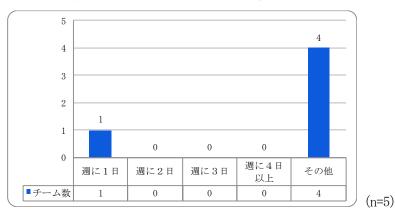
図75. 関東で活動しているチームの回答



(n=48)

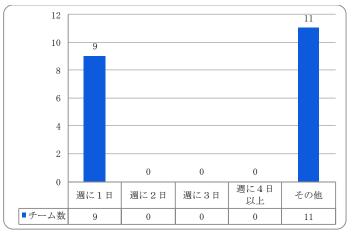
「その他」の回答は、「月に2日程度」が9チーム、「月に2~3日程度」と「月に1~2日程度」がそれぞれ3チーム、「月に1日程度」が2チームだった。また、「月に3日程度」、「年数回」、「月により異なる。年間 100 日程度」がそれぞれ1チームあった。

図76. 北信越で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「月に2日程度」が3チーム、「月に2~3日」が1チームだった。

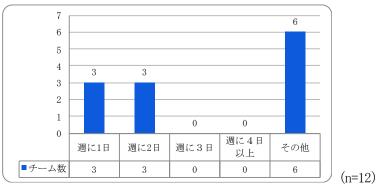
図77. 東海で活動しているチームの回答



(n=20)

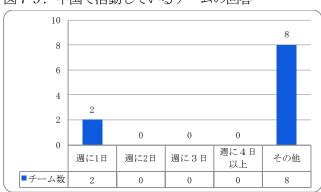
「その他」の回答は、「月に2日程度」が6チーム、「月に1日程度」が2チーム、「月に2~3回」、「月に3日」、「必要に応じて実施」があった。

図78. 関西で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「月に2日程度」が4チーム、「月に1日」、「インクルーシブフットボール2回/月、 ソーシャルフットボール 2、3 回/月」があった。

図79. 中国で活動しているチームの回答



(n=10)

「その他」の回答は、「月に2日程度」が4チーム、「月に1日程度」が3チーム等だった。

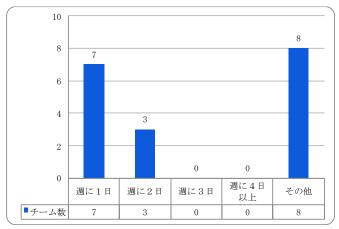
図80. 四国で活動しているチームの回答



(n=4)

「その他」の回答は、「月に2日」が2チームだった。

図81. 九州で活動しているチームの回答



(n=18)

「その他」の回答は、「月に2日程度」が、「年に1回」、「4~10月…週1日、11~3月…月2回」があった。

2. 練習場所

「普段どこでサッカー・フットサルのチーム練習をしていますか。」(複数回答可)

地域による差異が見られた

それぞれ最も多かった回答は、北海道では5チーム(55.5%)が「障がい者スポーツ施設以外の公共施設(市民体育館など)」、「民間スポーツクラブ(フットサル場、企業施設など)」、東北では3チーム(50.0%)が「病院/医療・福祉関係施設」、関東では20チーム(41.6%)、北信越では4チーム(80.0%)、九州では8チーム(44.4%)が「学校/教育機関」、東海では8チーム(40.0%)が「障がい者スポーツ施設以外の公共施設(市民体育館など)」と「学校/教育機関」、関西では6チーム(50.0%)、中国では7チーム(70.0%)が「民間スポーツクラブ(フットサル場、企業施設など)」、四国では2チーム(50.0%)が「障がい者スポーツ施設」となった。

5 5 5 4 3 2 1 0 障がい者 民間ス スポーツ ポーツク 障がい者 施設以外 ラブ 病院/医 学校/教 河川敷/ (フット の公共施 療・福祉 スポーツ その他 育機関 公園 施設 設(市民 サル場、 関係施設 体育館な 企業施設 ど) など) ■チーム数 0 5 5 2 3 (n=9)

図82. 北海道で活動しているチームの回答

「その他」の回答は、「廃校」だった。

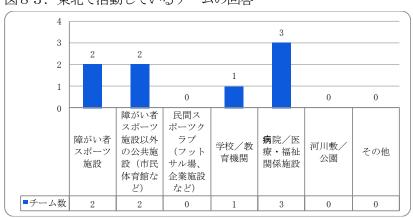
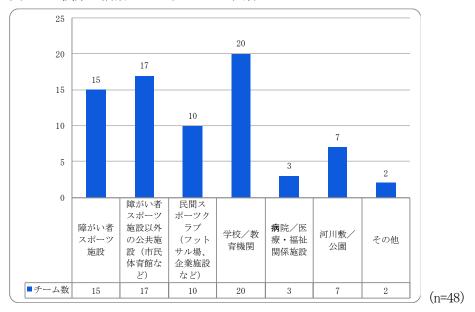


図83. 東北で活動しているチームの回答

(n=6)

図84. 関東で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「公共施設」、「法人施設内」があった。

図85. 北信越で活動しているチームの回答

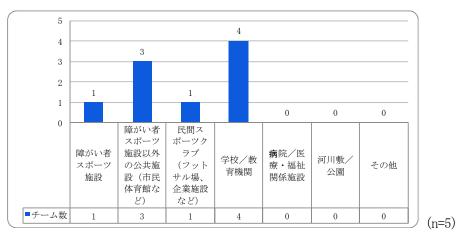
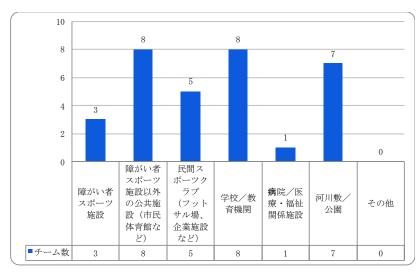


図86. 東海で活動しているチームの回答



(n=20)

図87. 関西で活動しているチームの回答

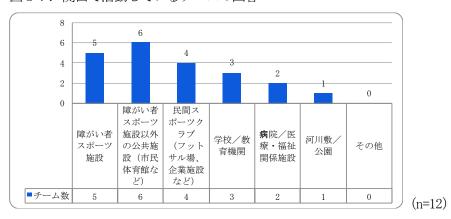
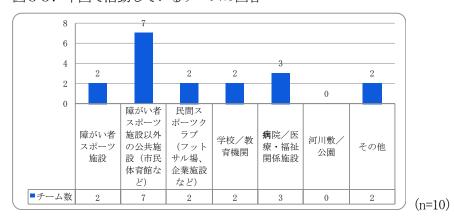
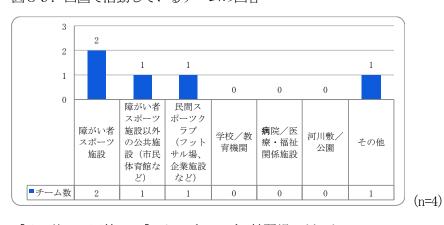


図88. 中国で活動しているチームの回答



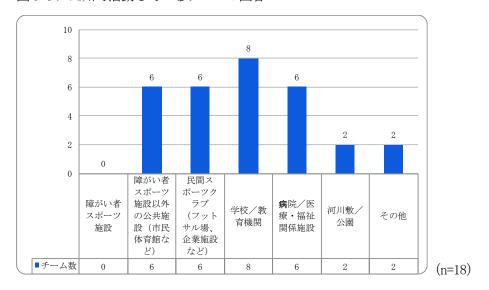
「その他」の回答は、「小学校跡地」、「法人体育館」だった。

図89. 四国で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「Jリーグクラブの練習場」だった。

図90. 九州で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「会社のグラウンド」、「練習なし」だった。

3. 競技活動における支障

「競技活動をするうえで、支障となっていることは下記の項目の中にありますか。」(複数回答可)

地域による差異が見られた

東海と関西を除く7地域で、半数以上のチームが「チーム練習ができるだけの十分な選手数が揃わない」 ことが支障になっていると回答した。北海道と東海を除く7地域で、半数以上のチームが「障がいのある 選手の発掘・育成が進まない」と回答した。北海道、関東を除く7地域で、半数以上のチームが「費用が かかる」ことが支障となっていると回答した。

それぞれ最も多かった回答は、北海道では 6 チーム (66.6%)、東北では 6 チーム (100%)、関東では 27 チーム (56.2%) が「チーム練習ができるだけの十分な選手数が揃わない」、北信越では 4 チーム (80.0%) が「障がいのある選手の発掘・育成が進まない」、「費用がかかる」、「仕事との調整が難しい」、東海では 15 チーム (75.0%) が「競技専門のスタッフが不足している」、関西では 8 チーム (66.6%) が「障がいの ある選手の発掘・育成が進まない」、中国では 8 チーム (80.0%)、九州では 12 チーム (66.6%) が「費用が かかる」となった。四国では回答数に差が見られなかった。

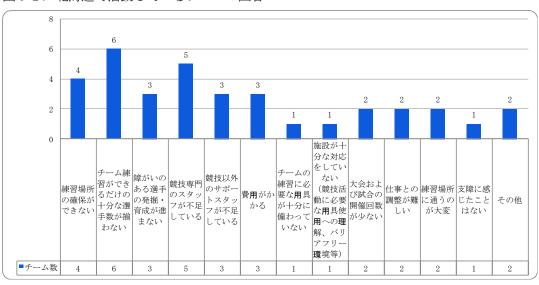
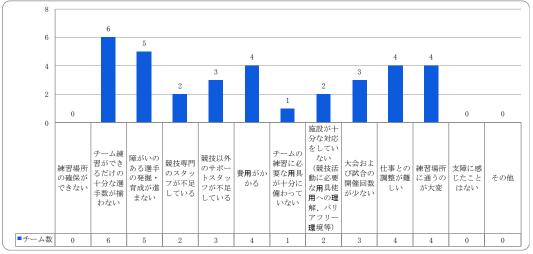


図91. 北海道で活動しているチームの回答

「その他」の回答は、「監督がいなくなったらチームとして存続が難しい」、「遠距離からの交通費等の自己 負担が大きい」があった。

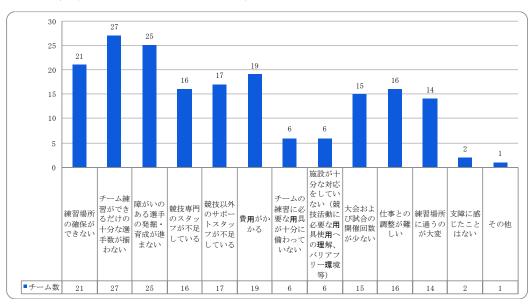
(n=9)

図92. 東北で活動しているチームの回答



(n=6)

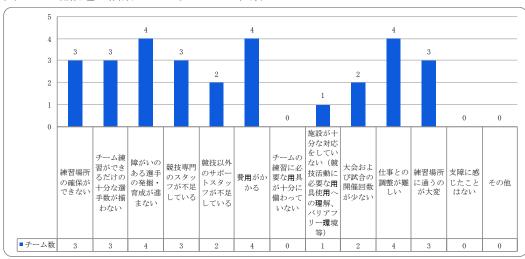
図93. 関東で活動しているチームの回答



(n=48)

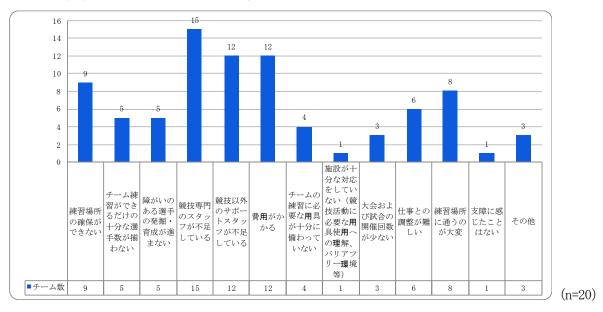
「その他」の回答は、「練習試合などの相手が少ない」があった。

図94. 北信越で活動しているチームの回答



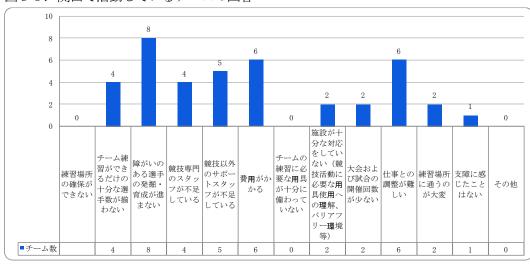
(n=5)

図95. 東海で活動しているチームの回答



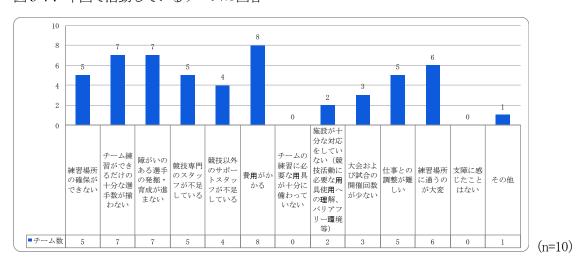
「その他」の回答は、「遠征時の交通費の確保が困難。交通費が支払えず大会に参加できない選手もいる。」、 「施設が中心で選手が増えないだけでなく、施設の休業日に動けるスタッフが乏しい。」、「デイケアなので、 ほかのプログラムがある。」があった。

図96. 関西で活動しているチームの回答



(n=12)

図97. 中国で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「選手自身の体調」だった。

図98. 四国で活動しているチームの回答

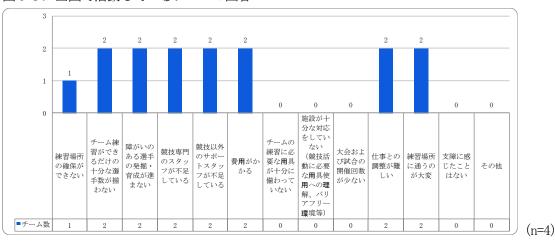
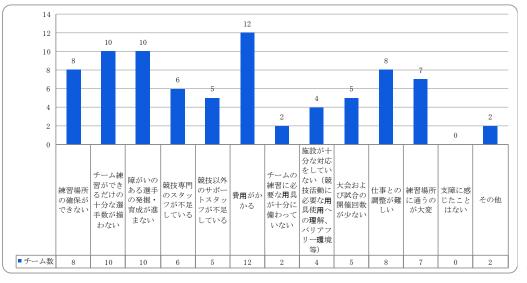


図99. 九州で活動しているチームの回答



(n=18)

5. 選手発掘および普及の取り組み

「選手発掘および普及のために取り組んでいることがあれば教えてください。」(複数回答可)

地域による差異が見られた

四国を除く8地域で、「公式サイト・ブログ・SNS等での情報発信」が選手発掘および普及の取り組みの上位2つ以内に入っていおり、多くの地域・チームで用いられている手法であった。

それぞれ最も多かった回答は、北海道では6チーム(66. 6%)が「病院等での告知や体験会の実施」、「公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信」、東北では4チーム(66. 6%)、関東では30 チーム(62. 5%)、北信越では4 チーム(80. 0%)、東海では10 チーム(50%)、九州では11 チーム(61. 1%)が「公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信」、関西では10 チーム(83. 3%)が「講演会の実施」、中国では7 チーム(70. 0%)、四国では3 チーム(75. 0%)が「知9 合いを通じての紹介」となった。

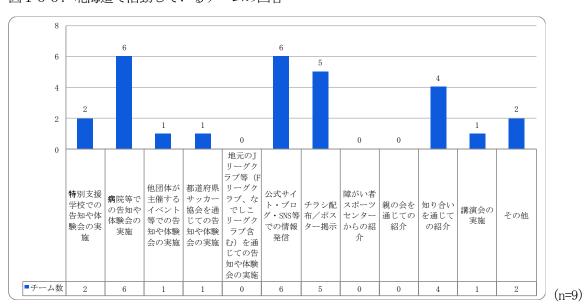


図100. 北海道で活動しているチームの回答

「その他」の回答は、「デイケアメンバーの口コミ」、「新聞社に依頼」があった。

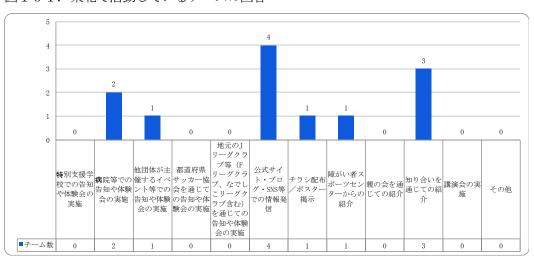
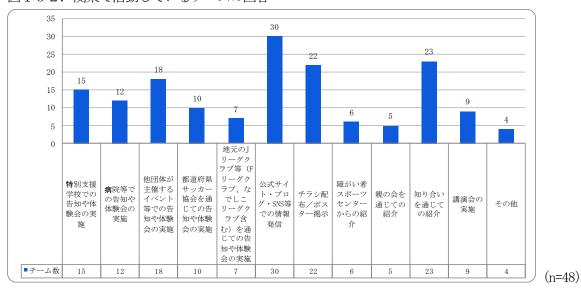


図101. 東北で活動しているチームの回答

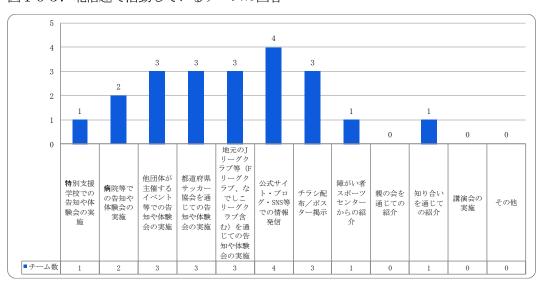
(n=6)

図102. 関東で活動しているチームの回答



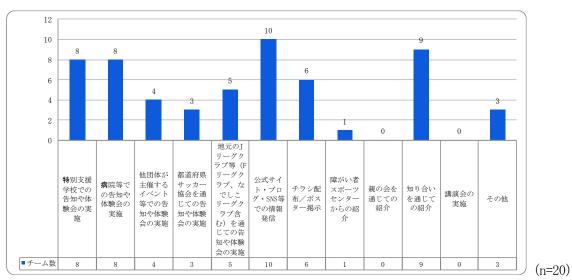
「その他」の回答は、「退院後及び外来にて処方が出た利用者様で興味がある方への説明を行っている」、「卒業生への説明」、「TOKYO 障スポ・ナビへの掲載」等があった。

図103. 北信越で活動しているチームの回答



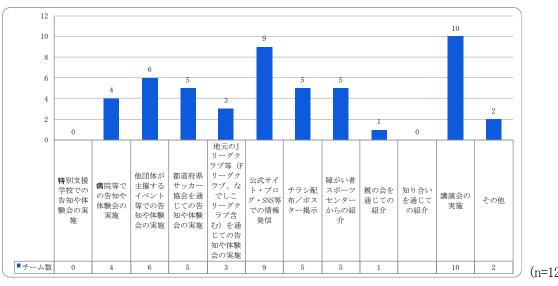
(n=5)

図104. 東海で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「自主開催のイベントにて体験会やフレンドリーサッカー大会を実施」、「新入社員の 勧誘」、「日韓交流を通して U-18 の育成、スカウティング」があった。

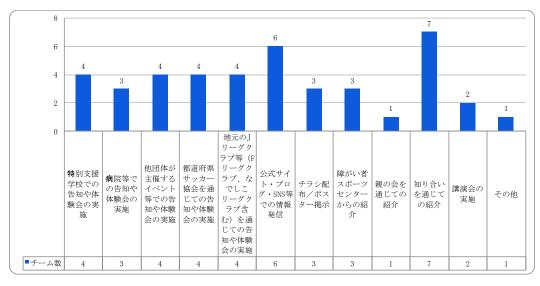
図105. 関西で活動しているチームの回答



(n=12)

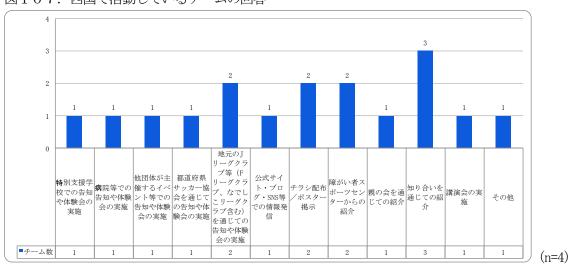
「その他」の回答は、「診療所のデイケアのみのチームなので、デイケア登録メンバーに声をかけている」 等があった。

図106. 中国で活動しているチームの回答



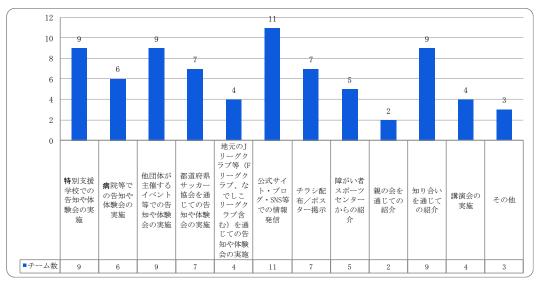
(n=10)

図107. 四国で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「地元の中学校と交流会」があった。

図108. 九州で活動しているチームの回答



(n=18)

6. 現チームメンバーの加入経緯

「現在のチームメンバーは、どのようにチームに入りましたか。」(複数回答可)

地域による差異が見られた

それぞれ最も多かった回答は、北海道では7 チーム(77.7%)、東北では4 チーム(66.6%)、四国では4 チーム(100%)が「病院、医療・福祉関係者等の紹介、活動を通じて」、関東では25 チーム(52.1%)、中国では7 チーム(70.0%)、九州では12 チーム(66.6%)が「知り合いを通じて」、北信越では5 チーム(100%)、東海では9 チーム(45.0%)が「特別支援学校・特別支援級関係者の紹介、活動を通じて」、関西では9 チーム(75.0%)が「病院、医療・福祉関係者等の紹介、活動を通じて」、「チームの公式サイト・ブログ・SNS等での情報発信を見て」となった。

図109. 北海道で活動しているチームの回答

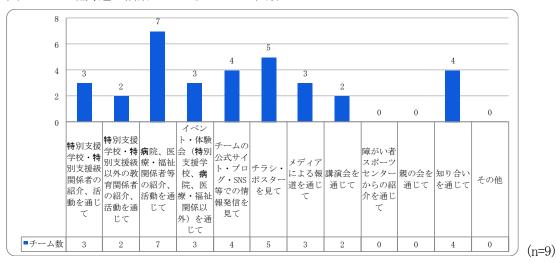
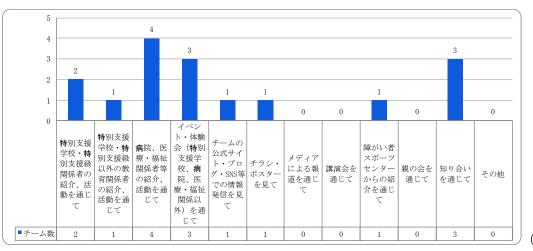
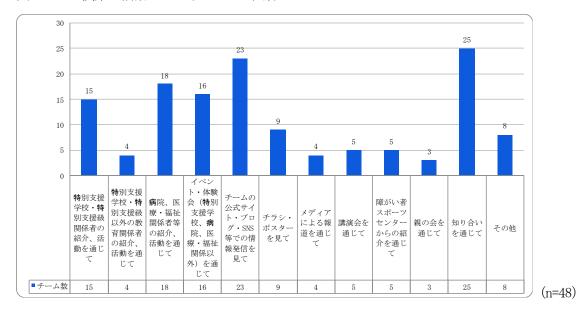


図110. 東北で活動しているチームの回答



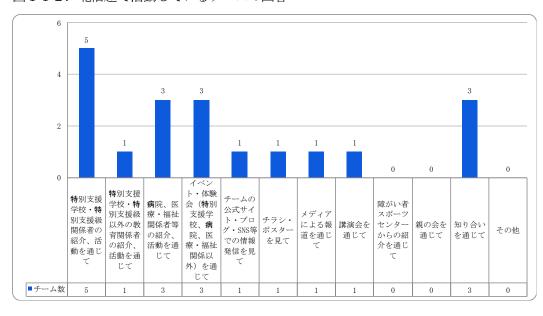
(n=6)

図111. 関東で活動しているチームの回答



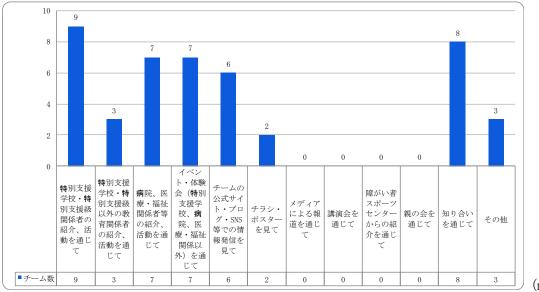
「その他」の回答は、「職場からの紹介」、「当事者の繋がり」、「退院後及び外来にて処方が出た利用者様で 興味がある方への説明を行っている」、「当院リハビリテーションを利用した方」、「社会復帰施設を運営し ている会社の利用者、卒業生を対象としてメンバーを募集」、「母体が大学で、その大学の学生が主に入る」、 「大会を観にきて」があった。

図112. 北信越で活動しているチームの回答



(n=5)

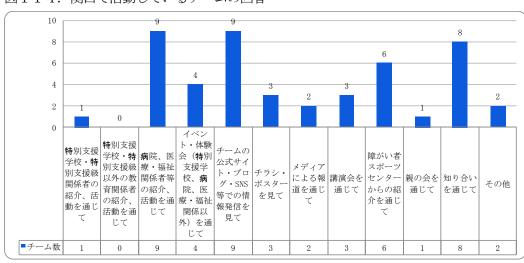
図113. 東海で活動しているチームの回答



(n=20)

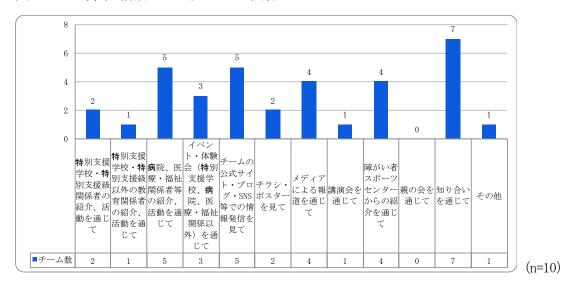
「その他」の回答は、「愛知県知的障がい者サッカー連盟の HP での紹介を見て」、「会社への新入社員を 勧誘する」等があった。

図114. 関西で活動しているチームの回答



(n=12)

図115. 中国で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「掲載された新聞記事を読んで」があった。

図116. 四国で活動しているチームの回答

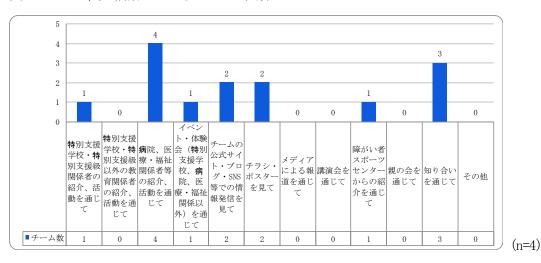
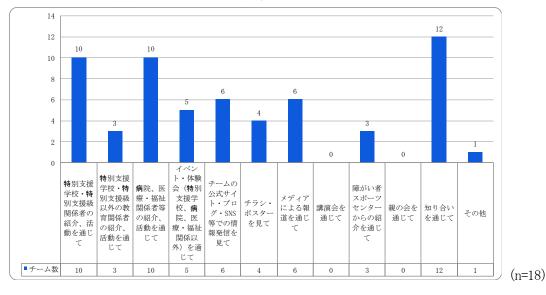


図117. 九州で活動しているチームの回答



7. 活動資金

「活動資金はどのように得ていますか。」(複数回答可)

9地域全てで「選手・スタッフからの会費」が半数以上で、地域による大きな差異は見られなかった

9 地域全てにおいて、半数以上のチームが「選手・スタッフからの会費」と回答した。 それぞれ最も多かった回答は、北海道では7 チーム (77.7%)、東北では4 チーム (66.6%)、関東では43 チーム (89.5%)、東海では14 チーム (70.0%)、関西では10 チーム (83.3%)、中国では9 チーム (90.0%)、 九州では15 チーム (83.3%) が「選手・スタッフからの会費」、北信越では4 チーム (80.0%)、四国では2 チーム (50.0%) が「選手・スタッフからの会費」、「補助金/助成金」となった。

6 4 3 3 2 2 0 選手・ス 補助金/助 スポンサー タッフから 寄付金 物販収入 その他 成金 収入 の会費 ■チーム数

図118. 北海道で活動しているチームの回答

「その他」の回答は、「精神科デイケアとしての費用(病院が支払っている)」等があった。

(n=9)

(n=6)

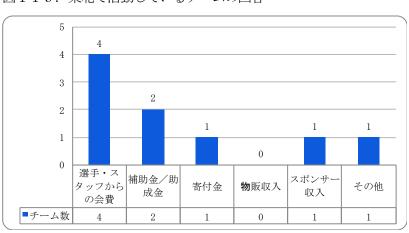
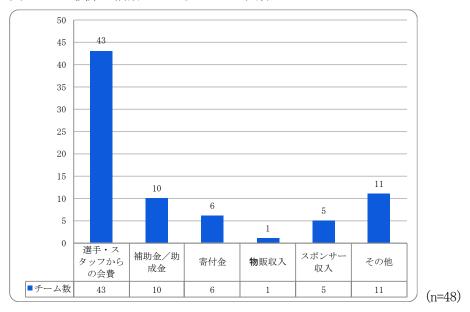


図119. 東北で活動しているチームの回答

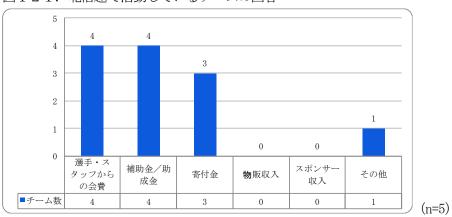
「その他」の回答は、「活動母体となる病院からの支援金」があった。

図120. 関東で活動しているチームの回答



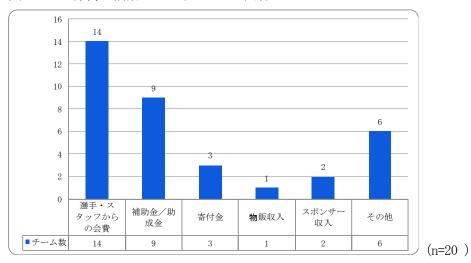
「その他」の回答は、「講演会や体験会での講師料」、「体験会の謝金など選手スタッフからの寄付」、「月々の病院運営費」、「協会からの寄付金分配(ブックレイジング)」、「体験会の謝金」があった。

図121. 北信越で活動しているチームの回答



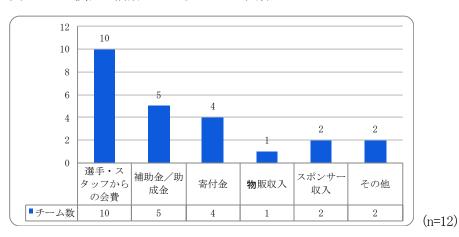
「その他」の回答は、「体験会謝金」があった。

図122. 東海で活動しているチームの回答



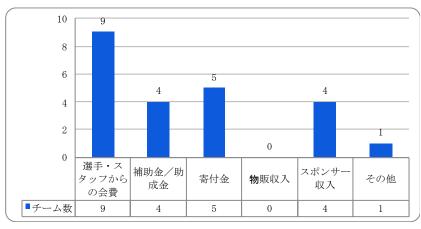
「その他」の回答は、「月 1 回クリニックを実施。参加費から」、「病院の経費」、「体験会の謝礼金」等があった。

図123. 関西で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「病院の経費で物品をそろえている」、「診療所からデイケア活動費として出ている」があった。

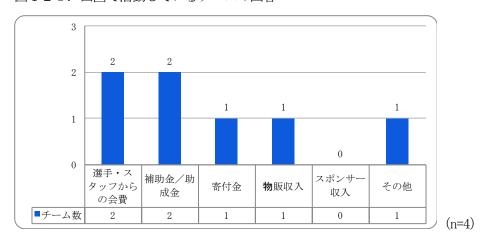
図124. 中国で活動しているチームの回答



(n=10)

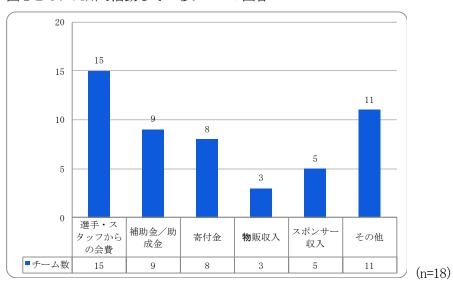
「その他」の回答は、「講演会報酬」があった。

図125. 四国で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「病院からの支援」があった。

図126. 九州で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「体験会等の事業収入」等があった。

1. 都道府県サッカー協会、地元 J リーグクラブとの連携

「都道府県サッカー協会、地元 J リーグクラブ等 (F リーグクラブ、なでしこリーグクラブ含む) と既に連携して実施していることがあれば、教えてください。」(複数回答可)

地域による差異が見られた

6チーム (66.6%)、東北では3チーム (50.0%)、関東では26チーム (54.1%)、東海では8チーム (40.0%)、関西では7チーム (58.3%)、中国では4チーム (40.0%)が「特になし/無回答」、北信越では3チーム (60.0%)が「地元のJリーグクラブ等の試合やイベントを通じて告知や体験会を実施している」、「四国では2チーム (50.0%)が「都道府県サッカー協会を通じて告知や体験会を実施している」、「地元のJリーグクラブ等の試合やイベントを通じて告知や体験会を実施している」、「地元のJリーグクラブ等からの人的な支援(コーチ派遣等)を受けている」、九州では6チーム (33.3%)が「都道府県サッカー協会を通じて告知や体験会を実施している」、「地元のJリーグクラブ等の試合やイベントを通じて告知や体験会を実施している」、「地元のJリーグクラブ等の試合やイベントを通じて告知や体験会を実施している」となった。

図127. 北海道で活動しているチームの回答



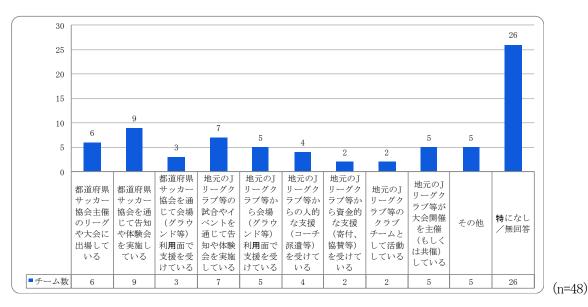
「その他」の回答は、「今後主催の大会審判を市町村のサッカー協会に依頼」があった。

図128. 東北で活動しているチームの回答



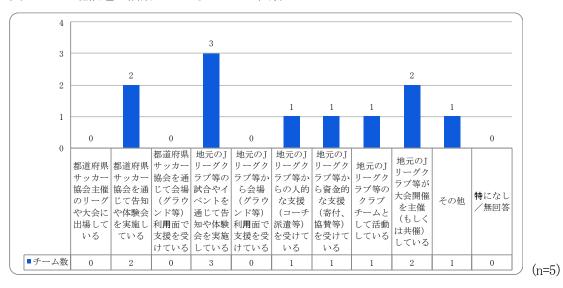
「その他」の回答は、「都道府県サッカー協会からソーシャルフットボール大会・交流会の開催費・運営費の一部補助・支援を受けている」等があった。

図129. 関東で活動しているチームの回答



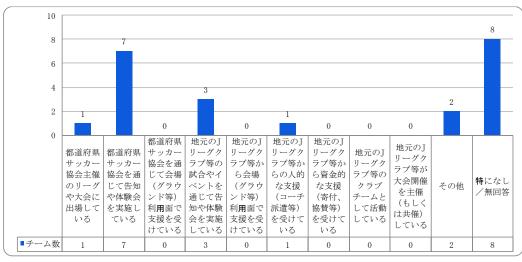
「その他」の回答は、以下の通り「J リーグクラブとそのメインスポンサーと共催して大会開催している」、「年に一度ホームゲームにおける前座試合を行わせてもらっている」等があった。

図130. 北信越で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「地域リーグ会場にあっては後援・協力を得る」があった。

図131. 東海で活動しているチームの回答



(n=20)

「その他」の回答は、「県サッカー協会から、地元開催のソーシャルフットボール予選会に審判を派遣してもらった」、「県サッカー協会からは大会の後援名義の利用で協力して頂いている。また、地元Fリーグクラブからは大会の際のフットサルクリニックの運営で協力いただいている」があった。

図132. 関西で活動しているチームの回答

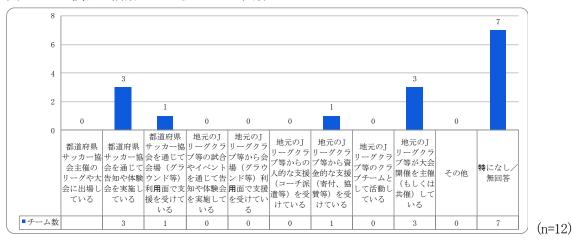
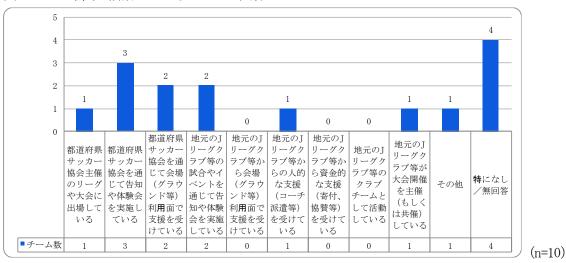
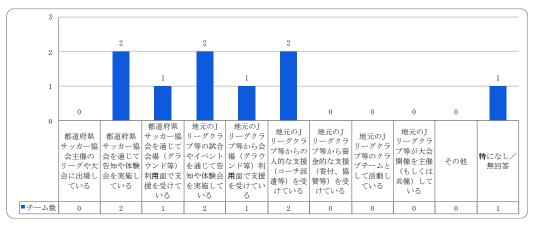


図133. 中国で活動しているチームの回答



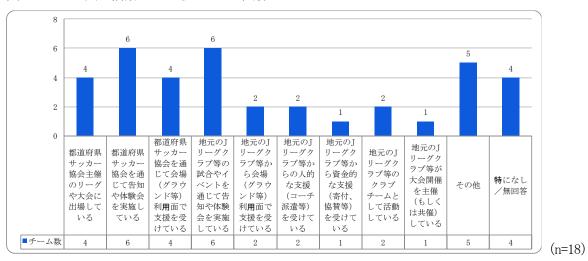
「その他」の回答は、「年1回、交流会のコーチに来て頂いている」があった。

図134. 四国で活動しているチームの回答



(n=4)

図135. 九州で活動しているチームの回答



「その他」の回答は、「県サッカー協会内にある、障がい者サッカー特別委員会に参加し、体験会を開催するなどしている」、「地元 J リーグクラブと一緒に事業を行っている(年1回程度)」等があった。

交流活動(健常者クラブチーム、他競技のクラブチーム)

1. 健常者クラブチームとの交流の有無

「健常者クラブチームと練習、試合等の交流、トレーニングをすることはありますか。」

北信越と他の8地域とで差異が見られた

 \coprod

北信越を除く8地域では過半数のチームが「健常者クラブチームとの交流がある」と回答した一方、北信越では「健常者クラブチームとの交流がない」が100%を占める結果となった。

関西、四国 (75%)、北海道、東北、九州 (67%)、中国 (60%)、東海 (55%)、関東 (50%)、北信越 (0%) の順で多かった。

図136. 北海道で活動しているチームの回答

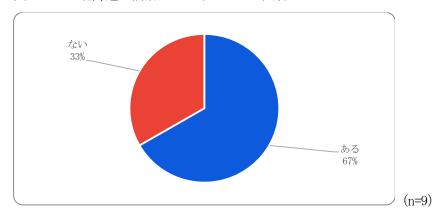


図137. 東北で活動しているチームの回答

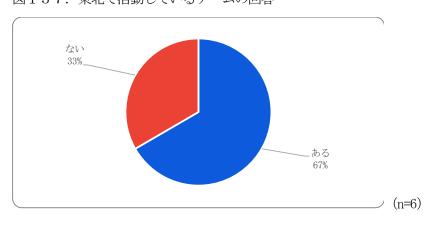


図138. 関東で活動しているチームの回答

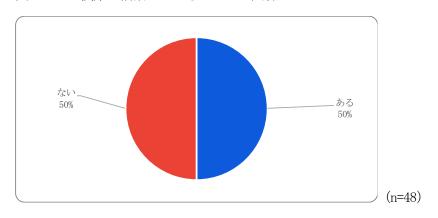


図139. 北信越で活動しているチームの回答

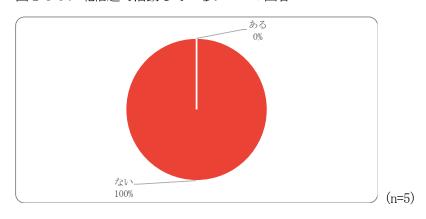


図140. 東海で活動しているチームの回答

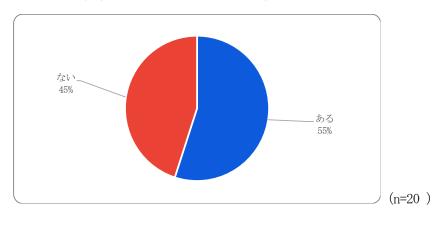


図141. 関西で活動しているチームの回答

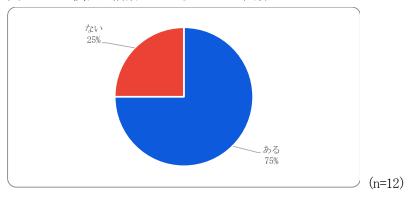


図142. 中国で活動しているチームの回答

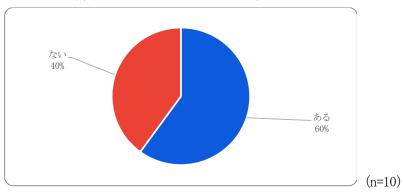


図143. 四国で活動しているチームの回答

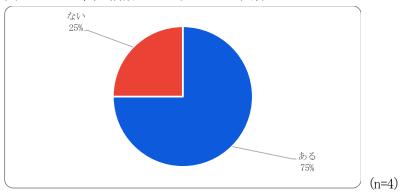
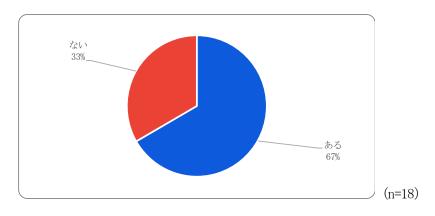


図144. 九州で活動しているチームの回答



4. 他競技のクラブチームとの交流の有無

「他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流はありますか。」

地域による差異が見られた

「他競技のクラブチームとの交流がある」が過半数となったのは北海道、関東、関西、中国の4地域となった。中国(70%)、北海道(56%)、関西(58%)、関東(52%)、東北、九州(50%)、東海(40%)、四国(25%)、北信越(0%)の順で多かった。

図145. 北海道で活動しているチームの回答

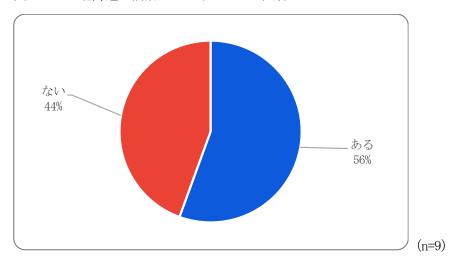


図146. 東北で活動しているチームの回答

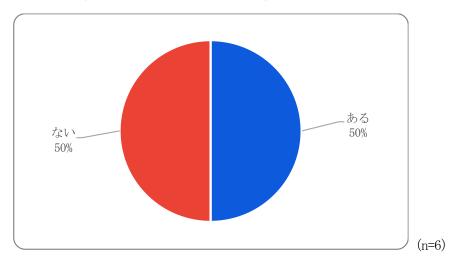


図147. 関東で活動しているチームの回答

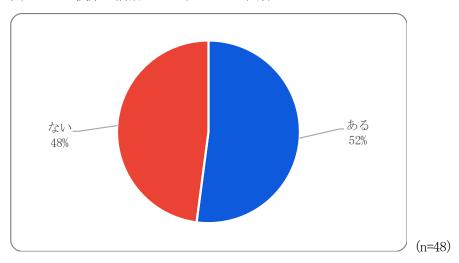


図148. 北信越で活動しているチームの回答

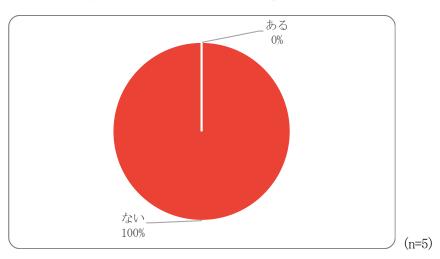


図149. 東海で活動しているチームの回答

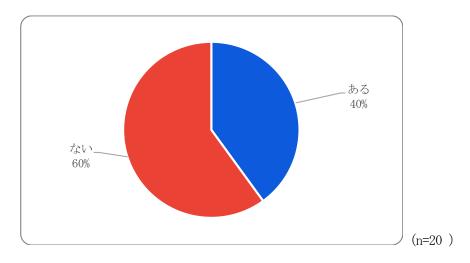


図150. 関西で活動しているチームの回答

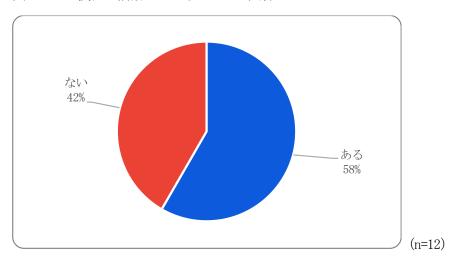


図151. 中国で活動しているチームの回答

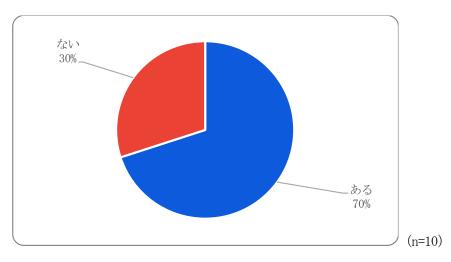


図152. 四国で活動しているチームの回答

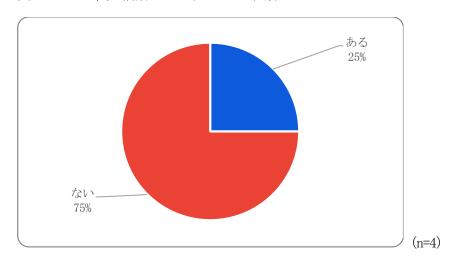
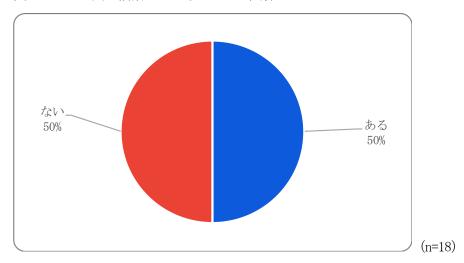


図153. 九州で活動しているチームの回答



Ⅲ. 9地域障がい者サッカー連携会議

1. 目的

JFAとJIFFは協働し、地域における障がい者サッカー団体と47都道府県サッカー協会、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブとの連携および体制を整備することを目的に、2019年10月より全国9地域で「9地域障がい者サッカー連携会議(以下、地域連携会議)」を実施した。2018年度まではJFAと47都道府県サッカー協会が会議を行うに留まっていたが、2019年度は更なる連携を図るためJFAとJIFFが協働しスポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」として実施した。

地域連携会議では、各地域の活動および普及状況にあわせた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりを推進するためのネットワークづくりを行なった。

2. 概要

地域連携会議は3時間を基本とし、参加者による取り組み事例の発表とディスカッションの2 部構成で実施した。開催地域で障がい者サッカー関連の大会やイベントがある場合は、会議とは別に視察を行った(詳細は、3.事業内容にて後述する)。

(1) 参加者

- ・47都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者
- ・9地域サッカー協会担当者
- ・障がい者サッカー7競技団体*の地域担当者
- ・障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者
- ・その他地域連携会議に参加が必要とされる障がい者サッカー団体
- ・」リーグクラブ担当者
- ・Jリーグ社会連携本部担当者
- · JIFF担当者
- ・JFA障がい者サッカー担当者

*=特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会(切断障がい)、一般社団法人日本CPサッカー協会(脳性麻痺)、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会(精神障がい)、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟(知的障がい)、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会(重度障がい)、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会(視覚障がい)、一般社団法人日本ろう者サッカー協会(聴覚障がい)

(2)参加条件

①47都道府県サッカー協会

・障がい者サッカー担当者の会議への出席を必須とした。やむを得ず出席不可の場合は、各地域での取り組み内容を説明可能な方が代理出席を必須とした。

②障がい者サッカー7競技団体

・会議には、各地域での取り組み内容の説明が可能な地域担当者の参加を必須とした。やむを 得ず出席できない場合は、代理出席を必須とした。

③障がい者サッカークラブ

・地域で活動する障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブへの案内を行ない、任意参加とした。

(3) 実施期間と参加人数

実施期間	2019年10月27日~2020年2月2日	
参加総数*	340名 (延べ人数)	
実施単位	9地域:	
	北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州	
実施回数	10回:	
	北海道、東北、関東/午前の部、関東/午後の部、北信越、東海、関西、中国、	
	四国、九州	

(4)参加者属性

①組織別人数(延べ、重複あり)

① 胆	α) γ γ	
JFA	24	名
9地域サッカー協会	9	名
都道府県サッカー協会	58	名
Jリーグ	5	名
Jリーグクラブ	49	名
Jリーグ百年構想クラブ	5	名
その他サッカー関連団体	1	名
アンプティサッカー	19	名
CPサッカー	17	名
ソーシャルフットボール	34	名
知的障がい者サッカー/	13	名
知的障がい者フットサル		
電動車椅子サッカー	29	名
ブラインドサッカー/	24	名
ロービジョンフットサル		
デフサッカー/	24	名
デフフットサル		
その他障がい者サッカー	11	名
関連団体		
JIFF	38	名
自治体、その他関連団体	1	名
合計	361	名

②部門別人数(延べ、重複あり)

役員・管理職	161 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	97 名
管理部門	61 名
強化・指導者	22 名
選手	16 名
合計	357 名

*同一人物が複数組織または複数部門に所属している場合があるため、参加延べ数が重複している。

(5) 満足度調査

参加者の9割以上から参加満足度の高い結果が得られた。



(n=221)

3. 事業内容

(1) 共通

地域連携会議は、取り組み事例の発表とディスカッションの2部構成で実施した。ディスカッション内における障がい者サッカー7競技団体の地域担当者による発表は全会議共通となるため、内容をまとめて掲載する。

①会議内容(障がい者サッカー7競技団体の地域担当者より)

競技名	チーム/ 競技者数	現状と課題
アンプティサッカー(切断障がい)	9チーム 100名	 ■現状・課題 ・選手発掘が困難 一競技人口は国内競技対象者の1割程度と少ない 一対象者が見つけづらい (義足が服で見えにくいケースも多い) 一病院・医療関係者や義肢装具士経由の紹介が多い 一競技の歴史も10年程度で認知度が低い ・競技人口が少ないため、世代別カテゴリーが作れない(10代~60代まで一緒にプレー、女子選手は3名) ・チーム数の地域格差 一関東に集中し、西日本は点在東北・北陸・四国にはチーム不在 ーチーム間の試合数の格差も発生 ・指導者養成や審判養成の制度が確立されておらず、今後整備を予定 ■地域連携の主な取り組み ・試合数の増加(輪番制でのリーグ戦の開始)による競技力向上 ・チームがない地域での大会、交流会、体験会の実施
CPサッカー (脳性麻痺)	7チーム 107名	■現状・課題 ・選手発掘が困難 - 競技対象者自体が少ない - 脳性麻痺者が子どもの頃からスポーツに親しむ環境が少ない - 軽度障がいのため、健常者のコミュニティにいることも多い ・チーム数の地域格差 - 人口の多い関東・関西にチームが集中 - チームがない地域ではCP選手だけを1箇所に集めることが難しい - 年齢とともに動けなくなる人も多く、継続が困難 - 脳性麻痺に限らず様々な障がい者、健常者も一緒に参加できるチームづくりが必要

		 ■地域連携の主な取り組み ・毎年岐阜県で全日本選手権を開催 ・日本ソサイチ連盟と普及面での連携を開始 ・女子選手の発掘、普及 (各地での女子サッカークリニックやイベント開催) ・競技対象外の脳性麻痺者への場の提供(フレームフットボール)
ソーシャルフットボール (精神障がい)	161チーム (登録66チーム、未登録95 チーム) 2,457名	 ■現状・課題 ・選手発掘が困難 - 精神障がい者400万人のうち2,500人程度 - 障がいを隠すことも多く、情報発信に難しさがある - 医療関係者、病院、デイケア経由で始めることが主 ・未登録チームも多い ・競技力向上への課題 - 競技の専門家ではなく、医療関係者やボランティアがチームの指導を行うケースが多い ■地域連携の主な取り組み ・普及が進んでいない地域での全国大会開催
知的障がい者フットサル	119チーム (特別支援学 校の部活動は 除く) 7,735名 (特別支援学 校の部活動を 含む)	■現状・課題 ・全国障がい者スポーツ大会の競技として全国に普及 ・特別支援学校が主体となる ・子どもの頃と高校卒業以降のプレーの場がない ・地域ごとの活動が主 - 6地域(関東、東北、東海、関西、中四国、九州)に連盟設置 - 各都道府県サッカー協会が担っている地域も多い - 北信越は特に活動が少なく、チーム数等の現状 把握が曖昧 ・現在Jリーグクラブでは横浜F・マリノスフトゥーロと 鹿児島ユナイテッドFCフューチャーズの2チームが あり、ホーム&アウェイで試合を実施 ■地域連携の主な取り組み ・高校選手権および全日本選手権の地域予選開催 ・2018年に女子委員会を立ち上げ、女子への普及を開始 (関東、関西、東海でトレセン実施)
電動車椅子サッカー (重度障がい)	39チーム 第1種 31 第2種 8 257名	■現状・課題 ・全国22都道府県で活動あり ・試合数の地域格差 - チーム数が多い地域は個別に地域大会も開催しているがそれ以外のチームは年1回の全日本選手権のみ・選手の費用負担が課題

	1	,
		- 電動車椅子が高額(競技用は輸入)のため入手が 困難(競技用電動車椅子は通常150万円以上、 さらに個々の障がいに合わせてカスタマイズする と合計200万円程度) - 他競技に比ベスタッフや介助者が多く、交通費も 2~3人分がかかる ・体験用車椅子の準備も困難(購入も運搬費も高額) ・病気が進行性のためチーム運営の主体者が変わること で活動休止となるチームもある ■地域連携の主な取り組み ・日本選手権の開催地域変更 ・各地での体験会実施
ブラインドサッカーロービジョンフットサル(視覚障がい)	29チーム (ブラインド サッカー 25 チーム、ロー ビジョンフッ トサル 4チー ム) 428名	 ■現状・課題 ・選手の発掘 - 盲学校教育に組み込まれていない状況 - 協会主催のキッズキャンプ、トレーニングを通じて口コミで参加者を集め発掘中 ・チーム数の増加 - 日本協会主催の地域リーダープログラムを通じてクラブチーム増加中 - ブラインドサッカーでは国内大会では弱視者や晴眼者も出場可とし、選手数を確保している - チームの規模や競技環境に格差があり、活動が年間10日程度のチームもあれば、年間予算300万円ぐらいで活動するチームもあり様々 ■地域連携の主な取り組み ・地域リーグの開催(北日本、東日本、中日本、西日本の4地域) ・キッズキャンプ(関東、関西)、トレーニングの実施(関東、関西、東海の3地域) ・地域リーダープログラムの継続的実施
デフサッカー デフフットサル (聴覚障がい)	9チーム 210名	■現状・課題 ・北海道、東日本、西日本、山口・九州の4つのブロックで活動 ・チーム数の地域格差 - チームが関東に集中 - 全国に競技希望選手はいるが、チームが少なく受け皿がない ・選手発掘が困難 - 普通校、健常者チームでプレーする選手も多い - 人工内耳の子どもが増えている (健常者のコミュニティにいる) - 普通校へ進学しその後デフコミュニティに入った

場合、手話ができずコミュニケーションに苦労する
選手もいる
■地域連携の主な取り組み
・日本代表合宿をさまざまな地域で実施し、現地での交
流を図っている

(2) 北海道

開催日時	2020年1月11日 (土) 会議 13:30~17:0	0
開催場所	札幌ドーム内「プレスワーキングルーム	[2]
	〒062-0045 北海道札幌市豊平区羊ケ	丘1
	1. ご挨拶・本会議について 1	0分
	2. 自己紹介 1.	5分
	3. 取り組み事例の共有	
	・日本サッカー協会2	5分
スケジュール	・日本障がい者サッカー連盟	
	・北海道サッカー協会 1	5分
	〜休憩・視察 〜 4	5分
	4. ディスカッション 10	0分
	5. 写真撮影、アンケート	5分
参加人数(実数)*	21名	

*参加者属性:

①組織別人数(重複あり)

① NAME (里後の) リ /	
JFA	2 名
9地域サッカー協会	0 名
都道府県サッカー協会	2 名
Jリーグ	0 名
Jリーグクラブ	1 名
Jリーグ百年構想クラブ	0 名
その他サッカー関連団体	0 名
アンプティサッカー	2 名
CPサッカー	3 名
ソーシャルフットボール	2 名
知的障がい者サッカー/	2 名
知的障がい者フットサル	
電動車椅子サッカー	1 名
ブラインドサッカー/	2 名
ロービジョンフットサル	
デフサッカー/	2 名
デフフットサル	
その他障がい者サッカー	0 名
関連団体	
JIFF	3 名
自治体、その他関連団体	0 名
合計	22 名

②役職別人数(重複あり)

役員・管理職	12 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	2 名
管理部門	5 名
強化・指導者	3 名
選手	1 名
合計	23 名

	事例共有
北海道サッカー協会	■障がい者サッカーの歴史
	障がい者サッカー7種別全てのチームが活動している(協会未
	登録チーム含む)。
	道内での歴史は長く、1945年ろう学校でのサッカー指導から始
	まった(デフサッカー)。1959年に札幌ろう学校が中体連、19
	63年北海道高等ろう学校が高体連に加盟。

知的障がい者サッカーは、北海道白樺高等養護学校でのサッカ ー指導から始まった。2002年、北海道ハンディキャップサッカ ー連盟を北海道サッカー協会が設立(2004年に北海道チャレン ジドサッカー連盟に改称)。 視覚障がい者サッカーは、1971年には既に活動が始まってお り、1982年に北海道高等盲学校が高体連に加盟。 精神障がい者サッカーは、2009年に特定医療法人朋友会「石金 病院」にて開始。フットサルを精神障がい者らの自主性や活動 性を発揮させる治療の一環として活用。 アンプティサッカー、CPサッカー、電動車椅子サッカーチーム も活動を実施。 障がい者サッカーの連携 北海道サッカー協会主導で道内の障がい者サッカーチームが集 まる場、北海道サッカー協会主催イベントで体験の場を設けて いる。 ディスカッション 障がい者サッカー各日本協 「3.事業内容 (1)共通」にまとめて記載(参照) 会からみる現状・課題 アンプティサッカー ■活動状況 北海道内でアンプティサッカー選手としてプレーできる切断障 がい者は約50名。北海道は広く、札幌市を中心とした地域に道 民の半数以上が住んでおり、他地域と距離があるため普及が難 しい。既に8人はチームで活動を行っており、他の競技と選手 の共有、健常者のサッカーと一緒にやっていくことが望まし V 10 ■施設利用 チームでは練習を2~3回実施し、特別支援学校を無料で利用し ている。現在はパラリンピックの日本開催を契機に変わってき ているが、それまでは夜間の学校利用をしても杖(クラッチ) をつくことで床に傷がつくのではないか、責任を負えないとい うことで、利用ができない施設があった。 ■他競技との連携 地域も広く人口も少ないので、競技同士の選手の奪い合いが起 こっている。別のスポーツをやりながらアンプティサッカーを するのもよい。発展のためには選手を共有することも必要。 (例:夏=アンプティサッカー、冬=スキー) 障がい者サッカーは7団体の横の繋がりがあり情報共有ができ ているが、サッカーに限らず車椅子バスケや色んな競技、選手 ともどんどん連携していかないと選手は増えていかない。 ■課題 設備は徐々に整ってきたので、今後の課題は人材。人材が増え ない限り障がい者スポーツは盛り上がらない。 今後に向けて 健常者も交えて独自のリーグ、東京で活躍している選手を招き 生で試合を観戦してもらえる機会をつくっていきたい。 CPサッカー ■活動状況 北海道では1チームが活動している(協会未登録)。 普通校へ通う児童も多くCPおよび脳疾患の選手の発掘が困難 で、CPサッカーのみの活動は難しく、対象の範囲を肢体不自由 者まで幅を広げて活動している。

■他競技との連携

ソーシャルフットボールと連携し活動を行なった。

■課題

関東・関西の障がい者スポーツセンターのように「ここに行け ば障がい者スポーツの情報が得られる」という場所がなく、周 知、認知が難しい。

地方にいくほど、車でないと移動できない点と、練習場所の確 保が難しい。

ソーシャルフットボール

■活動状況

札幌市に人口が集中しており、道内の16チームのうち11チーム が札幌市にある。治療機関が母体となっているチームが多い。 個別に粘り強く声かけを行い参加してもらっている。

近隣の市にもチームはないが当事者の選手はおり、足を運んで活動している。他のの障がいのある人も顔を出している。

大会の開催

定期活動として、札幌市内のフットサル場を利用し、市内のチームが集まって毎月第3木曜日にIFリーグ(リーグ戦)を開催している。年間を通して、月1で対抗試合が実施できているのは、選手にとっては非常に良い環境が作れている。

■施設利用

北海道は冬になると外が使えないため施設の抽選が厳しい状況。

課題

競技性が上がると精神的な負荷も高まるので、調整しながら行う必要がある。精神疾患でも、うつ、発達障がい、依存症等幅が広く運動のペースが疾患によって違い、ゆったりした動き方の人もいれば俊敏に動ける人もいる。また、その日によってひとりひとりの病状が異なるので、チームの状況も変わる。

■他競技との連携

月1~2回、障がい者と健常者がまぜこぜで行う「バリアフリーフットボール」を開催しており、アンプティサッカー、CPサッカー、デフサッカーの選手など、他の障がいのある人も来ている。

北海道精神障害者スポーツサポーターズクラブという母体があり、フットサル、バレーボール、バスケットボール、ヨガの5種目を定期的に開催している。

■今後に向けて

6月に根室市で「全道大会北海道チャンピオンズカップ」を開催予定。

知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル

活動状況

北海道内で登録24チーム、登録者数は460人。北海道サッカー協会の中で唯一サッカーファミリーのひとつのカテゴリーとして存在している。

普及活動

札幌市、十勝市、旭川市でサッカー教室、トレセンを開催し普及に取り組んでいるが、スタッフの確保、資金調達が難しい。2019年に旭川市で障がい者サッカーの委員会(知的障がい者サッカーのみ)が設立され、2020年度は同団体を中心に市内での活動を広げていく予定。

	T
	■他競技との連携
	違う障がいではあるが、同じルールでプレーできるデフサッカ
	ーとCPサッカーと連携し、2020年1月にフットサル大会を開催
	する。
	課題
	ジュニアの発掘が課題。他の障がいでも、同じルールでできる
	ものについては一緒にやっていこうという流れがある。
承私主株フルー	
電動車椅子サッカー	■活動状況
	北海道にはチームが1つのみ。
	都道府県によっては支部がない地域もあるが、北海道には北海
	道電動車椅子サッカー協会がある。
ブラインドサッカー/	■活動状況
ロービジョンフットサル	北海道では1チームが活動している。
	協会主催の地域リーダープログラム(チームの立ち上げや運営
	に関する講習会)に、十勝で新たにチームを立ち上げ予定。
	日本協会との連携
	日本協会の大会・地域連携事業部では、チームや行政との連携
	を取っており、道内での会場探しや、大会当日のボランティア
	集め、道内での体験会依頼への対応等について、ナマーラ北海
	道に協力をお願いしている。
	施設利用
	試合時にフェンスを使用するので、人工芝が傷んでしまうため
	使用を断られることがある。
	課題
	福祉専門スタッフおよびサポートスタッフが不足している。北
	海道内に指導者のライセンスを持っている人が2人しかおら
	ず、審判資格を持っている人もいない状況。広い北海道全体を
	まわれないため、普及が難しい。視覚障害者の母数も少なく、
	見つけにくい。
	要望
	サッカー経験がある人、実際に講師として活動している人を北
	海道サッカー協会の方から紹介いただく、または北海道サッカ
	一協会の講習会の中にブラインドサッカーも入れていただきた
	V,
デフサッカー/	■歴史
デフフットサル	北海道は、デフサッカーの発祥の地と言われている。昭和30
	年、デフサッカーがスタートしてから、中体連主催の大会で出
	場が認められたのは、北海道が初めて。
	■活動状況
	■福勤状況 北海道内で1チームが活動している。
	高校・大学を卒業すると本州で就職する流れがあり、若い選手
	が減り高齢者が多い。サッカーの試合があっても11人を集めて
	チームを構成するのが難しく、現在はフットサルを楽しんでい
	るチームもある。日本選手権への出場は、北海道以外の選手に
	呼び掛けて試合をするというのが現状。ろう者が減っている状
	況なので、聞こえる人も入って一緒に活動することもある。
	今後に向けて
	聴覚障がい者と健聴者、共にやることがインクルーシブの形。
	いずれにしても、障がいのある人が本当に自分の持っている力
	を最大限発揮して、如何に人生を歩むかが障がい者サッカーと
	で収入所元] 早して、畑門に八工で少むパル゚ヤピル゚ヤ゚゚゚日リツД ̄こ

	して一番大事。障がいの認識や理解を徹底すべき。同じサッカ
	ーができるのであればそれが望ましい。
Jリーグクラブ	今後に向けて
	北海道唯一のサッカークラブとして、もっとやれることがあ
	る。発信力が特に大きく、選手を通じて、アカデミーを通じ
	て、女子のチームなど体験や普及面で力を発揮できる。
北海道サッカー協会	今後に向けて
	現在、2025プロジェクトのミッションのひとつとして「障がい
	者サッカーの充実」を掲げており、横で連携する協議会の設立
	を考えている。2020年に北海道サッカー協会が90周年を迎えて
	おり、100周年プロジェクトとの大きな目玉として位置付けて
	いきたい。







③視察内容

会議と同会場内で開催されていた北海道サッカー協会主催の 「2019年度 冬季プレミアU-12サッカー大会」内に 実施された「障がいのある小学生部門(交流戦)」の様子を 視察。



④参加者の声

■とても満足 5名 ・初めて聞く話ばかりで、勉強になった。今後の取り組み方をよく検討 しできることからやっていく、そのような気持ちになることができた。 ・今まで知りえなかった、今後につながる有意義な情報を得られた。 より深い情報交換をする事ができた。 ・貴重な情報と出会いをいただいた。 ■満足 9名 ・7つの障がい者サッカー全てが集まりそれぞれの事情を知り、情報共有 会議の満足度 できて良かった。 ・組織の全国での取り組みから、北海道地域の現状、課題を段階づけて

- 知ることができ分かりやすかった。ディスカッションの時間が十分にと れると尚良かった。
- ・各々の取り組みについて参考になることが多くあった。
- ■普通 1名
- ・7つの障がい者サッカー関係者が介せたので良かった。
- ■不満 1名
- ・個別の話が長く、もっとディスカッションしたかった。

感想・気づいた点	・各団体共通の困難さと各団体特有の課題を知れてよかった。選手だけでなく、指導者また審判の育成、発掘も不可欠だと気づいた。 ・場所の確保と人材の確保がテーマであると感じた。子どもの時から、障がい教育に触れる必要があり、障がいを身近に感じられる状態が必要だと感じた。 ・各団体、チームの取り組みを知ることができてよかった。協力体制をとるには良い機会だった。 ・北海道のJリーグクラブとして一緒に活動することでお互いが豊かになる協力ができそうだと感じた。 ・こういった機会の回数が増えると、より前進的な話しができる。 ・貴重な話を聞くことができてよかった。実際に今後どのような動きができるかまでディスカッションをしたかった。 ・今回は発信のみとなったが、討議を行うとより良い。 ・ディスカッションの時間がなかったことが残念。 ・もう少し問題点などの解消につなげられたらと。 ・もっと皆さん、各団体で話が出来た方が良かった。
今後同様の会議を 実施する場合の 単位	 ■実施単位 9地域ごと 9名 都道府県ごと 1名 9地域ごと・都道府県ごと両方 6名 「その他」の意見 ・全国で行い他の都府県とも連携したい。 ・Fリーグチームも参加していただけるとより良い。 ・たくさんの人に可能性を出していきたい。
その他	・なでしこリーグなど、サッカー、フットサルに関わる方々の参加もあるとより広がりがある。 ・懇親会も是非やりたい。 ・年にもう1、2回、こういう機会があるとうれしい。 ・今度はもっとディスカッションをしたい。

(3) 東北

開催日時	2019年11月30日 (土) 会議 13:00~16:00
開催場所	仙台市生涯学習センター 第2セミナー室
用作物的	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4丁目1番8号
	1. ご挨拶・本会議について 10分
	2. 自己紹介 15分
	3. 取り組み事例の共有
	・日本サッカー協会25分
	・日本障がい者サッカー連盟 25分
スケジュール	・障がい者サッカー団体
	- 日本ブラインドサッカー協会 10分
	- 日本アンプティサッカー協会 10分
	~休憩 15分~
	4. ディスカッション 90分
	5. 写真撮影、アンケート記入 5分
参加人数(実数)*	28名

*参加者属性:

①組織別人数 (重複あり)

JFA2 名9地域サッカー協会7 名都道府県サッカー協会7 名Jリーグ0 名Jリーグ百年構想クラブ1 名その他サッカー関連団体0 名アンプティサッカー1 名CPサッカー1 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル2 名ブラインドサッカー/ アフサッカー/ デフフットサル3 名モービジョンフットサル2 名デフフットサル2 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名JIFF2 名		
都道府県サッカー協会 7 名 Jリーグ 0 名 Jリーグクラブ 0 名 Jリーグ百年構想クラブ 1 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 1 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 2 名 対ラインドサッカー/ 3 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 0 名 関連団体	JFA	2 名
Jリーグ 0 名 Jリーグクラブ 0 名 Jリーグ百年構想クラブ 1 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 1 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 2 名 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ 3 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 0 名 関連団体	9地域サッカー協会	2 名
Jリーグクラブ 0 名 Jリーグ百年構想クラブ 1 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 1 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 2 名 対ラインドサッカー/ 3 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 0 名 関連団体	都道府県サッカー協会	7 名
Jリーグ百年構想クラブ1 名その他サッカー関連団体0 名アンプティサッカー1 名CPサッカー1 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル2 名でラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフナッカー/ デフフットサル2 名ぞの他障がい者サッカー 関連団体0 名	Jリーグ	0 名
その他サッカー関連団体0 名アンプティサッカー1 名CPサッカー1 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル2 名ごラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル2 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名	Jリーグクラブ	0 名
アンプティサッカー 1 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 2 名 知的障がい者フットサル 3 名 でラインドサッカー/ 3 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 0 名 関連団体	Jリーグ百年構想クラブ	1 名
CPサッカー1 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル2 名でラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル2 名での他障がい者サッカー 関連団体0 名	その他サッカー関連団体	0 名
ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル2 名電動車椅子サッカー/ ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル0 名関連団体	アンプティサッカー	1 名
知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル2 名電動車椅子サッカー2 名ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル0 名関連団体	CPサッカー	1 名
知的障がい者フットサル2 名電動車椅子サッカー2 名ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル0 名関連団体	ソーシャルフットボール	4 名
電動車椅子サッカー2 名ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル0 名関連団体	知的障がい者サッカー/	2 名
ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 3 名 デフサッカー/ デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 関連団体 0 名	知的障がい者フットサル	
ロービジョンフットサル2 名デフサッカー/ デフフットサル2 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名	電動車椅子サッカー	2 名
デフサッカー/2 名デフフットサル0 名関連団体	ブラインドサッカー/	3 名
デフフットサル その他障がい者サッカー 0 名 関連団体	ロービジョンフットサル	
その他障がい者サッカー0 名関連団体	デフサッカー/	2 名
関連団体	デフフットサル	
	その他障がい者サッカー	0 名
JIFF 2 名	関連団体	
	JIFF	2 名
自治体、その他関連団体 0 名	自治体、その他関連団体	0 名
合計 29 名	合計	29 名

②役職別人数

役員・管理職	16 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	3 名
管理部門	8 名
強化・指導者	0 名
選手	1 名
合計	28 名

事例共有			
日本ブラインドサッカー協 ■地域連携の主な取り組み 会 アカデミー事業として視覚障がい児向けのキッズキャンプ (関			
	東、関西)、キッズトレーニング(関東、関西、東海)を地域		

	で開催。それぞれ選手の発掘、育成が目的。個別でタイトルス
	ポンサーを募り、独自財源で実施している。
	チーム設立を促すため地域リーダープログラムを実施してい
	る。ビジョン・ミッション策定、ファンドレイジング、マーケ
	ティング等を学ぶ。沖縄県、石川県などプログラムからチーム
	設立に結びついている。
日本アンプティサッカー協	■地域連携の主な取り組み
会	地域リーグ、交流戦を地域で開催している。
	試合数増加による競技力向上と、チームがない地域での大会、
	交流会、体験会を実施することでチーム設立に向けた動きに結
	びつける。
	香川県サッカー協会の協力を得て、2019年に西日本交流戦を開
	催した。
	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照)
会からみる現状・課題	・0・尹木口付 (1/ 六四」によこの(山戦(参照)
アンプティサッカー	■活動状況
	東北で活動しているチームはない。
	■今後に向けて
	■っ後に回りて 東日本リーグの一節を活動を行ったことのない地域(東北)で
	やっていきたいと考えている。totoの助成金の利用等をし、東
	北で試合を見ていただける環境をつくっていきたい。体験会も
	増やしていきたい。
CPサッカー	■活動状況
	東北で活動しているチームはない。
	15年程前に関東で活動していた選手が地元に帰りチームを作ろ
	うとしたが、人数が集まらずに運営を継続できなかった。
	CPサッカーをメインとしつつも、脳性麻痺に限らず、他の障が
	い(例えば、発達障がい、知的障がい)のある選手と一緒にプ
	レーできるような場をつくることで選手の発掘とチーム作りを
	していきたい。
	課題
	脳性麻痺者は普通級に通っていたり、一般の就職を行い普通に
	生活している人がほとんど。支援学校や障がい者センター等に
	関わりが薄い。大人になるとアプローチが本当に難しく、本人
	が凄くサッカーが好きで自分から探してくれるというパターン
	がほとんど。大人に情報を行き渡らせるのは難しい。
	一方で、子ども(小学生)のうちはリハビリ等で病院にかかっ
	ていることが多いため、子どものうちからサッカーができる場
	が増えると、そのまま続けていける。
	普及活動
	■ 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
	お体障がい有いのプラローアは、中途障がいな符にダブビッ時に利用する病院や理学療法士・作業療法士への周知が有効。
	他競技との連携
	ビデュスとの産場 以前(10年程前)は知的障がいのチームとCPサッカーのチーム
	以前 (10年程前) は知的障が(100) 一名とはリッカーのケーム で交流を行なっていた。
	□ ○交流を行なっていた。 □ ■今後に向けて
	2020年に東北で月1回の頻度で定期的にCPに限らない交流でき
	る場を設けていきたい。
	海外事例

	イングランドでは、パンフットボールという障がいの種別を問
	わずできる人が集まって行うリーグ戦がある。CPサッカーだけ
	で集まるのが難しい場合は、まぜこぜで集まれる環境を作れた
	ら新しい楽しさが生まれる。
ソーシャルフットボール	活動状況
	宮城県内には、デイケアや就労支援事業所でチーム名がないま
	ま(未登録)活動しているところが8事業所ある。そのうち、
	チーム化しているのは4チーム。
	活動開始の背景
	認知機能の向上、コミュニケーション能力の向上、人との関わ
	りのために活動を開始。フットボールを通じて社会性の成長を
	促して就労や新たなコミュニティへの参加をすることが目標に
	ある。
	日本協会との連携
	大会参加にあたり良い効果と悪い効果両方あり、アフターフォ
	ローがとても大切。大会に向けて体調管理、金銭管理を行う
	が、大会終了後に体調を崩し入院される方もいる。病院と協会
	との連携が大切になる。
	サッカー協会との連携
	青森県サッカー協会)
	サッカー関係者が携わり、病院が主で大会を開催している話を
	聞いた。来年度はさらに協力関係を深めていきたい。
	課題
	発足当時は精神障がいの発症によってフットサルに初めて関わ
	ることが多く技術の差も大きくなかったが、10年を経て競技レ
	ベルの格差が出来ている状況。新規の重度の精神障がい者が競
	技を始めるという現状になく、ソーシャルフットボールとして
	の魅力と、重度の精神障がい者も参加して共生社会を目指すと
	いう部分を整理する必要がある。
知的障がい者サッカー/	■活動状況
知的障がい者フットサル	東北地方で300名が登録している。2016年に東北連盟を設立
)	し、大会。リーグ戦を実施している。毎月、いずれかの県で大
	会や交流会が行われ順調に普及している。
	サッカー協会との連携
	福島県サッカー協会)
	知的障がい者サッカーチームが4チームあり、JFAフットボール
	デーにチームで参加してもらった。協会の専務理事が高校の教
	員を務めており、支援学校のサッカー部や教え子への声掛けか
	ら始まった。支援学校のスポーツ大会へは協会会長が挨拶に行
	っており、繋がりができてきている。
	スペシャルオリンピックス日本・福島と大会に向けての練習場
	の確保を協会で行っている。
	秋田県サッカー協会)
	3年前にJFAフットボールデーで特別支援学校の生徒を対象にフ
	エスティバルを開催した。その後特別支援学校の先生とも交流
	があり、東北FIDリーグの練習会の予約等で協力している。
	青森県サッカー協会)
	昨年、特別支援学校から呼ばれて講師として行った。キッズフ
	エスティバルでは案内を色々なところ(特別支援学校等)に出
	すが、参加がない。 (参加を促すために) 特別に別の対応をし
	9 //³、 参加// ない。 (参加を)にすために) 付別に別の対応をしたすがといのかな知談由

た方がよいのかを相談中。

Jリーグクラブとの連携

いわてグルージャ盛岡とブラウブリッツ秋田の前座試合で知的 障がい者の交流戦があった。Jリーグは発信力があるので、知 的障がい者サッカーだけではなく、他の7つの障がい種別の体 験会、前座試合、まぜこぜサッカー等プロの選手も交え行なっ ていける。Jリーグの前座として実施できると、多くの観客も いて体験もしやすくなる。

他競技との連携

他の障がい者サッカーと連携し、まぜこぜで楽しめるルールを 工夫しながら、東北でも広げていきたい。障害特性上それぞれ の障がいで気を付けなければならないことがあるので、情報共 有したい。

今後に向けて

指導者養成を進めており、来年度も継続して東北で開催する計画。女子選手も増えてきているので、なでしこも来年度東北で活動できる。

支援学級に行ってサッカー教室をやる方法は現実的で実施しやすい。上手くなりたい子は強化に進み、楽しみ続けたい子はエンジョイに進めるように道をつくっていきたい。

電動車椅子サッカー

活動状況

東北地方に地方支部(都道府県協会)がない。東北地域において、競技が知られていないことが考えられる。

今後に向けて

東北地方で活動するチーム対し情報発信をする場がないので、 地方支部をつくりたい。

ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル

■活動状況

仙台、青森でチームが活動している。日本協会の主催する地域 リーダープログラムに参加し、支援を受けながら青森のチーム が設立された。

■チーム運営

仙台)年間の予算は300万円。収益源は、体験会収益(年間50回程度)とスポンサー収益。固定費はなく、遠征費、ドリンク代、ユニホーム代は、チームの収益から捻出している。

選手発掘

人材の獲得は難しく、視覚支援学校から小学生の選手を受け入れ、仲間に伝えてもらうロコミで各世代伝えている。福島県、山形県、宮城県の南3県と岩手県へのアプローチが多い。今後、岩手県の活動も増えていく。

日本協会からの最新情報、各地の情報をもとに、クラブガイドを作成している。盲学校等各地に配布することで、次の活動へのアプローチを行っている。

他競技との連携

仙台市内の産学官連携「スポーツのネットワーク会議」に参加している。行政、仙台市も含めて宮城県、楽天イーグルス等各スポーツ団体、大学専門学校、ボランティア団体、市民活動センター、すべてを網羅して月1回会議を行っている。各県で連携の会議帯があれば、新たな繋がりができそこが起点となって活動の幅が飛躍的に広がる。

■今後に向けて

2019年に主催で初めて大会を開催した。今後県サッカー協会との連携を深め、ブラインドサッカーをひとつの価値のあるコン

	テンツとして、東北2チームでお互いにカバーしながら、協力
	してやっていきたい。
デフサッカー/	■活動状況
デフフットサル	東北内では以前は宮城県にチームがあったが、現在は活動して
	いない。高齢化・仕事の変化等の理由でチームは消滅状態とな
	ってしまった。1つの地域で人数を集めるというのが難しく、
	当時も宮城県以外にチームがなく県を超えて来てもらったりし
	ていた。
	各県にろう学校はあるが、限られた人数しかおらず、部活動は
	あってもチームが構成できるような人数が各学校で集まらな
	い。集まれた場合は、部活動のチームがそのまま社会人チーム
	として活動する事例がある。
	■サッカー協会との連携
	チームがつくれなくても、健常者のチームにデフの選手を受け
	入れてもらえる可能性がある。やれる環境は大事だが、言葉の
	壁が大きく、プレーはできても孤立しがちなので、地域・文化
	の理解が必要。
	他競技との連携
	手話を使いながら行う体験会が非常に面白い。ブラインドサッ
	カーの体験会の後にデフサッカー体験を実施する等連携ができ
	る。喋らず、ジェスチャーを用いたコミュニケーションを取る
	というのはとてもプラスになる要素なので、サッカーチームに
	体験していただくのも良い。
Jリーグ百年構想クラブ	今後に向けて
	これまで障がい者サッカーとは関わりを持ててこなかったが、
	サッカー、フットサル、eスポーツ等色んな立場の方と結びつ
	けて社会づくりを行なっていきたい。
	事例
ポックス 伽云	福島県サッカー協会)
	審判の派遣、練習場・施設利用等を今までやってきて、今後も
	続けていく。他にもできることで連携していきたい。
	理学療法士や作業療法士を通じた選手の発掘の話が出たが、協
	会内には医事委員会がある。スポーツ医学の役員もいるので確
	認する。
	山形県サッカー協会)
	審判の不足、会場確保等、相談があれば協力できる。
	岩手県サッカー協会)
	協会としてフットボールセンターを運営しており、その隣には
	宿泊施設もあり駅も近い。活動拠点のひとつとして検討しても
	らいたい。
	障がい者サッカーに関する指導者講習会をぜひ岩手県内でやっ
	ていただきたい。
	秋田県サッカー協会)
	知的障がい者サッカーと会場確保等で協力しているが、他団体
	からも要請があれば協力する。
	宮城県サッカー協会)
	77777
	日本電動車椅子サッカー協会の「東北では情報発信をする場が
	ない」という切実な想いを聞き、体験会などでまぜこぜサッカ
	一をしながらまずは発信できる場をつくりたい。
	今後に向けて
	1

県内には特別支援学級としては知的・情緒・弱視・病弱の4つがある。普及のために特別支援学級にサッカー教室をしにいくはよい。まぜこぜサッカーはキーワードになる。

まぜこぜのインクルーシブフットボールを知り、例えばJリーグの試合の前に体験会としてまぜこぜスマイルウォーキングサッカーを入れることで、交流が深められる。地域交流委員会が障がい者サッカーの窓口になる。

人と人はつながっているが、組織同士団体同士となるとまだ薄い。個人個人で結びついているのを、大きく広げたい。チームがなくても、プレーしたい人はいるのではないか。情報収集等 一緒にやっていきたい。

その他

都道府県協会は少ない人数で仕事を行なっている。今いる人の みで進めようとすると限界があるので、頑張っていきたいとい う人たちを上手く仲間にして広げていけないか。多くの人を巻 き込んでいく必要がある。







③参加者の声

ط ا	て	も満足	6名

- ・各団体の現状共有、地域の活動を知ることができた。
- ・7つ障がい者サッカーの課題等が把握できて、とても良かった。その課題に対して各々の協会等がどのように対応しているのか参考になった。
- ・他の障がい団体、サッカー協会の方々と意見交換できて大変貴重な機会となった。
- ・顔を合わせての話が、まずできた。横の繋がりの可能性がでた。
- ・多くの意見交換、情報交換ができた。

■満足 7名

- ・もう少し時間をかけて、細かい部分も知りたいと感じた。
- ・他の障がい者サッカーの良さを知れた。横の繋がりができた。
- ・今まで繋がりのない関係機関、団体と交流できた。
- ・今まで関われなかった方々と顔を合わせてお話することができた。
- ・様々な障害の事、取り組みが聞けた。

・各障がい者サッカー団体の方々と協会やチームなどの連携の仕方をみんなで考えていけるような仕組みと問題点などを共有していきたい。

・ディスカッションができてよかった。

・今日の繋がりの中で、なにかまず一つ、共同でイベントなりを実施できれば、より繋がりも深まり、活性化されていくと思うので、少しでも力になれたらと思う。

- ・他の団体も同じ問題を抱えていることが分かった。
- ・県や市の障がい者スポーツ協会も参加してもらったら良い。
- ・活動の広がりの大きさが気づいた点。
- ・各チームの活動を聞けたことも、より現場の情報で良かった。

会議の満足度

云磯の個足及

感想・気づいた点

	・映像を使った紹介はよかった。県協会のHPでも紹介したい。 ・他地域の連携会議では視察もあり、他競技に触れる機会を有していた ため、今回もそのような活動の視察があると良かった。		
今後同様の会議を 実施する場合の 単位	■実施単位 9地域ごと・都道府県ごと両方 その他 コメント ・9地域と、できれば全国的な会 ・まずは9地域を維持し、同じる ・県単位だと数が少ないので地 ・協会の方が参加しているのが	2名 会議も開催してほしい。 メンバーで一年後に集って成果を見たい。 域単位がちょうどいい。	

(4) 関東/午前の部

開催日時	2020年2月2日 (日) 会議 9:30~12:30	
開催場所	日本サッカー協会ビル(JFAハウス) 406・407会議室 〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス	
スケジュール	 本会議について 取り組み事例の共有 日本サッカー協会 / 日本障がい者サッカー連盟 億がい者サッカー7団体の状況および課題の共有 休憩 15分~ グループディスカッション 東京都/神奈川県/埼玉県・千葉県の3グループでディー 自己紹介	10分 25分 10分 105分 スカッション 5分 5分
参加人数(実数)*	61名	

*参加者属性:

①組織別人数 (重複あり)

6 名
0 名
4 名
1 名
13 名
1 名
0 名
2 名
2 名
5 名
3 名
6 名
6 名
6 名
0 名
8 名
0 名
63 名

②役職別人数 (重複あり)

役員・管理職	31 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	19 名
管理部門	9 名
強化・指導者	5 名
選手	5 名
合計	69 名

	事例共有
障がい者サッカー各日本協 会からみる現状・課題	「3.事業内容 (1)共通」にまとめて記載(参照)

ディスカッション

東京都、神奈川県、千葉県・埼玉県の3グループにわかれ、それぞれグループディスカッションを実施した。

ンを実施した。	
東京都グループ	東京では既にインクルーシブフットボールフェスタを年1回開
	催し混ざり合う場をつくっているため、日常的に混ざり合える
	状態を作るのはどうしたらいいかというテーマでディスカッシ
	ョンした。
	それぞれの活動のなかで抱える課題と、協力・提供できるリソ
	ースを共有したところ、補い合えることが分かった。グループ
	のメーリングリストをつくり、何か発生したときに相談しあえ
	るようコミュニティ化する。
	イングランドでは、障がい種別に関係ないチームをプレミアリ
	ーグのクラブが作り、試合を行なっている。例えば、Jリーグ
	のクラブが中心となってまぜこぜのチームで活動を行なっても
	よい。それぞれの競技ごとに考えるのではなく、色んな障がい
	があっても一緒に楽しめる場をつくり、活動を繋げていく。
千葉県・埼玉県グループ	障がい者サッカーチーム、Jリーグクラブ、県サッカー協会そ
	れぞれの活動の共有を行なった。
	次につながる成果として、各県で連絡会をそれぞれつくり、デ
	ィスカッションの場を継続的に設けていくことが決まった。
	埼玉県は埼玉県サッカー協会の方が主となり、千葉県は日本ソ
	ーシャルフットボール協会の方が主となり、進めていく。
神奈川県	それぞれの活動紹介と課題を共有しあった。
	 障がい者サッカーの特徴として、親御さんへのアプローチが必
	要になる。怪我したら危ない、移動が大変など。学校訪問や障
	がい者の受け入れを行なっているクラブの情報、具体的な活動
	情報が集まったので、整理し簡単に検索できるようサイト(導
	線)をつくろうというアイディアもあった。神奈川県内では、
	神奈川県サッカー協会、Jリーグクラブをはじめとし、既にそ
	れぞれが色々なイベントや取り組みを実施しているので、もっ
	と上手く活用していく。
	今回のように定期的に集まれる障がい者サッカーを中心とした
	連絡協議会、交流会が設けられるとよい。そのなかで、色々な
	ディスカッション、勉強会、イベントの実施等に繋げていけれ













③参加者の声

■とても満足 18名

- ・各種目のリアルな現状を知ることができ、有意義な情報交換ができた。
- ・横のつながりや、色々と情報収集ができた。
- ・色々な方と様々な情報を頂いたことで、今後の活動に生かせられる。
- ・各チームの課題や考えていること、Jリーグクラブの取り組みを知ることができた。
- ・各チームとの情報共有ができて良かった。
- ・他組織・団体の活動、課題を知れた。
- ・情報収集できました。新しいイベントも考えられる。
- ・具体的に何も進んでない状況が変わりそう。
- ・具体的に、県での連携体制の見通しが見られた。
- ・県サッカー協会、Jチーム、各障害者サッカー団体とつながりが出き、 意見や状況を伺えた。
- ・関わる機会のないチームと多くの関わりを持てたことは良かった。
- つながりの構築のきっかけになった。
- 仲間を作ることができる。
- ・同じ地域の人と話しができ関係が深まった。
- ・潜在的だったネットワークを、連携会議を通じて知ることができた。

■満足 13名

- ・色々な団体の方のお話がきけた。
- ・他地域、他障害団体の話を聞けてよかった。
- ・多くの方の考えを聞くことができた。
- ・意見交換ができ、色々な人と話ができた。
- 様々な方と交流をすることができた。
- ・色んなお話が聞けた。ただ時間が足りない。
- ・時間が少々足りない。ディスカッションの時間が十分にとれなかった。
- ・今後に向けての連携が図れた。
- いろいろな団体の方とコネクションができた。
- ・今回の会議を通じて、各都県に所属するJリーグ、都県協会、都県障が い者サッカー協会、各競技団体チームとのつながりの初めの一歩を踏み 出せた。
- ・他地域の方や、違う立場で活動されている方と繋がることができ、具体的なイベントの企画の話が進んだ。繋がりという点では成果があった。

■普通 2名

- ・現状の理解が深まった。
- ・自己紹介の時間が多く、テーマなどについてのディスカッションの時間が短かった。

感想・気づいた点

- ・ますます障がい者サッカーの発展に力を注いで行きたい。
- ・各団体からの諸意見を通じて、横のつながりから各協力、社会と選手 たちのコミュニケーションを取ることのできるきっかけができた。
- ・各県の状況と県内の状況の、今の時点での整理ができた。
- はじまりの一歩。
- ・ディスカッションの時間は有意義だった。

会議の満足度

- ・それぞれの団体で慢性的な課題や悩みがあったので、今日のような機会に共有することができて良い場になった。
- ・様々な立場で違った課題が見えた。あとはそれをすり合わせ連携できれば。
- ・非常に貴重な場になった。これまで知らなかった課題を知り、自分たちの取組の方向性が合っているかどうか確認できる場だった。
- ・自分が「知らない」事を改めて知った。
- ・気づかない点も多く新たな発見がたくさんあった。
- ・色々の考えや悩みがあることが分かった。
- ・皆さんのそれぞれの課題が気付けた。
- ・この先の展開や協会としての対応がむずかしい。
- ・他の障がい者チームの練習や取り組みなど、見学に行けたらと思う。
- ・継続が何よりも大切。
- ・定期的にやっていく事が重要。
- ・定期的に行ってほしい。
- ・定期的開催と情報の共有をよりできるとよい。
- ・他県の方とも関われる時間があるとさらに良い。
- ・他の障がい者サッカー団体の方々の普及活動、セールス活動などを具体的に聞いてみたかった。
- なでしこリーグのチームもいると良かった。
- ・議題を持ってMTGをした方が良い。
- ・もう少し少人数でのディスカッションがよい。
- もう少し小さいグループワークでないと、話がふかまらない。
- ・話し合った後に、もう少しシェアの時間が取れると良い。
- ・会議開催前の情報共有、開催目的の共有ができていなかった。会議開始後に、会議の主旨や障がい者サッカーのビジョンのすり合わせが必要だったため、事前にある程度共有できていればより濃い議論ができた。
- ・参加者それぞれの求めるもの(自団体の抱える課題を伝えたい、その解決のために他団体に具体的な提案をしたい、そもそも障がい者サッカーのことを知りたい、まぜこぜの場を作りたい等)の違いがディスカッション中にも表れてしまっていた。
- ・具体的な施策は都道府県ごとに独自に会議を開いてもらい、地域単位 で集まる場はビジョンの共有のみに絞るとするのも良い。次のアクショ ンに繋げることを重視するのであればひとつ具体的な連携を取ってくだ さい、としても良い。
- ・首都圏は話せるネタを持っている方は多いと思うので、それを引き出して活かせる場にしたい。
- ・障がい者サッカー団体がJIFFのようなビジョンを持てておらず、ついていけていないような印象。そうなると具体的な施策に踏み切れない。

■実施単位

9地域ごと13名都道府県ごと9名9地域ごと・都道府県ごと両方3名その他8名

今後同様の会議を 実施する場合の 単位

「その他」の意見

- 全国でやりたい。
- ・Jリーグチーム+県協会(もしくは行政)とJIFFの交流会。
- ・県以外の同じ障がい種別の担当者とも話してみたい。
- ・他域とも交流したい。
- ・ワークショップがあるとよい。
- ・あえて地方に行き、他県の方と関わりたい。

	・もう少し少ない人数での集まりの方が、強いつながりが出きるのではないか。 コメント ・組織化は、県単位では弱い。 ・県内は県内で独自に集まりたい。 ・人数的に今回の人数が適当だと思う。 ・今回同様、他県の話はききたい。 ・選手等いない地域もあるので、9地域がありがたい。 ・具体的な話をしたい場合は、今回できた繋がりを元に都道府県ごとに連携を取り会議を開催していただいて、この会議では情報や取り組み事例、ビジョンの共有と、新しい知見の獲得をする場とするのも良い。 ・神奈川県だけでも会議をやりたい。 ・県ごとにさらに詳細な分科会でも良い。 ・都道府県毎であれば、各地域における着眼点がより細かく確認ができる。
その他	・定期的に開催をお願いしたい。 ・少しずつ、着実に。 ・ファシリテーター、タイムキーパーが必要。 ・1~2月は次年度の計画・予算もあり多忙なので、会議の時期の再考してもらいたい。 ・会議の成果を報告、共有するような場もあると良い。関東だけでなく全国も含めて。

(5) 関東/午後の部

開催日時	2019年2月2日 (土) 会議 14:00~17:00	
開催場所	日本サッカー協会ビル(JFAハウス) 406・407会議室 〒113-8311 東京都文京区本郷3-10-15 JFAハウス	
	1. 本会議について 2. 取り組み事例の共有	10分
スケジュール	- 日本サッカー協会 / 日本障がい者サッカー連盟	25分
	- ヴァンフォーレ甲府	10分
	- 茨城県サッカー協会	10分
	~休憩 15分~	
	3. 全体ディスカッション	105分
	-自己紹介	
	<i>-</i> ディスカッション	
	4. 事務連絡	5分
参加人数(実数)*	36名	

*参加者属性:

①組織別人数(重複あり)

JFA	5	名
9地域サッカー協会	1	名
都道府県サッカー協会	5	名
Jリーグ	1	名
Jリーグクラブ	6	名
Jリーグ百年構想クラブ	0	名
その他サッカー関連団体	0	名
アンプティサッカー	2	名
CPサッカー	2	名
ソーシャルフットボール	3	名
知的障がい者サッカー/	2	名
知的障がい者フットサル		
電動車椅子サッカー	1	名
ブラインドサッカー/	1	名
ロービジョンフットサル		
デフサッカー/	2	名
デフフットサル		
その他障がい者サッカー	0	名
関連団体		
JIFF	6	名
自治体、その他関連団体	0	名
合計	37	名

②役職別人数

役員・管理職	12 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	12 名
管理部門	7 名
強化・指導者	4 名
選手	1 名
合計	36 名

事例共有	
ヴァンフォーレ甲府	障がい者サッカーチームとの連携
	ソーシャルフットボール、知的障がい者サッカー、ブラインド
	サッカーのチームと連携している。
	2010年から「ヴァンフォーレふれあいサッカー教室開催(精神
	疾患・知的障がい対象)を開始。不定期でアトムズ甲府に指導

	スタッフを派遣。2015年からアレグラッソ甲州(小澤こころの
	クリニック)に指導スタッフ派遣を開始し、2019年からは月2回 に。
	「。 ヴァンフォーレふれあいカップ、はくばく×ヴァンフォーレ P
	resents Partner CUP開催等、パートナー企業からの支援も得
	て大会を開催し、スポーツ振興と社会参加を促進。
	県の人権ユニバーサル事業(障害者等の人権課題をテーマとし
	た人権啓発事業)を受託し、障がい理解を深める機会としてブ
	ラインドサッカー体験教室を小学校向けに実施。山梨キッカー
	ズと連携。
	ひとつの出会いから熱意が伝播し、個人から医療機関、大学、
	クラブ等の組織の連携が始まり、継続的な取り組みに。新たな
	笑顔や価値が生まれた。 歴史
次級ポリク2 励云	1998年のゆうあいピック茨城大会(全国精神薄弱者スポーツ大
	会)開催を県内で開催。2008年より県協会としてハンディキャ
	ップ支援事業開始。2018年、インクルーシブ委員会を設置。
	事例
	ほほえみカップサッカーチャンピオンシップ大会やホーリーフ
	ェスタの大会運営、フレンドリーサッカーフェスティバルや茨
	城IDトレセンの指導普及・育成、エンジョイフットボールフェ
	スタの運営による啓発。JIFFが主催するインクルーシブフット
	ボールフェスタ茨城の主管。その他、ブラインドサッカーやア
	ンプティサッカー体験会、ウォーキングサッカーを実施。
	課題 知的障がい者サッカーとの連携が主で、他の障がい者サッカー
	との連携が課題。
	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照)
会からみる現状・課題	
アンプティサッカー	活動状況
	茨城、栃木、群馬、山梨で活動しているチームはない。
	チーム活動は南関東に集中しているが、東京のチームには茨城
	から、埼玉のチームに群馬、神奈川のチームには長野から選手
	が活動している。 選手発掘
	選子完備 チーム加入の入り口としては、義肢装具士、理学療法士からの
	紹介が最も多い。
	課題
	大人であれば遠方のチームで活動できるが、中学生高校生だと
	親御さん次第。一般の少年サッカーチームの練習に混ぜてもら
	う、Jリーグのサッカースクールで障がいのある選手を受け入
CPサッカー	
	北関東では口吊的にサッカーができる場がなく、目都圏のデー ムに通ってきている人がいる。
	課題
	脳性麻痺や中途で脳卒中で体に軽い麻痺が残っている人を対象
	としているため、対象者が少ない。比較的軽度な人が行うので
CPサッカー	親御さん次第。一般の少年サッカーチームの練習に混ぜてもらう、Jリーグのサッカースクールで障がいのある選手を受け入れてもらう等、受け入れの場が増えることが望ましい。 活動状況 茨城、栃木、群馬、山梨で活動しているチームはない。 北関東では日常的にサッカーができる場がなく、首都圏のチー

	、障がい者が利用するスポーツ施設や支援学級とかではなく、 健常者コミュニティ、普通級に進学し生活している人が多い。
	そのため、情報が届きにくい。
	今後に向けて
	2014年からフレームフットボールの普及プロジェクトがイング
	ランドで開始され、現在10カ国で実施されている。日本でも導
	入を開始し、月1回体験会を実施している。
ソーシャルフットボール	活動状況
	栃木、群馬、山梨でチームが活動している。
	群馬では、精神障がいに限らず、知的障がいの方、身体障がい
	の方、発達障がいの方も活動している。
	Jリーグクラブとの連携
	山梨のチームは、月1度ヴァンフォーレ甲府から指導者を派遣
	いただいている。
	要望
	女主 病院等で活動を開始することが多い。サッカー好きの方が指導
	していることが多く、競技力向上のため指導者、「リーグクラ
	ブなどから派遣してもらえるとありがたい(山梨モデル)。
	他競技との連携
	群馬では、聴覚障がいのチームと交流がある。
知的障がい者サッカー/	活動状況
知的障がい者フットサル	関東全体では213チームが活動している。1都7県全域で選手が
	所属している。
	課題
	高校卒業後のプレーの場がない。
	サッカー協会との連携
	全国障害者スポーツ大会等で密に連携できている。
電動車椅子サッカー	活動状況
	茨城でチームが活動している。競技志向ではなく、エンジョイ
	志向のチーム。
	課題
	競技を始めるにあたり、電動車椅子が高額のため入手が困難。
	助成金の活用ができるが、競技に必要なカスタマイズは自己負
	担となる。
	病気が進行性のため、障がいが重度になると引退する選手がで
	てきてチーム運営、存続が難しいことがある。
ブラインドサッカー/	活動状況
ロービジョンフットサル	「西野小仇 ブラインドサッカーが山梨、茨城(2チーム)、ロービジョン
	フットサルが茨城で活動している。
	課題
	全体としては、教育課程への導入。盲学校教育に組み込まれて
	いない状況で、学校教育の中での接点がない。別の競技に流れ
	てしまう (ゴールボール等)。
	チームとしては、選手の発掘と資金調達。
デフサッカー/	活動状況
デフフットサル	茨城でチームが活動している。
	課題
	普通校に通う子どもが多くなり、情報が入りにくい。その場合
	、仮にデフサッカー、デフフットサルに出会っても、手話がで
	きず言語が壁になることもある。
1	•

	全国にプレーしたい選手はいるが、チームが少なく受け皿がな
	い。健常者のチームに登録して参加してもらう必要がある。
	健常者のチームと試合を組むと笛が聞こえずファウルやトラブ
	ルになることがある。
	他競技との連携
	茨城では、ロービジョンフットサルのチームと3ヶ月に1度一緒
	にフットサルを行なっている。
	事例
	鹿島アントラーズ)
	ホームタウン内の特別支援学校へコーチを派遣してサッカー教
	なっちょうではの特別文版子校・コークを派遣してリッカー教 室を行なっている。
	JIFFが主催するインクルーシブフットボールフェスタへ指導者
	派遣を行う予定。
	水戸ホーリーホック)
	2019年度、特別支援学校への巡回を15箇所実施している。
	JIFFが主催するインクルーシブフットボールフェスタへ指導者
	派遣を行う予定。
	トップチーム使用している「アツマーレ」の場の提供が可能。
	今後に向けて
	Jリーグクラブの発信力、メディアとの関わり等を活用して情
	報発信面でクラブとして協力していきたい。
	ホームゲームでPRの場がつくれる。サッカー教室を実施してい
	きたい。
サッカー協会	事例
	群馬県サッカー協会)
	県内の特別支援学校のチームを対象とした知的障がい者の大会
	を開催している。これから、他の障がい者サッカーも含め県内
	で啓蒙していきたい。
	栃木県サッカー協会)
	知的障がい者サッカーに関わっている。天皇杯の予選決勝戦の
	前座で福島県選抜チームと試合を行なった。
	特別支援学校同士による対抗戦は、一昨年からフットサル大会
	になっており、会長が視察した。
	CPサッカーと知的障がい者サッカーのチームとの練習試合の相
	談を受けていて、進めている。
	山梨県サッカー協会)
	協会主催のフェスティバルでブラインドサッカー体験会を実施
	している。ブラインドサッカーの中日本リーグに会場費等金銭
	的な補助を行なっている。
	昨年のデフサッカー・フットサルの関東大会へ審判員を派遣し
	作中のアプリッカー・フットリルの関係人会・番刊貝を抓進し た。
	協会内に委員会を設営して、ヴァンフォーレ甲府、障がい者サールカーアはのこれへ目での東米な事物であれば、全体的よなは
	ッカー団体の三者合同での事業を実施できれば。金銭的または
	労力的な支援を検討する。
	茨城県サッカー協会)
	知的障がい者サッカーの活動が主。チャンピオンブロック、ア
	グレッシブブロック、エンジョイブロックと3つの大会カテゴ
	リーをつくっている。
	登録費から、茨城県知的障がい者サッカー連盟に金銭的な助成
	をしている。他の種別についても相談していきたい。

日本協会と直接繋がっているので、チームとの連携の繋ぎ役になれる体制をつくっていきたい。

今後に向けて

今後審判派遣等で協力していきたい。







③参加者の声

■とても満足 6名

- ・他の障がい者サッカー関係者とつながる事ができた。
- 様々な人々とつながりができた。
- ・障がい者の実体と云うか実情がわかった。。
- ・チーム数や課題の取りまとめがあり、良かった。
- ・山梨のケース(当事者、支援者、Jチーム、企業のつながり)のモデル を共有できた。

■満足 10名

・いろいろな現状、課題を聞くことができて参考になった。初めてお会いした組織の方が多く、障がい者サッカー競技を知らせる機会となった。

- ・他県の情報を聞くことができた。参考にしたいことがあった。
- ・まだほぼスタートしていない状況のなかで、各団体様の様子、他のプロスポーツクラブ様のかかわりが把握できた。
- ・各県、各カテゴリーの方々が一堂に介し、情報共有できた事そのもの に大きな意義があった。(仲間づくり)
- ・Jリーグクラブの話を聞くことができたこと。
- ・Jクラブが参加するという点では、すごいステップアップであると思う し、今後の広がりを考えると、この場がこれからの地域での展開の追い 風となるのではと思う。

はずかしいの一言。

・各障がい者サッカー連盟の現状がわかり、今後について考えやすくなった。

感想・気づいた点

- ・知らないことがたくさんあり、勉強になった。今後もこのような会議に出席したい。
- ・Jクラブと障がい者サッカー団体の現状を共有できたことはよかった。
- ・県FAでの委員会設立を提案している最中。この機会があって良かった。進め方等、より深く知りたいと感じた。

会議の満足度

- ・いろいろな方とつながり協力しながらやっていくことが大事。 ・それぞれの障がい者サッカー団体が抱える問題と課題、そしてそれら に対する取り組みが伺え勉強になった。地元の活性化に役立つものも多 かった。Jリーグの関わり、47FA、9地域FA、JFAとの関わりについても今 後に向けてよいアイディアを頂けた。 ・忙しいとか、お金がないとか、実行できない理由を探すことは簡単で あるが、まずはできることからスタートしないとと改めて考えるように なった。 ・それぞれ課題は様々だが、障がい、団体をこえて協力、連携すること はできるのかなと思った。 ・協会とクラブ、各障がい者サッカー団体がどう連携し、どういった事 業、企画を展開していけば障がい者サッカーが広がっていくのか、具体 的な取り組みや先進的な事例をもう少し紹介していただければありがた い。 ・各障がい者サッカー団体からの話は要点を絞って話をしてもらうとよ ■実施単位 9地域ごと 11名 都道府県ごと 2名
- 今後同様の会議を 実施する場合の 単位

その他 1名

「その他」の意見

・もし関東で集まるのであれば、今回とは違う組み合わせで集まり、今 年聞けなかった情報を聞いてみたい。

コメント

- まずは県レベルで集めて顔あわせができていた方がいい。
- ・障がいの種別ごとの時間があっても良い。

(6) 北信越

開催日時	2020年1月19日(日)会議 13:00~16:00	
	やまびこドーム(長野県松本平広域公園信州スカイパー	ーク内)
開催場所	第一会議室	
	〒390-1132 長野県松本市大字空港東9036-4	
	1. ご挨拶・本会議について	10分
スケジュール	2. 取り組み事例の共有	
	・日本サッカー協会/日本障がい者サッカー連盟	25分
	・松本山雅FC	10分
	・ツエ―ゲン金沢	10分
	・長野県サッカー協会	10分
	~休憩 15分~	
	3. 自己紹介・全体ディスカッション	100分
	4. 写真撮影、アンケート	5分
参加人数(実数)*	31名	·

*参加者属性:

①組織別人数(重複あり)

TDA	1	k7
JFA	1	名
9地域サッカー協会	0	名
都道府県サッカー協会	7	名
Јリーグ	0	名
Jリーグクラブ	6	名
Jリーグ百年構想クラブ	0	名
その他サッカー関連団体	0	名
アンプティサッカー	1	名
CPサッカー	2	名
ソーシャルフットボール	3	名
知的障がい者サッカー/	0	名
知的障がい者フットサル		
電動車椅子サッカー	3	名
ブラインドサッカー/	4	名
ロービジョンフットサル		
デフサッカー/	2	名
デフフットサル		
その他障がい者サッカー	0	名
関連団体		
JIFF	4	名
自治体、その他関連団体	0	名
合計	33	名

②役職別人数(重複あり)

役員・管理職	17 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	4 名
管理部門	7 名
強化・指導者	3 名
選手	1 名
合計	32 名

	事例共有
松本山雅FC	ブラインドサッカーの取り組み
	2015年にブラインドサッカー体験会に参加。それをきっかけ
	に、2016年・2017年に山雅講演会主催の体験会を開催(2017年
	は選手参加)。2018年にホームゲームでブラインドサッカー体

	T
	験会開催。2019年にクラブ主催でホームタウンを巡回する体験
	会を開催。スクールコーチが大会に参加。
	活動開始から、関わる輪の拡大、地域へのさらなる普及、クラ
	ブ主導の事業展開として着実に活動が広がってきた。
	可能性と課題
	サッカーを通じて社会につながる能力を養うことができる、パ
	ラスポーツではなくユニバーサルスポーツとして活用できる可
	能性(行政からのニーズもある)。
	事業継続にあたってのマネタイズ方法が課題。
ツエーゲン金沢	ブラインドサッカーの取り組み
7 V 1112.0 V	2018年度から北陸初のブラインドサッカーチームとして設立さ
	れた「ツエーゲン金沢BFC」を広報および物的提供等の側面か
	らサポート。具体的には、イベントへのスタッフ・マスコット
	派遣(ヒト)、活動資金あつめ および備品提供(モノ・カ
	ネ)、チラシ およびSNSによる活動告知(情報)。
	目標と課題
	県内におけるダイバーシティの意識向上、BFCからブラインド
	サッカー日本代表選手を輩出、ブラインドサッカー部門として
	事業化が目標。
	相互の情報共有、マンパワー不足によるサポートの遅れ、BFC
	が完全に単独で活動していくためのサポートが課題。
長野県サッカー協会	障がい者サッカーの取り組み
	県内の電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー、知的障がい
	者サッカーチームと連携している。
	電動車椅子サッカーでは、映画「蹴る」の上映会やサッカー大
	会を開催。ブラインドサッカーでは、体験会を開催。知的障が
	い者サッカーでは、グラスルーツデイ等にサッカー大会の開
	催、選抜チームの活動を支援している。キッズフェスティバル
	では、ウォーキングサッカーを実施。
	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照)
会からみる現状・課題	5 1 7 NO 1 1 (17) (28) (1 of C 1) (1 d 4) (19 NO)
アンプティサッカー	活動状況
	北信越で活動しているチームはない。長野県松本市在住の選手
	が1名おり、神奈川県厚木市にあるチームへ通っている。
	今後について
	東日本リーグの一部の試合を北信越で開催する新しい試みをし
	ていきたい。
	体験会等の希望者向けにクラッチの貸し出しを行なっている。
CD4h	How to動画をYou tubeにあげている。
CPサッカー	活動状況
	北信越で活動するチームはない。
	富山県、新潟県には熱心な選手がいる。
	課題
	チームをつくって活動したいという選手はいるが、同じ障がい
	では人数が足りない。CPの選手だけに限らず、様々な障がい種
	別の方や健常者もいて一緒にサッカーを楽んでいるチームが続
	いている。
	CPサッカーに来る対象者は比較的軽度で、スポーツが好きな人
	は健常者と一緒に普通にやっている人が多い。一方、健常者の

	中でやるにはついていけないという人は、スポーツをやらない選択をする人が多い。
	その他
	CPのなかでも足が悪い人の方は活躍が難しい。そういう人でも
	サッカーができる機会をつくるため、競技用の歩行器を開発・
	使用するサッカー(フレームフットボール)を国際的にも広め
	ている。
ソーシャルフットボール	活動状況
	長野県、新潟県でチームが活動している。石川県金沢市でチー
	ムをつくる動きがある。
	病院内のデイケアや就労支援の事業所からチームができること が多い。
	要望
	サッカー専門の指導者が不足しており、病院のサッカー好きの
	スタッフが指導している。サッカー協会、Jリーグクラブに指
	導者派遣の協力をいただきたい。
	山梨のチームでは、ヴァンフォーレ甲府の元コーチが監督をし
	ている。長野県内でも同様の協力を得られると競技が大きく発
たりもり立むいまれた。ま	展していく。
知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル	活動状況 新潟、福井、長野、石川でチームが活動している。
	北信越の普及と競技力向上が全国的に遅れている。「もうひと
	つの高校選手権」の併設で開催する普及大会に去年から石川県
	のチームが出場した。
	課題
	それぞれのチーム同士の距離が遠く、試合数が少ない。そのた
	め、地元のシニアチーム、女子チーム、高校生Bチーム等と試
電動車椅子サッカー	合をしている。 活動状況
电粉手制コックル	長野県、石川県で活動している。
	長野では、信濃医療福祉センターを拠点に活動している。
	課題
	人材、資金不足。電動車椅子サッカーを行うのに費用がかか
	る。また、重度の障がいを持った人が多く、家族やボランティ
	アのサポートが必要。 施設の理解。スロープ、多機能トイレの有無や、床の傷の懸念
	施設の理解。スローク、多機能ドイレの有無や、床の傷の悪心 があり使用できない施設がある。
ブラインドサッカー/	活動状況
ロービジョンフットサル	長野県、新潟県、石川県でチームが活動している。
	日本協会との連携
	新潟県、長野県で地域リーグを開催している。会場探し等をチ
	ームに依頼している。 担党院が10月向けのキップキャンプで発掘されたスピャの発品
	視覚障がい児向けのキッズキャンプで発掘された子どもの普段 の活動の受け皿にチームがなっている。
	課題
	試合を行う場合フェンスを設置する必要があるが、許諾を得ら
	れる会場が限られる。
	人材。見えないという障がい特性上、練習のサポートスタッフ が必要。
	4 元 久 0

	T
	J リーグクラブとの連携
	松本山雅FC)
	松本山雅FCの協力を得て、毎年体験会を実施している。
	ツエーゲン金沢)
	日本ブラインドサッカー協会主催の地域リーダープログラムを
	通じて、北陸初の「ツエーゲン金沢BFC」が立ち上がった。ホ
	ームゲームボランティアをしていたことから、立ち上げ段階か
	ら協力を得ることができた。
	その他
	あり、交流している。
デフサッカー/	活動状況
デフフットサル	新潟県で活動している。
	福井県にチームはないが、代表選手が活動している。
	「リーグクラブ、サッカー協会との連携
	新潟県サッカー協会・アルビレックス新潟)
	連携してイベントを実施した。声なし、耳栓をしてのサッカー
	体験と、ウォーキングサッカーを通じて、手話、聴覚障がいの
	理解促進をはかった。
	課題
	選手の発掘。見た目ではわからないため。インテグレーション
	(人工内耳)を使う人は、普通学校に行く。ろうのコミュニテ
	ィから離れると、情報が入らない。医療の発達により、これか
	らより普通学校に通う人が多くなる。
Jリーグクラブ	事例
	松本山雅FC)
	長野県と連携しろう学校にサッカー教室を毎年行なっている。
	ホームゲームで手話のマッチデー等をやっている。
	今後は誰もが参加できるウォーキングサッカーにも力を入れて
	いきたい。
	AC長野パルセイロ)
	ホームゲームの試合前に誰でも参加できるウォーキングサッカ
	ーを実施している。
	ツエーゲン金沢)
	パートナー企業である病院と連携し、入院・通院している精神
	疾患のある方向けに2018年から年4回スクールコーチが訪問し
	サッカー教室を開催している。
	アルビレックス新潟)
	県協会と連携しフェスティバルに普及指導者を派遣している。
	全国障害者スポーツ大会の予選の空いた時間にグラウンドで健
	主国障害者ババーング会の「選の主いた時間にファリントで関 常と知的障がいの子ども達が一緒に混ざるサッカー教室を開催
	吊と知的障がいの子とも達が一緒に促さるリッカー教室を開催 している。
	している。 カターレ富山)
	県から委託を受けて、障がい者支援や児童福祉施設等からホー
	ムゲーム招待など行なっている。
サッカー協会	事例
	長野県サッカー協会)
	障がいのある人も一緒にサッカーファミリーとしてやっていく
	強い想いがある。2027年には長野国体、全障の開催を予定して
	おり、今後さらに活動を一緒にやっていきたい。
	福井県サッカー協会)
	佃廾県サツル一晩会)

協会内にグラスルーツ委員会を設立して活動を開始した。 県内では、デフサッカー体験会、電動車椅子サッカー交流大会

が開催されている。

全国障害者スポーツ大会をきっかけに知的障がい者サッカーの チームができた。スペシャルオリンピックス日本・福井と3年 前から連携している。

富山県サッカー協会)

知的障がい者サッカーの団体依頼を受け、サッカー教室を行なっている。

石川県サッカー協会)

県内の知的、視覚、精神、電動車椅子サッカーのチームが集まり、初めて会議を実施した。フェスティバルを計画している。 新潟県サッカー協会)

アルビレックス新潟、各障がい者サッカーチームの協力を得て、パラサッカーフェスティバルを開催している。それに向け、毎月会議を開いている。2019年度は全日本U-12サッカー選手権大会と併催で行なった。







③参加者の声

■とても満足 7名

- ・競技特有の悩みが理解できた。
- ・各スポーツ(種目)の状況がわかった。
- ・様々なスポーツ・地域の状況を聞くことができた。
- ・各協会のみなさんのご意見が聞けた。また、Jリーグのクラブの実際の活動がわかってよかった。
- ・北信越でのつながりができた。
- ・知識・モチベーションが高まる。今後の指針が見えてくる。

■満足 13名

- ・各地域の状況の把握ができた。
- ・障がい者サッカーの現状・課題について詳しく生の声で知る事ができた。

会議の満足度

- ・各チームの話を聞かせてもらって、苦労している点が良くわかった。 また、今後いろいろと話を聞かせてもらえる関係もできると思う。
- ・北信越の障がい者サッカーの現状と課題、ネットワークのつながりができてとてもよかった。
- ・普段なかなかお話を聞けないような団体さんのお話(現状・課題・取り組みetc)を聞けたのでとても参考になった。新たなつながりができた。
- ・他クラブの事例を聞き、障がい者サッカーに関して、知識が広がった。
- ・様々な活動を聞くことができて、とても良い刺激をいただいた。
- ・色々なお話しを聞くことができてこれからの活動の参考になった。
- ・皆さんの熱意が伝わった。

	・知らないスポーツもあり勉強になった。
	・それぞれの実態がわかって良かった。県で今後開催するフェスティバ
	ルの参考になった。
	・同県の関係者とも知りあうことができ、良い機会になった。チームの
	運営、地域とのつながりを勉強できた。
	一緒に頑張っている方がいるということにこのような場で顔を合わ
	せ、話を聞くことができて、はげみになった。
	・課題等はたくさんあるが、みなさんのお話を伺い、ポジティブに活動
	を広げていきたいと思った。
	- · · ·
	・各県協会でもとり組みが進んできている印象を持った。
	・(障がい者サッカークラブ)アンケートなど有益な情報が多かった。
感想・気づいた点	・情報の共有で時間がなくなってしまったのが残念だった。
	・障がい者サッカーを普及させたり、改善する為にもこのような会議は
	必要だと感じた。
	・本会議であがった課題点等に関してまた是非話をする機会をもてたら
	よいと感じた。
	・都道府県別に開催してもいいと思う。地域により問題点がちがう点が
	ある。
	・Jリーグクラブをもっと使って、障がい者サッカーを盛り上げていきた
	V'o o
	・協会ごとだけでなく、他の協会、他のスポーツとのイベントが大切で
	はないか。
	・具体的な啓発の検討
	■実施単位
	9地域ごと 10名
	都道府県ごと 2名
	■その他 (3名)
	・競技毎で集まりたい。
今後同様の会議を	・関東や関西の話をもっと聞いてみたい。すぐには近づけないけど、少
実施する場合の	・ 関果や関西の話をもつと聞いてみたい。 すくには近づけないけど、少しずつでもできることをやりたい。
単位	
	・上半期下半期各1回ずつしたい。9地域ごと(各競技1つ)。都道府県ご
	と(競技別に固まる)。代表を決めて、全国の各競技団体で集まって会
	議。
	コメント
	・北信越という大きな形の方が他地域の状態がわかりよかった。
	・ディスカッションの時間がもう少し取れるとありがたい。
その他	・レクリエーションなどをして、名前と顔を覚えたい。会議だけで終わ
	るのはもったいないので、何かしたい。

(7) 東海

開催日時	2019年10月27日(日) 会議 16:40~19:30	
111/2014日115	名古屋市公会堂	
開催場所	〒466-0064 愛知県名古屋市昭和区鶴舞一丁目1	番3号
	1. ご挨拶・本会議について	5分
	2. 取り組み事例の共有	
	・日本サッカー協会/日本障がい者サッカー調	車盟 20分
	・障がい者サッカー団体	
	-日本日本ブラインドサッカー協会	10分
	-日本アンプティサッカー協会	10分
	Jリーグクラブ	
スケジュール	-名古屋グランパス	10分
	-アスルクラロ沼津	10分
	-清水エスパルス	10分
	・愛知県サッカー協会	10分
	~休憩 10分~	
	3. グループディスカッション	70分
	(愛知県/静岡県/三重県・岐阜県の3グループで実施)	
	4. 事務連絡、アンケート記入	5分
参加人数(実数)*	32名	

*参加者属性:

①組織別人数 (重複あり)

JFA2 名9地域サッカー協会1 名都道府県サッカー協会5 名Jリーグ1 名Jリーグクラブ6 名Jリーグ百年構想クラブ0 名その他サッカー関連団体1 名アンプティサッカー2 名CPサッカー2 名ソーシャルフットボール2 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル1 名電動車椅子サッカー/ ブラインドサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル3 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名JIFF 自治体、その他関連団体1 名合計34 名			
都道府県サッカー協会 5 名 Jリーグ 1 名 Jリーグクラブ 6 名 Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 1 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ロービジョンフットサルデフサッカー/デフフットサル 3 名 その他障がい者サッカー 0 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 1 名	JFA	2	名
Jリーグ 1 名 Jリーグクラブ 6 名 Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 1 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 2 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 面動車椅子サッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 3 名 デフフットサル 3 名 その他障がい者サッカー 0 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 1 名	9地域サッカー協会	1	名
Jリーグクラブ6名Jリーグ百年構想クラブ0名その他サッカー関連団体1名アンプティサッカー2名CPサッカー2名ソーシャルフットボール1名知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル2名三動車椅子サッカー/アラインドサッカー/デフナッカー/デフフットサル2名デフフットサル3名その他障がい者サッカー0名関連団体1名目治体、その他関連団体1名	都道府県サッカー協会	5	名
Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 1 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 2 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 3 名 デフフットサル 0 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 1 名	Jリーグ	1	名
その他サッカー関連団体 1 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 2 名 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル 2 名 でラインドサッカー/アフィントサル 2 名 デフフットサル 3 名 その他障がい者サッカー関連団体 0 名 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 1 名	Jリーグクラブ	6	名
アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 2 名 知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル 2 名 でラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 2 名 デフナッカー/ デフフットサル 3 名 その他障がい者サッカー 関連団体 0 名 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 1 名	Jリーグ百年構想クラブ	0	名
CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 2 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 3 名 デフフットサル 0 名 関連団体 3 名 目治体、その他関連団体 1 名	その他サッカー関連団体	1	名
ソーシャルフットボール2 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル1 名電動車椅子サッカー/ ブラインドサッカー/ アフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル3 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名JIFF 自治体、その他関連団体1 名	アンプティサッカー	2	名
知的障がい者フットサル 1 名 電動車椅子サッカー 2 名 ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 2 名 デフサッカー/ デフフットサル 3 名 ぞフフットサル 0 名 関連団体 3 名 目治体、その他関連団体 1 名	CPサッカー	2	名
知的障がい者フットサル 2 名 電動車椅子サッカー 2 名 ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 3 名 デフフットサル 0 名 関連団体 3 名 目治体、その他関連団体 1 名	ソーシャルフットボール	2	名
電動車椅子サッカー2名ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル2名デフサッカー/ デフフットサル3名その他障がい者サッカー 関連団体0名JIFF 自治体、その他関連団体1名	知的障がい者サッカー/	1	名
ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 2 名 デフサッカー/ デフフットサル 3 名 その他障がい者サッカー 関連団体 0 名 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 1 名	知的障がい者フットサル		
ロービジョンフットサル3 名デフサッカー/ デフフットサル3 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名JIFF3 名自治体、その他関連団体1 名	電動車椅子サッカー	2	名
デフサッカー/ デフフットサル3 名その他障がい者サッカー 関連団体0 名JIFF 自治体、その他関連団体3 名	ブラインドサッカー/	2	名
デフフットサル0 名その他障がい者サッカー0 名関連団体3 名自治体、その他関連団体1 名	ロービジョンフットサル		
その他障がい者サッカー 関連団体0 名JIFF3 名自治体、その他関連団体1 名	デフサッカー/	3	名
関連団体3 名月IFF3 名自治体、その他関連団体1 名	デフフットサル		
JIFF3 名自治体、その他関連団体1 名	その他障がい者サッカー	0	名
自治体、その他関連団体 1 名	関連団体		
	JIFF	3	名
合計 34 名	自治体、その他関連団体	1	名
	合計	34	名

②役職別人数

役員・管理職	13 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	11 名
管理部門	3 名
強化・指導者	3 名
選手	2 名
合計	32 名

名古屋グランパス	スペシャルオリンピックスとの取り組み	
	スペシャルオリンピックス日本・愛知と2007年からサッカー教	
	室と試合観戦をセットにしたサッカーイベントを開始。ハーフ	
	タイムには横断幕を活用しピッチをまわりPRも。	
	2017年にスペシャルオリンピックスのグローバルパートナーと	
	なり、「第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナル	
	ゲーム・愛知(2018年)」の理解促進、「スペシャルオリンピ	
	ックス ユニファイドフットボールカップ・シカゴ presented	
	by TOYOTA (2018年) 」に出場する福島チームへの指導、大会	
	の応援を実施。ユニフォームへのロゴ掲出、PR動画の制作協力	
	なども行う。	
アスルクラロ沼津	障がい者サッカーの取り組み	
	2003年から自閉症サッカースクールを開始。対象を小学生か	
	ら、中学生~社会人と広げ、2019年には計60名が参加。	
	2018年に知的障がい者サッカーチーム「アスルクラロジャン	
	プ」の活動を開始。特別支援学校と連携をはかり、月1回の練	
	習と大会に参加。	
	2019年には知的障がい者サッカー、アンプティサッカー、ブラ	
	インドサッカー、電動車椅子サッカーと連携し、障がい者サッ	
	カーフェスティバルを開催予定であった(台風のため延期)。	
	障がい者サッカーを社会連携の重点施策のひとつに位置付けて	
	いる。	
清水エスパルス	海外における障がい者サッカーの取り組み	
	2019年に台湾で特別支援学校サッカー教室を開始。ボランティ	
	アの大学生に講義と指導実践を行なった。	
愛知県サッカー協会	障がい者サッカーの取り組み	
	2017年度から障がい者サッカー連絡会議を開始。初年度は相互	
	理解、情報収集、課題を共有した(年3回)。選手・指導者・	
	サポートスタッフ・審判の確保、大会運営、組織運営、活動場	
	所、認知度の向上等意見が出たが、まずは認知度の向上を行う	
	方向性に定め、2018年度はフットボールデーのコンテンツとし	
	て取り入れることで検討を開始した。	
	愛知県フットボールセンター「テラスポ鶴舞」で行う「誰でも	
	サッカーひろば」にて障がい者と健常者による交流試合、障が	
	い者サッカー体験等を取り入れた。県内のJリーグ、なでしこ	
	チャレンジリーグ、Fリーグ (男女) によるあいちフットボー	
	ルフレンズの協力も得た。地域住民に体験や感染をしながら、	
	障がい者サッカーを知ってもらう機会をつくった。	







③視察内容

愛知県サッカー協会主催イベント「だれでもサッカー広場 2019 in テラスポ」内で実施された、電動車椅子サッカーデモンストレーション、ウォーキングサッカー体験会、障がい者サッカー交流試合等の視察を実施。





④参加者の声

■とても満足 10名

- ・各人・各団体の取り組みについて、参考になった。
- ・障がい者サッカーのいろいろな団体の取り組みを知ることができた。
- ・様々な団体やクラブの方に事業の紹介をして頂き、今後の活動の参考となった。
- 横のつながりが一番。
- ・皆さんで共有できる事が良かった。人と人とのつながりがあった。
- ・ブラサカ・アンプティ、愛知県サッカー協会のそれぞれのビジョンに もとづいた取り組みの方向性を知ることができた。自分たちが取り組も うとしている方向の共通点を見出せて、はげまされる想いがあった。
- ・知識が増え、いろいろな人と出会えた。
- ・色々な立場の方の活動や考えを知れた。
- ・崇高な志を具体化していく努力に感銘した。

■満足 14名

- ・多様のスポーツ団体の意見が聴けた。
- ・様々な団体とお話をする事ができた。今後の活動に活用したい。
- たくさんの情報を聞くことができた。
- ・色々な障がい者サッカー関係者と関われた。
- ・各クラブ団体の取り組みが知ることができた。自分自身の視座の高まり、今後に生かせそう。
- ・現状のとり組み状況を知ることができた。
- ・多くの地域の関係者が参加して頂けた。
- ・いろいろな話が聞けて良かったと思う。後は、それを我県に持ち帰り型にできるのかが課題と感じた。
- ・初めて参加させていただいた。他の障がい者たちと色々と話を聞けた し、事例発表も色々聞けて、本当に参考になった。時間が足りなかった ので、もう少し時間が欲しい。
- ・初めて障がい者サッカーの皆様と関われる良いキッカケとなった。
- ・各団体の事と交流を持つ事ができ、自分自身の新たな発見の場となった。

■普通 2名

・ディスカッションの時間が少なかった。なかなか、あつまれる機会がない中であつまっているので、聞くだけではなく発言や情報交換ができるとよい。

■不満 1名

・もっとディスカッションをしたかった。

- ・皆さんそれぞれに高い意識やビジョンをお持ちであった。
- まだまだ私たちクラブができることがたくさんあることに気づいた。
- ・団体・競技間の交流が薄いことが課題と聞いたので、今日テラスポで 開催されたイベントのような機会が増えるといいと思う。
- ・インクルーシブの考えを全国的にひろげていけるといい。
- ・障がい者スポーツの発展の可能性とむずかしい問題を知った。ただ、 各FAで拡大を考えたとき、人とお金のカベにつきあたる。
- ・サッカーという共通のスポーツを通して障がいの色々な話ができ、非常に良い刺激を受けた。
- ・動画や画を用いてプレゼンしたところは、すごく良かった。
- ・静岡のイベント活動は、健常者の方が盛り上げてくれている。各団体 の連携が必要と感じる。
- ・「なぜやる??」が腹落ちしていないと進んでいかない。(三重、岐阜)そこをJFAやJIFFとしてどうしかけるのか、難しい部分もありますが、できることはやっていきたい。
- ・最後のディスカッションが盛り上がったので、比重をそちらに掛けても良い。
- ・グループディスカッションでは、貴重な意見を聞くことができてとてもよかった。
- ・視察時に説明しながらがあったら良かった。
- ・愛知県のとりくみを見学させてもらったのは良かったが、時間が足りなかった。
- ・もっと行政(地方自治体)も参加すべき、連携して取組むべき。
- ・時間が短かった。用意もすごく充実していてとても勉強になった。
- ・交流(意見交換)の場(時間)がもう少し欲しかった。
- ・協会がやっている大もとの話ではなく、各地域での障がい者サッカーの取り組みをもっと共有した上で、協会がやっている取り組みのことを知ってもよかった。まず、地元のクラブにどういう活動をしているか知ってほしい。事前に紙ベースのものでもよい。
- いろいろなテーマがあり、何がポイントかわかりにくかった。
- ・他FAの情報を聞きたい。
- ・事例発表時、発表する時間はバラバラだったと思いますが、時間を決めておけば、他の事(ディスカッションの時間に余裕ができたりする)ももう少しできた。
- ・競技をしている当事者の方が参加しているというのはとても良かった。Jクラブも参加させてもらってありがたい。事例報告はどうしても長くなりがちなので、制限時間とアテンションを入れるなどした方が良い。静岡県はかなり取り組みをしているのがわかったので、これをさらに進め、Jクラブもうまく協力していってほしい。

■実施単位

9地域ごと10名都道府県ごと4名9地域ごと・都道府県ごと両方2名その他6名

今後同様の会議を 実施する場合の 単位

「その他」の意見

- ・9地域は2年に1回、都道府県は年1回が良い。 コメント
- ・会議は9地域で、ディスカッションの席はいろいろな県で。
- ・県単位・9地域・国単位、それぞれの会議を開けたら良い。
- ・都道府県でも良いと思うが、今回は他地域事例も伺えて良かった。
- 都道府県及び各市町協会。

感想・気づいた点

	・三重県は2021年に全国障がい者大会も控えており、これから県内での情報交換をしたい。
その他	・定期的に開催してもらいたい。 ・来年は、開催権を変えて開催してもらいたい(三重県、岐阜県) ・各チーム少数レベルの団体にも声かけて交流できるコミュニティを広げてほしい。 ・あいちフットボールフレンズの参加を継続して欲しい。 ・行政、Jリーグなど、どことつなげていくか戦略があってもよい。 ・日本各地、津々浦々に情報伝達できる仕組みがあると良い。 ・FA内での情報発信、共有が課題。

(8) 関西

開催日時	2019年12月15日 (日) 会議 13:00~16:00	
開催場所	パナソニックスタジアム吹田 2階スタッフ控室	
	〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園3-3	
	1. ご挨拶・本会議について	10分
	2. 自己紹介	15分
	3. 取り組み事例の共有	
	・日本サッカー協会/日本障がい者サッカー連盟	25分
スケジュール	・ガンバ大阪	10分
	・奈良クラブ	10分
	~休憩 15分~	
	4. 全体ディスカッション	90分
	5. 写真撮影、アンケート	5分
参加人数(実数)*	39名	

*参加者属性:

①組織別人数(重複あり)

JFA1 名9地域サッカー協会2 名都道府県サッカー協会8 名Jリーグ0 名Jリーグラブ6 名Jリーグ百年構想クラブ1 名その他サッカー関連団体0 名アンプティサッカー2 名CPサッカー2 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル1 名電動車椅子サッカー/ アフナッカー/ デフフットサル1 名デフフットサル2 名その他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名合計41 名	山 組	
都道府県サッカー協会 8 名 Jリーグ 0 名 Jリーグクラブ 6 名 Jリーグ百年構想クラブ 1 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 対ラインドサッカー/ 1 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 1 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	JFA	1 名
Jリーグ 0 名 Jリーグクラブ 6 名 Jリーグ百年構想クラブ 1 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 ゴラインドサッカー/ 1 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 1 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	9地域サッカー協会	2 名
Jリーグクラブ6 名Jリーグ百年構想クラブ1 名その他サッカー関連団体0 名アンプティサッカー2 名CPサッカー2 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル1 名電動車椅子サッカー/ ブラインドサッカー/ デフフットサル1 名デフフットサル2 名デフフットサル1 名その他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	都道府県サッカー協会	8 名
Jリーグ百年構想クラブ 1 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 7 名 ブラインドサッカー/ 1 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 1 名 その他障がい者サッカー 1 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	Jリーグ	0 名
その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/知り障がい者フットサル 7 名 でラインドサッカー/アラインドサッカー/デフリッカー/デフリットサル 2 名 デフフットサル 1 名 その他障がい者サッカー関連団体 1 名 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	Jリーグクラブ	6 名
アンプティサッカー 2 名 CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 7 名 ブラインドサッカー/ 1 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 1 名 その他障がい者サッカー 1 名 関連団体 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	Jリーグ百年構想クラブ	1 名
CPサッカー 2 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 7 名 ブラインドサッカー/ 1 名 ロービジョンフットサル 2 名 デフフットサル 1 名 その他障がい者サッカー 1 名 関連団体 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	その他サッカー関連団体	0 名
ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル1 名電動車椅子サッカー7 名ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル1 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル1 名との他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	アンプティサッカー	2 名
知的障がい者フットサル 1 名 電動車椅子サッカー 7 名 ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 1 名 デフサッカー/ デフフットサル 2 名 ぞフフットサル 1 名 要更団体 1 名 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	CPサッカー	2 名
知的障がい者フットサル 7 名 電動車椅子サッカー 7 名 ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 1 名 デフサッカー/ デフフットサル 2 名 その他障がい者サッカー 関連団体 1 名 JIFF 3 名 自治体、その他関連団体 0 名	ソーシャルフットボール	4 名
電動車椅子サッカー7 名ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル1 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル1 名との他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	知的障がい者サッカー/	1 名
ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル1 名デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル1 名長期連団体3 名自治体、その他関連団体0 名	知的障がい者フットサル	
ロービジョンフットサル2 名デフサッカー/ デフフットサル2 名その他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	電動車椅子サッカー	7 名
デフサッカー/ デフフットサル2 名デフフットサル1 名表の他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	ブラインドサッカー/	1 名
デフフットサル1 名その他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	ロービジョンフットサル	
その他障がい者サッカー 関連団体1 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	デフサッカー/	2 名
関連団体3 名JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	デフフットサル	
JIFF3 名自治体、その他関連団体0 名	その他障がい者サッカー	1 名
自治体、その他関連団体 0 名	関連団体	
	JIFF	3 名
合計 41 名	自治体、その他関連団体	0 名
	合計	41 名

②役職別人数 (重複あり)

役員・管理職	15 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	13 名
管理部門	9 名
強化・指導者	3 名
選手	1 名
合計	41 名

© Z HXI 17U		
事例共有		
ガンバ大阪	障がい者サッカーの取り組み	
日本ソーシャルフットボール協会と連携し、精神障がい者のサ		
ッカーやフットサルを通じて、人との交流や相互のコミュニケ		
ーションを深め、社会生活に触れる場、そして社会復帰の後押		
	しの場となるように取り組んでいる。	

	2007年から高槻市で活動するフットサルクラブ「高槻精神障が
	い者スポーツクラブ(2006年発足)」の活動に協力。アカデミ
	ーコーチによるサッカー教室を実施した。練習だけでなく試合
	をしたいという要望を受け、同年から「大阪スカンビオカッ
	プ」を開始した(現在、毎年17~24チーム、300~400名が参
	加)。
奈良クラブ	障がい者サッカーの取り組み
XX///	クラブ内に知的障がい者サッカーチーム(奈良クラブバモ
	ス)、電動車椅子サッカーチーム(奈良クラブビクトリーロー
	ド)を組織している。
	認知拡大のため、ホームゲームでのPR、選手を起用した啓発活
	動を行なっている。自治体とも連携し、支援学校でのサッカー
	教室、小中学校への訪問等を行なっている。
	誰もがスポーツが楽しめる場をクラブとしてつくっていく。
	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照)
会からみる現状・課題	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
アンプティサッカー	活動状況
	関西の登録者数は選手が10名。大阪に1チームが活動してい
	る。
	る。 - チームの課題
	交通費や宿泊費等、資金調達が課題。企業スポンサーを募って
	ユニフォームを作成して頂いたりしているが、その他自費です
	べて活動している。スタッフはボランティア。学業、仕事との
	兼ね合いでチームの練習頻度が制限され、月1~2回のみの練習
	。競技力、個々のスキルを上げていくことが難しい現状。 選手発掘
	義足をつくる技師装具士は必ず各県にいて、そういう人たちか
	ら情報を得てアンプティサッカーを始める方がいる。
	インターネット経由、イベント経由で知り、練習に参加や大会
	を観戦して入ってくる。
	日本協会との連携
	2013年以降、5月に大阪で全国大会(レオピン杯)を2日間にわ
	たり開催している。それまでは神奈川県で1度全国大会が開催
	されていたが、関西での大会を増やしたいということから。全
	国大会への集客が課題。
	Jリーグクラブ等との連携
	大阪での全国大会においてセレッソ大阪、INAC神戸にレオピン
	杯の告知活動の協力をいただいている。
	その他
	様々な障がい者サッカーが集まり、ごちゃまぜで試合形式のサ
	ッカーができれば、スキル、サッカーの基礎を上げることがで
	きる。サッカーの専門知識、技術が未熟。専門のコーチ、指導
	者に協力いただきたい。
CPサッカー	活動状況
	関西では2チームが活動している。
	チームの課題
	コートの確保が課題。フットサルコートが抽選となり確保が困
	難。公園の広いスペースでコーンやミニゴールを使用して練習
	無。公園の広いAハーAでコーノヤミニコールを使用して練習

	<u></u>
	している。大阪、兵庫のチームで練習相手として協力しながら
	合同でも行なっている。
	今後に向けて
	2020年1月から関西のソサイチリーグ(京都・大阪・兵庫の各
	地域)を通じて、主に第4日曜日に2時間ほどCPサッカーのPR活
	動を行う予定。
ソーシャルフットボール	活動状況
	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県でクラブチーム活動してい
	る。奈良県は以前活動していたが、休止中。和歌山県にチーム
	はない。
	チームは精神科の病院、デイケア、作業所など比較的クローズ
	ドな状況で活動しているチームが多く、地域で活動しているク
	ラブは多くない。
	滋賀県では、矯正機関、精神科、地域の相談支援所、行政との
	繋がりのなかで情報発信を行い、選手の発掘はうまくできてい
	る。
	Jリーグクラブ等との連携
	ガンバ大阪の協力を得ながら、全国規模の大会(スカンビオカ
	ップ)を毎年開催している。
	シュライカー大阪の協力を得て、選手に日本代表監督を担って
	いただいている。
	サッカー協会との連携
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	大阪府サッカー協会の協力を得て、第1回国際大会を開催する
	ことができた。
	課題
	運営スタッフの不足。競技性が高まっていくと、初めてボール
	を蹴る人たちが入りにくい。
	その他
	障がいの有無関係なくごちゃまぜでサッカーする場がいくつか
	できつつあるので、初心者はそちらにも促していきたい。そこ
	をきっかけにチームと繋がり、さらに上を目指したい人は選抜
	チームに入っていく流れをつくりたい。
	「精神障がい」という名前が嫌な人が多く、当事者の方たちの
	中から「メンタルケアフットサル」との名称が出てそれで活動
	してきた。
知的障がい者サッカー/	活動状況
知的障がい者フットサル	西野代代
電動車椅子サッカー	活動状況
电動車何子リッカー	
	選手が進行性の病気のため、プレーできる期間は限られてい
	る。引退とともに活動が休止となるケースがある。
	兵庫では、40名が選手登録している。
	Jリーグクラブとの連携
	京都では、京都サンガFCの協力を得て大会を開催している。20
	20年で7回目。
	課題
	審判の確保。審判をチーム関係者、親御さん、ヘルパーさんが
	担っていることもある状況。
ブラインドサッカー/	活動状況
ロービジョンフットサル	関西では、兵庫、大阪にチームがあり活動している。練習頻度
	は月2~3回。
	日本協会の取り組み
	日本四本の私の他の

次世代選手の発掘および育成を目的に、年に1度視覚障がい児 を集めたキャンプを行なっている。インクルーシブ教育が進み 障がいのある児童がどこにいるのかわかりにくく、キャンプを 通じて口コミで視覚障がい児を発掘する。一般校の関西・中 国・四国の主要都市の約2000校にDMを送っている。 継続的にスポーツをできる場として、2ヶ月に1度新大阪でキッ ズトレーニング (練習会) を行っている。 大阪・兵庫を中心に、一般校の小学校を訪問してブラインドサ ッカーを通じた体験授業を行っている。 課題 兵庫、大阪以外でサッカーをやりたい方がでてきても、受け皿 がない。視覚障がい者は人口そのものが少ない。チームの半数 以上が健常者がアイマスクをして一緒にプレーして成り立って いる。インクルーシブなチーム運営が今後必要になる。 指導者養成。プレーしたいという選手が出て来た時に、技術面 だけでなく、リーダーシップを発揮できるような人材が必要。 デフサッカー/ 活動状況 デフフットサル 関西では、大阪で1チームが活動している。大阪に限らず、関 西から選手が集まっている。JDFA主催の大会のみでは試合数が 少ないので、府内のリーグ(非公式で行なっている「ウルトラ リーグ」) に所属している。 Jリーグクラブ 事例 ヴィッセル神戸) 1989年のフェスピック(極東・南太平洋身体障害者スポーツ大 会)から、毎年同窓会サッカーとして当時の選手がご自身やお 子さん、ご家族で参加され大会を行なっている。クラブとして 協力し、そこでごちゃまぜでいろんな方々とサッカーをしてい る。 トップチームの選手が障がい者のために、年間シートを購入し 招待する活動を行なっている。 東京2020組織委員会のブラインドサッカーのPR映像の作成に協 力した。イニエスタ選手がアイマスクをつけて、ブラインドサ ッカー日本代表と一緒にプレーした。 京都サンガ) 電動車椅子サッカーの大会協賛を行なっている。昨年11月に大 会を開催し、トップチームの選手も参加し交流した。 スペシャルオリンピックス日本・京都のチームに練習場として 月1回サンガの人工芝のグラウンドを貸している。 雷動車椅子サッカーチーム、スペシャルオリンピックス日本・ 京都の方々をホームゲームに招待し、電動車椅子サッカー選手 には試合前ウォーミングアップ出てくる選手の花道をつくって もらい協力も得ている。 ガンバ大阪) 精神障がい者のフットサル大会(スカンビオ)を12年間継続し ている。1年目から参加していた人が、現在健常者の子ども達 向けのサッカースクールの先生をやっていますと11年目で聞い た。はじめはコミュニケーションをとるのも難しかったところ から、社会に出られた。すぐに成果はみえないが、これからも 継続してやっていく。

サッカー協会

事例

兵庫県サッカー協会)

2017年度から、協会内で障がい者サッカープロジェクトを立ち上げ活動している。バラバラで活動している障がい者サッカーが一堂に会して普及を進めることと、一般の方への認知向上が目的。

滋賀県サッカー協会)

知的障がい者サッカー、電動車椅子サッカーとはチームと連携 し相談ももらっている。奈良クラブの障がい者サッカーの活動 に補助金を出し、物品の購入等に活用いただいている。

和歌山県サッカー協会)

知的障がい者サッカーの大会 (チャレンジカップ) を毎年開催している。

2年前から県内の特別支援学校体育連盟と連携を図り、年1回サッカー大会に審判派遣や協賛をしている。来年度から、底辺を広げるため特別支援学校のリーグ戦を開催する準備をしている。

大阪府サッカー協会)

大阪府サッカー協会を中心に、7つそれぞれのカテゴリーの 方々と情報交換しながら連携を進めていきたい。大阪にはJ-GR EENがあり、ハード面は恵まれているので、活用いただきた い。

関西サッカー協会)

全国障害者スポーツ大会の関西予選の際、Jリーグクラブに協力を得ながら、サッカー教室を実施している。

今後に向けて

フットボールデーを障がい者も参加しやすいよう拡張させていっては。キッズ委員会があり、指導者派遣で連携をとっていきたい。

東京パラリンピック以降、障がい者スポーツ団体の財政が厳しくなる。公共施設の利用に関して、企業バナーの掲載により大きな費用もかかる。JFA含め、自治体に対し交渉を進めていく必要がある。







③参加者の声

■とても満足 5名

- ・各地域の状況が知れた。
- ・他府県や団体の情報を知ることができた。
- ・多くの情報と学びを頂いた。
- 顔がつながれた。

・それぞれの組織における取り組みや活動を知り、自チームに反映できる部分があった。一緒になって活動していきたいと思えるような点が多くあった。

■満足 15名

- ・他のサッカー団体の話を聞くことができた。
- ・我々が関わっている障がい者サッカー以外のサッカーの実情を知ることができた。
- ・知らないことをたくさん学ぶことができた。地元の関係者の方とつな がれた。他域の方のことが知れた。
- ・意見交換することができた。
- ・今まで知らなかったことが知れた。
- 色々な意見が聞けた。
- ・各地域の障がい者スポーツチーム等の事情が知れた。
- ・様々な取り組みが聞けた。Jクラブの方と知り合えた。
- ・顔の見える関係づくりが何より大事。今日の出会いを今後に生かしたい。
- 横の広がりができた。
- ・集まれたのは良かった。もう少し時間をとって、もっといろいろと話し合いたかった。

■普通 5名

- ・意見交換がもっとしたかった。
- ・活動報告会で終わってしまったのではないか。
- ・あまり新しい情報がない。毎年同じ。
- ・組織も体制、ビジョンもまだこれから。
- ・とても有意義な機会となった。今後も定期的に開催し、他組織とつながれたらと思う。
- ・「サッカーなら、どんな障害も超えられる。」は本当にその通りだと思った。サッカーに携わるものとして、サッカーを生業としているものとして、"サッカー・スポーツの持つ力"を改めて感じることができた。支援と言うべきなのかもわかりませんが、選手も、まわりの人々も幸せになれるような社会にしないといけないと思う。ラグビーの支援は相互関係を生んだと思う。その一助となれるようにしたい。
- つながりが必要と思った。
- ・この動きをいかに府県単位に流していけるか。
- ・Jリーグとして何ができるか。もっとJリーグとしても考えられればと 思う。
- ・もっとJリーグや総合型SCなどが参画して一員になるなど連携していくべき。
- ・ディスカッションの個々の話が長く、もう少しまとめてから発言して 欲しい。
- ・全体の組織や考え方、取り組みの一例を紹介していただいたが、具体的な内容や今後の交流のあり方など話し合う機会があれば良かった。
- ・時間がとれるなら、全体と地域との分けられた会議ができればよい。
- ・皆さんが求められていることはざっくりわかったが、もう少し具体的なことを聞きたかった。コーチの資格、遠征費用など。
- ・各団体の事例を知ることができたのは良かったが、それぞれ課題や求めることが出る中で、どのように今後連携できるのか具体的な討議ができたらよかった。

感想・気づいた点

	■実施単位		
	9地域ごと 9名		
	都道府県ごと 3名	, I	
	9地域ごと・都道府県ごと両方 2名	, 1	
	その他 6名	, -	
	■「その他」の意見		
	・全国だと地元のことのみでなく、	比較しながらケーススタディもでき	
今後同様の会議を	る。		
実施する場合の	・各日本代表レベル間でのミーティングがしたい。		
単位	・ある程度関西での活動は知れたので、もう少し地域を広げた単位で集		
	まりたい。		
	・都道府県サッカー協会+Jリーグクラブでも集まりたい。		
	コメント ・9地域ごと、都道府県ごとそれぞれ開催していただきたい		
	・どの単位でも続けて参加したい。		
	・都道府県毎でグループに分かれて交流したい。		
	・定期的に開催してほしい。		
	・年1回でも実施していただけると	ありがたい。	
・府県単位につないでいくサポートをお願いしたい。		・をお願いしたい。	
その他	・会議の内容、参加者など事前に知りたい。		
	・関西がもっと引っ張っていける力を感じた。		
	・イベントができたらと思う。	3 2 2 . = 0	

(9) 中国

開催日時	2019年12月14日 (土) 会議 13:00~16:00/視察 16:10~18:00	
開催場所	会議:広島教育会館 ホテルチューリッヒ東方2001・3階 アイネクライネ 〒732-0052 広島市東区光町2丁目7-31 視察:広島市心身障害者福祉センター 〒732-0052 広島市東区光町2丁目1番5号	
	1. ご挨拶・本会議について 2. 自己紹介 3. 取り組み事例の共有	10分 15分
スケジュール	・日本サッカー協会/日本障がい者サッカー連盟 ・広島県インクルーシブフットボール連盟 ・鳥取県サッカー協会 ~休憩 15分~	25分 10分 10分
参加人数(実数)*	4. 全体ディスカッション 5. 写真撮影、アンケート 31名	90分 5分

*参加者属性:

①組織別人数(重複あり)

JFA 1 名 9地域サッカー協会 2 名 都道府県サッカー協会 6 名 Jリーグ 0 名 Jリーグラブ 2 名 Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 JIFF 3 名 自治体 その他関連団体			
都道府県サッカー協会 6 名 Jリーグ 0 名 Jリーグクラブ 2 名 Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 3 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 対ラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフナットサル 9 名 関連団体 3 名	JFA	1	名
Jリーグ 0 名 Jリーグクラブ 2 名 Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 3 名 CPサッカー 1 名 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル電動車椅子サッカー/アラインドサッカー/アフットサルデフサッカー/デフフットサルークデフットサルークデフットサルークデフットサルークデフットサルークテジョンフットサルークテントサルークテンフットのテントのテントのテントのテントのテントのテントのテントのテントのテントのテン	9地域サッカー協会	2	名
Jリーグクラブ 2 名 Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 3 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル 2 名 でラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 2 名 デフナッカー/ デフフットサル 1 名 その他障がい者サッカー 9 名 関連団体 3 名	都道府県サッカー協会	6	名
Jリーグ百年構想クラブ 0 名 その他サッカー関連団体 0 名 アンプティサッカー 3 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ アフサッカー/ デフフットサル 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	Jリーグ	0	名
その他サッカー関連団体0 名アンプティサッカー3 名CPサッカー1 名ソーシャルフットボール4 名知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル1 名電動車椅子サッカー/ ロービジョンフットサル2 名デフサッカー/ デフフットサル1 名デフフットサル7 名その他障がい者サッカー 関連団体9 名JIFF3 名	Jリーグクラブ	2	名
アンプティサッカー 3 名 CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	Jリーグ百年構想クラブ	0	名
CPサッカー 1 名 ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフナッカー/ 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	その他サッカー関連団体	0	名
ソーシャルフットボール 4 名 知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 でラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	アンプティサッカー	3	名
知的障がい者サッカー/ 1 名 知的障がい者フットサル 2 名 可ラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフサッカー/ 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	CPサッカー	1	名
知的障がい者フットサル 2 名 電動車椅子サッカー 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフナッカー/ 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	ソーシャルフットボール	4	名
電動車椅子サッカー 2 名 ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	知的障がい者サッカー/	1	名
ブラインドサッカー/ 2 名 ロービジョンフットサル 1 名 デフフットサル 9 名 関連団体 3 名	知的障がい者フットサル		
ロービジョンフットサル1 名デフサッカー/ デフフットサル1 名その他障がい者サッカー 関連団体9 名JIFF3 名	電動車椅子サッカー	2	名
デフサッカー/1 名デフフットサル9 名その他障がい者サッカー9 名関連団体3 名	ブラインドサッカー/	2	名
デフフットサル9 名その他障がい者サッカー9 名関連団体3 名	ロービジョンフットサル		
その他障がい者サッカー9 名関連団体3 名	デフサッカー/	1	名
関連団体3 名	デフフットサル		
JIFF 3 名	その他障がい者サッカー	9	名
-	関連団体		
白 治休 その 仲 関 浦 団 休 0 夕	JIFF	3	名
	自治体、その他関連団体	0	名
合計 37 名	合計	37	名

②役職別人数 (重複あり)

役員・管理職	20 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	6 名
管理部門	4 名
強化・指導者	0 名
選手	2 名
合計	32 名

	事例共有
広島県インクルーシブフッ	設立の経緯
トボール連盟	2018年に広島県内の障がい者サッカーの統括団体として設立。
	広島県内で各団体間の交流や情報交換の機会の必要性、任意団

	体が多く社会的信頼の必要性から。「サッカーが、みんなとつ
	ながる架け橋になる」がスローガン。
	活動内容
	障がい者サッカー大会・普及イベントの開催またはサポート、
	障がい者サッカー普及啓発のための情報収集および発信、障が
	い者サッカーチームの組成、広島県や広島県障害者スポーツ協
	会等との窓口業務を担う。
	西日本アダプテッドフットボールフェスティバル(前身の団
	体・2016年~)内でアンプティサッカーブラインドサッカー、
	電動車椅子サッカーの大会、映画「蹴る」上映会、各種体験会
	等を実施。サンフレッチェ広島、行政、大学と連携。JIFFが主
	催するインクルーシブフットボールフェスタ広島を主管。
鳥取県サッカー協会	活動内容
M3-D()()))	2006年からソーシャルフットボール活動支援として活動費、全
	国大会出場補助、ユニホーム貸出等を実施。
	2007年から特別支援学校巡回サッカー活動として養護、盲学校
	等でサッカー体験を実施。
	2019年には鳥取県庁と協働しパラスポーツ普及としてブライン
	ドサッカーの体験授業、全国ろうあ者体育大会運営補助、JFA
	フェスティバルの障がい者スポーツ教室でウォーキングサッカ
	一体験を実施。活動は多岐にわたる。
	- 体験を美胞。
	一句後に回けて 活動をふたつのステップで進める。ステップ1は、障がい者サ
	活動をふたつの人ケックで進める。
	もらう、取り残さない)。ステップ2は、障がい者サッカー活
	動の組織化(単独活動、共生社会)。組織としてオープンマイ
	ンドを持ち、つなぎ役、受託役、相談役となる。
	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	1 1 9 東米内宏 (1) 井泽」にましなて封巣 (名四)
	「3.事業内容 (1)共通」にまとめて記載(参照)
会からみる現状・課題	
	活動状況
会からみる現状・課題	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが
会からみる現状・課題	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが 主で、山口県からも選手が通っている。
会からみる現状・課題	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが 主で、山口県からも選手が通っている。 課題
会からみる現状・課題	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが 主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足
会からみる現状・課題	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこ
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが 主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足
会からみる現状・課題	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこ
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チー
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場してい
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。 全国からプレーしたい問い合わせがあるが、関東、関西以外は
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。 全国からプレーしたい問い合わせがあるが、関東、関西以外は近隣にチームが無くやれる場所がない。CPに限らず色んな障が
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。 全国からプレーしたい問い合わせがあるが、関東、関西以外は近隣にチームが無くやれる場所がない。CPに限らず色んな障がい者が対象、インクルーシブな場をつくる必要がある。
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。 全国からプレーしたい問い合わせがあるが、関東、関西以外は近隣にチームが無くやれる場所がない。CPに限らず色んな障がい者が対象、インクルーシブな場をつくる必要がある。 課題 軽い身体障がいの場合、健常者の学校で生活しており、情報が
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。 全国からプレーしたい問い合わせがあるが、関東、関西以外は近隣にチームが無くやれる場所がない。CPに限らず色んな障がい者が対象、インクルーシブな場をつくる必要がある。 課題
会からみる現状・課題 アンプティサッカー	活動状況 中国地方では、広島県でチームが活動している。広島県からが主で、山口県からも選手が通っている。 課題 切断障がい者は、病院を出てしまうと情報が得られない。義足を使っている方は必ず技師装具士へお世話になっており、そこからチームに加入する場合が多い。 活動状況 中国地方で活動しているチームはない。 以前は岡山県、現在は広島県に登録している選手はいる。チームがないため、大会時に他のチームメンバーとして出場している。 全国からプレーしたい問い合わせがあるが、関東、関西以外は近隣にチームが無くやれる場所がない。CPに限らず色んな障がい者が対象、インクルーシブな場をつくる必要がある。 課題 軽い身体障がいの場合、健常者の学校で生活しており、情報が

	今後に向けて
	ソサイチ(7人制サッカー)が北海道、北信越、東海、関東、
	関西、九州でリーグ戦を月1回行なっており、そのリーグと連
	携して交流会、イベント、サッカー教室を実施していく。
ソーシャルフットボール	活動状況
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
	広島、岡山、島根でチームが活動している。
	病院、デイケアに通う方からの声に医療関係者が応えて活動が
	始まることが多い。
	課題
	精神障がい者サッカーがあることを広く知ってもらおうとSNS
	などで世の中に発信できない人もいて、難しさがある。
	精神障がいをオープンにしてチームとして参加することに壁が
	ある。例えば、新聞で取り上げられた記事を知人が見て噂され
	ないか、など。
知的障がい者サッカー/	活動状況
知的障がい者フットサル	全国障害者スポーツ大会の実施競技で、それをきっかけにチー
	ムができる(愛媛県、山口県等)。
	課題
	指導者には支援学校関係の人が多い。その師弟関係が、卒業後
	も続いてしまっている。もっと別の分野、多くの方と関わり、
	指導してもらう機会があるとまた違う考え方や価値観を得られ
	る。
	海外事例
	スペインでは知的障がいに限らず区分けをせず誰でも参加でき
	る場がある。競技ごとに推進していくのもよいが、まぜごぜの
	場をつくっていく必要もある。
電動車椅子サッカー	活動状況
	広島県で4チーム、約20名が活動している。
	広島県内だけでなく、山口県、岡山県、島根県から集まってい
	る。なかなか練習やイベントで集まることができない。
	課題
	車椅子等を準備するのに多大な費用がかかり、導入のハードル
	が高い。日常用の電動車椅子自体には補助金が支給されるが、
	競技に必要なフットガード等競技具には補助金が出ない。
	進行性の障がいのため、継続が難しくなる場合もある。
	その他
	この他 高価な電動車椅子については、全国で貸し出しできる状況をつ
	くることが望ましい。
ブラインドサッカー/	活動状況
ロービジョンフットサル	広島県、岡山県でチームが活動しているが、同じ県内でも広く
	交通の便の関係で参加しにくい状況がある。
	日本協会との連携
	岡山では、協会の主催する地域リーダープログラムを通じて、
	チームの作り方、支援者の募り方、資金調達方法を学んだ。4
	年前にチームを設立し、昨年法人化した。
	広島では、県内で日本協会主催の当事者向けの体験会があり、
	体験者数は増えている。
	課題
	学校の授業にブラインドサッカーはなく、ゴールボールに選手
	が流れてしまう。
	その他

	点字ブロック発祥の地が岡山県。啓発イベントや学校の授業に
	呼んでもらっている。
	広島では、アダプテットフットボールフェスティバルをきっか
	けに選手の発掘につながっている。
デフサッカー/	活動状況
デフフットサル	中国地方で活動しているチームはない。イベントを実施すると
	1~2名聴覚障がいの子ども達が来てくれる。しかし、受け皿
	(チーム) がなく継続してもらうことができない。障がい者を
	受け入れているチームの情報を掴めるようになると紹介ができ
	る。
	その他
	ろう学校では、サッカーがさかんではない。サッカーが上手い
	聴覚障がい者は、健常者のチームで一緒にやってきた人がほと
	んど。そのため、そういう選手にもデフサッカー、デフフット
	一かと。そのため、モブ・ブ選手にもアファッカー、アファットーサルの認知度を上げていきたい。
	要望
	一般のチームに登録している選手に情報を流してもらうこと
	で、当事者に繋がっていきたい。都道府県のサッカー協会と連
+11 b) b = _3	携したい。
Jリーグクラブ	事例
	サンフレッチェ広島)
	インクルーシブフットボールフェスタ広島でコーチ派遣と森崎
	兄弟が出演している。
	ファジアーノ岡山)
	スクールのなかで、発達障がいのある子が体験に来ていて受け
	入れている。岡山市内の発達障がい者を支援する団体の方を呼
	んで、レクチャーいただく機会を設けた。
	ソーシャルのフットボールの月1回のデイケアの活動に行き、
	可能な限り協力を行なっている。
	知的障がい者を支援する団体の方とも知り合い、2019年度から
	関わり始めている。
サッカー協会	事例
	島根県サッカー協会)
	障がい者サッカー関係者に協会理事に入っていただいた。
	今後について
	県協会がハブとなり、登録しているチームに対し情報発信を行
	い各協会へ繋いでいく役を担っていきたい。サッカーを続けて
	いける環境をつくっていく。
	医療従事者がポイントとなる競技がある。大学等も含めた産学
	連携を進めて、県内で協力していきたい。
	誰でもが楽しめるサッカーの普及をキーワードにして、活動を
	進めていきたい。
	要望
	JIFFで賛同した協会が登録チームへ案内できるよう情報をまと
	めたチラシ等をつくってもらいたい。







③視察内容

広島市心身障害者福祉センター体育館において、広島県インクルーシブフットボール連盟主催のイベント「手話 de ウォーキングサッカー」を視察。障がい者も健常者も、子どもから大人まで参加しており、会議参加者も一部体験。





④参加者の声

■とても満足 15名

- ・まずは連携の第一歩だと感じた。
- ・認知できていなかった活動について、知ることができた。
- ・深く他エリアの事、状況が知れて、良かった。
- ・各競技、各地域の様々な状況をきくことができ元気がでた。
- ・他団体や各県協会の話や現状が聞くことができた。
- ・各地及び各競技の現状が学べた。
- ・各団体や各協会の現状がよくわかった。
- ・情報交換、共有することができた。
- ・話しが聞けて、情報が増えた。
- ・他県、他障がいの活動の様子(実際、課題、連携できそうな点)が知れて良かった。
- ・多地域の方の課題や実践例を聞き、とても参考になった。
- ・さまざまな障がいへの理解を得られた。
- ・課題などの生の声をうかがえたことも現状を知ることができた上で有益だった。
- ・思っていたよりも様々な活動をされていて勉強になった。
- 中国地方のパイプができた。

■満足 5名

- ・各団体の取組がわかった。
- 各団体の現状がわかった。
- ・障害者サッカーの現状を理解することができた。
- いろいろな情報を知ることができた。
- 多くの方の話が聞けた。

■普通 1名

情報取得ができた。

感想・気づいた点	・参加者全員が発言出来て良かった。色々な意見が聞けて勉強になった。 ・実際の選手の話を聞けて、有意義だった。 ・各々だけでは、難しい内容。その中で、情報交換ができたことはとても有意義だった。 ・ネットワークを広げて行きたい。 ・「つながり」が大切だと思う。こういった会は本当に必要。 ・もっと色々な話を聞きたい。 ・「だれもが楽しめるサッカー」いいキーワードと感じた。 ・現場の思いを自治体の人にも聞いて欲しい。 ・7つのカテゴリーはなかなか一つの会議で深く理解することの難しさを感じた。数を重ねていき、各領域での認知や活動の拡大につながれば。 ・次に向けた動きや、他の全国の取り組みの話をもう少し聞きたいと思った。少し現状の把握の話でいっぱいになりすぎた。 ・県単位での連携を具体的にどうしていくか議論したい。 ・もう少しコアな会話ができると良いと思う。4~5人くらいのワークショップなど取り入れたら良い。 ・雑談タイムをとっていただけたらよかった。いろんな方と、いろいろ個別にお話したかった。
今後同様の会議を 実施する場合の 単位	■実施単位 9地域ごと 10名 都道府県ごと 4名 その他 3名 「その他」の意見 ・中国地方が適当なサイズだが、全国もよい。 コメント ・競技者数が少ないため、地域単位がよい。 ・都道府県ごとでやることも必要ではないか。より問題点、現状がわかる。 ・どのような単位でも学びがある。

・同じ協会の他県の方との交流をおこないたい。

(10)四国

開催日時	2019年11月23日 (土) 会議 13:00~16:00	
開催場所	久保豊株式会社二番町ホール	
711 IE 30/77	〒790-0002 愛媛県松山市二番町3丁目8-21 久保豊	二番町ビル3F
	1. ご挨拶・本会議について	10分
	2. 取り組み事例の共有	
	・日本サッカー協会/日本障がい者サッカー連盟	20分
	・障がい者サッカー団体	
	- 日本ブラインドサッカー協会	10分
スケジュール	- 日本アンプティサッカー協会	10分
	• Jリーグクラブ	
	-愛媛FC	10分
	~休憩 15分~	
	3. 全体ディスカッション	105分
	4. 事務連絡、アンケート、写真撮影	5分
参加人数(実数)*	23名	

*参加者属性:

①組織別人数 (重複あり)

JFA	2 名
9地域サッカー協会	1 名
都道府県サッカー協会	5 名
Jリーグ	1 名
Jリーグクラブ	1 名
Jリーグ百年構想クラブ	1 名
その他サッカー関連団体	0 名
アンプティサッカー	2 名
CPサッカー	1 名
ソーシャルフットボール	3 名
知的障がい者サッカー/	0 名
知的障がい者フットサル	
電動車椅子サッカー	3 名
ブラインドサッカー/	1 名
ロービジョンフットサル	
デフサッカー/	1 名
デフフットサル	
その他障がい者サッカー	0 名
関連団体	
JIFF	2 名
自治体、その他関連団体	0 名
合計	24 名
台計 一	24 名

②役職別人数

役員・管理職	8 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	10 名
管理部門	5 名
強化・指導者	0 名
選手	0 名
合計	23 名

	事例共有
愛媛FC	精神障がい者サッカーの取り組み
	2008年の松山記念病院体育館でのフットサル教室から活動が始
	まり、現在12年目。年に3~4回の活動からスタート。

	2009年からJリーグ地域スポーツ振興活動の補助を受け、定期
	的にフットサル教室を開始。月に1回からスタートして、現在
	は月に2~3回。参加者16歳~56歳、12~13名。
	年に2~3回県外の大会にも参加している(ガンバ大阪スカンビ
	オカップ、九州・四国スカンビオカップ、四国チャンピオンズ
	リーグ)。
亚拉思北 ·	
愛媛県サッカー協会	知的障がい者サッカーの取り組み
	知的障がい者サッカー愛媛県選抜を組織し活動(2007年~)。愛
	媛県で開催された第17回全国障害者スポーツ大会に、愛媛県選
	抜チームとして参加した。
	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	「3.事業内容 (1)共通」にまとめて記載(参照)
会からみる現状・課題	
アンプティサッカー	活動状況
	四国で活動しているチームはない。
	2019年に香川県サッカー協会の協力を得て、西日本交流戦を開
	催した。
CPサッカー	活動状況
	四国で活動しているチームはない。
	選手の引越しがきっかけでチーム設立のため動いていたが、選
	手が集まらず現在は活動していない。
	そのため、香川県サッカー協会の協力を得て西日本の大会を香
	川県内で実施した。
	Jリーグクラブとの連携
	FC今治)
	ホームゲームでイベントを実施した。
	今後に向けて
	CPの選手だけで始めていくことは困難なので、インクルーシブ
	でサッカーができる場を作り、選手の発掘をしていきチーム作
	りに繋げたい。
ソーシャルフットボール	活動状況
	四国4県全てにチームがあり活動している。
	施設利用
	高知県では、障がい者スポーツセンターの協力を得て練習場の
	確保ができている。
	Jリーグクラブとの連携
	6年前から、徳島ヴォルティスのトップチームが練習している
	会場で月1回精神障がいの子どもを対象にした交流会を開催し
	てもらっている。全国大会、四国リーグに普及コーチに監督と
	して同行いただいている。
	サッカー協会との連携
	徳島県サッカー協会)
	四国大会の運営をする時に徳島県サッカー協会フットサル委員
	会に協力いただいている。また、地元の大学生が補助で参加し
	てくれている。
	その他
	徳島県内では、一般のクラブチームと医療機関のチームで一緒
	になってチームをつくり、交流戦をしている。一緒に関わるこ
	とで理解が深まる。

全国障害者スポーツ大会の競技は知的障がい	
実施競技になるのは難しく、(影響力のある	
たはJリーグクラブ主導でインクルーシブなり	湯をつくってもら
いたい。	
知的障がい者サッカー/ 活動状況	
知的障がい者フットサル 愛媛県と高知県から全国障害者スポーツ大会	に出場している。
各地域で練習会をしているが、どれだけ当事	「者がいるのかは不
明。愛媛県の小学生は増えている状況。	
普及活動	
愛媛県では練習計画を各市町村教育委員会、	施設作業所等に練
習会の予定を送って情報発信している。	
電動車椅子サッカー 活動状況	
香川県で1チーム、高知県で1チームが活動し	ている。以前は4
県全てにチームがあり活動していた。競技レ	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
けていくうえでの資金的な難しさがあり、チ	
くなっていった。	ム、医士かりな
スタングラス。	
課題 電動車椅子の購入に200万程かかる。また、利	安乱 4 肌 以 4 赤 本
	多動士段が人変で
親御さんへの負担がかかる。	
ブラインドサッカー/ 活動状況 関係では、 関係では、	1, 2, 12 + 124+1
ロービジョンフットサル 四国で活動しているチームはない。関係者も	おりず、盲字校と
の連携もできていない。	
デフサッカー/ 活動状況	
デフフットサル 四国で活動しているチームはない。ただ、聴	
、サッカーをしたい子どもいる。人工内耳が	が普及し、全国的に
普通学校に行く子が多くなってきた。	
普及活動	
ろう学校は県内に1つはある。デフサッカー	や日本代表の存在
を認知していないことも多い。イベントや学	校訪問等、ろう学
校に行ってサッカーに触れる機会を作りたい	\ _{\circ}
サッカー協会との連携	
日本サッカー協会の許諾や仕組みが整えば、	都道府県サッカー
協会を経由して、登録者、登録チームに対し	聴覚障がい者がプ
レーしているか確認できるのでは。仕組みが	
ンケートで確認できるのでは。	
その他	
地域によって健常者とサッカーする時に補聴	器や人工内Eをつ
けることを許諾する場合と禁止する場合どち	
はつけて試合に出場できる。	, , U v , V 。 口 iii く
リリーグクラブ 事例	
Jリーグ百年構想クラブ	
Jリーク日午構造タブブ FCラ石ブ 健常者向けの大会(今治カップ)でCPサッカ	1一のチー 1 の協力
使用有向けの人会(写行カップ)でGFケッカー を得てPRの機会をつくっている。特に指導者	
	インユーノユース
が感銘を受けていた。	
今後に向けて	いよさ ル マー でまただ
公式戦の前座を場として提供でき、予算もつ	りけられる。 積極的
に普及活動に協力していきたい。	
サッカー協会 事例 関目が なっぱん	
四国サッカー協会)	

2018年度からインクルーシブ委員会を設置し、年間10万円の予算がついている。

課題

4県のサッカー協会とも何をしてよいのか手探りの状況。全国 障害者スポーツ大会がある知的障がい者サッカーを入口に裾の を広げていこうと話している。

今後に向けて

チームがない現状から、それぞれの競技ごとに競技者を増やしていくのが難しい。誰もが参加できる場がきっかけづくりとしてはよいのではないか。

サッカー協会4県がもちまわりで、7競技団体にも協力いただきながら、まぜこぜのウォーキングサッカーを実施してはどうか。Jリーグクラブにも協力を仰ぐ。

その他

ひとつの県で取り組みが難しければ、四国全体で取り組んでいける。

イベントを開催しようとすると資金の問題があるが、自治体と 連携してふるさと納税でクラウドファンディングを実施する方 法もある。







③参加者の声

■とても満足 5名

- ・様々な障がいの競技について知ることができた。
- ・各都道府県の活動を知ることができ、自身の学びにも繋がった。
- ・良い情報交換ができた。
- ・良いアイデアとか取りくみとかを得ることができた。

■満足 13名

- 知らなかったことをたくさん知れた。
- ・有意義な意見が聞けた。
- ・7つのサッカーの四国の現状を知ることができた。
- ・他競技団体の現状を把握することができた。
- ・色々な障がい者サッカーの現場の話を聞くことが出来て有意義であった。
- ・四国の関係者の皆様と交流する機会となり、大変有意義だった。
- ・他の協会の皆様と情報交換ができた。
- ・情報交換・共有の場となった。
- ・具体的な活動の実施計画を立てられるともっと良かった。
- ・継続することで、各団体・協会のコミュニケーションが図られる様になった。

	・年を重ねる度に充実の内容になっている。
	普通 1名
	百世 1石
	・四国全体の障害者サッカーに関しての情報共有となった。
	・他団体の現状を知る事ができ良かった。
	7つの団体の方から直接お話をおききできたのは良い機会になった。
	・いろんな視点を変えられる素晴らしい機会だった。
	・JFAやJIFF、各県、競技団体での取り組みを聞くことができ、今後の活
	動に生かしていきたい。
	・普及活動が広がっていく中で、自らも何か力になれることがあれば積
	極的に参加していきたい。
	・各都道府県協会と連携し、普及につとめていくとともに、一人でも多
	くの方と、サッカーの楽しさを共有できればよい。
	・普及するための資金的、人的な不足が大きな課題であることが分かっ
感想・気づいた点	た。
76,76, 74, 1 76,711	・各障がい者の代表の方から話を聞かせてもらって良かった。各団体か
	ら県協会へのアプローチ、窓口の開設が必要。
	1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
	・地域の活動とJIFF(全国)の活動の線引きをはっきりしてくれると
	(役割分担) やりやすい。
	・基本的に欠点の洗い出しという感じで、知名度が低い競技の普及活動
	に関わる難しさを理解できた。資金があれば、普及するという訳ではな
	く、各障がい者のデータベースを持っている組織へのアプローチが大
	切。
	・事前に参加者の名簿を知らせていただければありがたかった。
	何か次につながるアクションを1つでも決められるとよりよい。
	■実施単位
	9地域ごと 12名
	その他 3名
今後同様の会議を	「その他」の意見
実施する場合の	・県、四国、全国すべてに参加したい。
単位	・他のエリアでの現状を知ってみたい。
干工	・活動がさかんな地域の話も聞いてみたい。
	コメント
	・四国は人数も少ないので、四国地域がよい。
	・県単位では参加カテゴリーが集まらないので、9地域ごとがよい。
	・
その他	T G V V V V V V V V V V V V V V V V V V
	・アイスブレイクや交流しやすい仕掛があるとより活発になる。

(11) 九州

開催日時	2020年1月25日 (土) 会議 13:00~16:00	
開催場所	鹿児島商工会議所ビル(アイムビル) 4 階アイムホール 〒892-0842 鹿児島県鹿児島市東千石町1-38 鹿児島商工	
	1. 本会議について 2. 取り組み事例の共有	10分
	- 日本サッカー協会/日本障がい者サッカー連盟	25分
スケジュール	- 鹿児島ユナイテッドFC	10分
	- アビスパ福岡	10分
	~休憩 15分~	
	3. 自己紹介・ディスカッション	105分
	7競技の九州での活動状況共有(競技団体および地方	元クラブより)
	各県Jリーグクラブ、各県サッカー協会より	
	4. 事務連絡、写真撮影、アンケート記入	5分
参加人数(実数)*	38名	

*参加者属性:

①組織別人数(重複あり)

JFA	2 名
9地域サッカー協会	0 名
都道府県サッカー協会	9 名
Jリーグ	1 名
Jリーグクラブ	8 名
Jリーグ百年構想クラブ	1 名
その他サッカー関連団体	0 名
アンプティサッカー	2 名
CPサッカー	1 名
ソーシャルフットボール	4 名
知的障がい者サッカー/	1 名
知的障がい者フットサル	
電動車椅子サッカー	2 名
ブラインドサッカー/	2 名
ロービジョンフットサル	
デフサッカー/	3 名
デフフットサル	
その他障がい者サッカー	1 名
関連団体	
JIFF	4 名
自治体、その他関連団体	0 名
合計	41 名

②役職別人数 (重複あり)

役員・管理職	17 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	17 名
管理部門	4 名
強化・指導者	1 名
選手	2 名
合計	41 名

	事例共有
鹿児島ユナイテッドFC	知的障がい者サッカーの取り組み
	2019年2月に知的障がい者サッカーチーム「フューチャーズ」
	を発足。クラブ誕生時の前身となるヴォルカ鹿児島の元選手で
	知的障がい者サッカー日本代表スタッフ(2013年~日本代表コ

	The second secon
	ーチ、2015年・2018年監督)の西眞一氏を監督として迎える。
	30名が登録。
	恒常的なプレーする場がない課題の解決。週1回のトレーニン
	グを実施。
	他の競技との連携
	「新春ドリームサッカー in Kagoshima2020」で電動車椅子サ
	ッカー、デフサッカー、ブラインドサッカー、CP(脳性麻痺)
	サッカーの体験イベントを開催。
	目指す未来
	現在プレーする選手(軽度の知的障がい者)がフューチャーズ
	を卒業して、健常者といっしょに社会人チームでプレーしてい
	る未来。
	もっと重い知的障がい者の居場所となっている未来。
	知的障がいに限らず、色々な障がいを持っている人たちが、望
	む限りサッカーをプレーすることのできる鹿児島になる。
アビスパ福岡	ブラインドサッカーの取り組み
	2003年のチーム発足時からサポート。チームの強化とブライン
	ドサッカーという競技の普及活動をしている。スタッフがチー
	ムの監督、選手として活動。
	ブラインドサッカーを通じた街づくり
	ユニバーサル都市・福岡を実現するためにクラブとしてブライ
	ンドサッカーを活用し、小学校の授業の巡回やイベント、ホー
	ムゲーム前座などで啓蒙活動を行っている。ブラインドサッカ
	ー教室やイベントなどに企業や自治体から支援を得ており、人
	づくり・街づくりに貢献しながら、活動を継続できている。
	づくり・街づくりに貢献しながら、活動を継続できている。 ディスカッション
障がい者サッカー各日本協	ディスカッション
障がい者サッカー各日本協 会からみる現状・課題	
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照)
	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載 (参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載 (参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつ
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載 (参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人と
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携大分トリニータ)
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携 大分トリニータ) 大分県からの委託で学校を訪問しサッカー体験を行なってお
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載 (参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携 大分トリニータ) 大分県からの委託で学校を訪問しサッカー体験を行なっており、その中で各協会から道具を借りアンプティサッカー、ブラ
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載(参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携 大分トリニータ) 大分県からの委託で学校を訪問しサッカー体験を行なっており、その中で各協会から道具を借りアンプティサッカー、ブラインドサッカーの体験を実施した。その数を増やしていきたい。
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載 (参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携 大分トリニータ) 大分県からの委託で学校を訪問しサッカー体験を行なっており、その中で各協会から道具を借りアンプティサッカー、ブラインドサッカーの体験を実施した。その数を増やしていきたい。 それ以外にもうちのスポンサーの方から、障がい者スポーツの大会ができないかという打診もいただいていますので、そうい
会からみる現状・課題	ディスカッション 「3.事業内容 (1) 共通」にまとめて記載 (参照) 活動状況 九州では、13人が選手登録している。 大分県内にチームがあるが、大分から4名、他の県から2名ずつが来ている。 課題 全員が集まり練習できる機会が少ない。年2回の大会で全員が揃う。練習は、イベントや体験会に絡めて、メンバー5~6人とスタッフ、対戦相手の方と一緒に行う程度。その他は、健常者の社会人チームに交じって練習しているが、稀なケース。 障がいの原因が病気や交通事故が多くコミュニティがない。新聞、ラジオで知り問い合わせて入ってくることが多い。 Jリーグクラブとの連携 大分トリニータ) 大分県からの委託で学校を訪問しサッカー体験を行なっており、その中で各協会から道具を借りアンプティサッカー、ブラインドサッカーの体験を実施した。その数を増やしていきたい。 それ以外にもうちのスポンサーの方から、障がい者スポーツの

	一般のチームに受け入れてもらい、みんなで一緒にトレーニン
	グ、練習に参加させてもらうような場があるとよいと思ってい
	るが、クラッチが当たったら怖いという認識があり、理解は得
	られにくい。
	義足つけてプレーしている人は少ない。下腿のみない、先天性
	で生まれつき欠損している人のなかには、義足をつけてプレー
	している人もいる。
CPサッカー	活動状況
	九州、沖縄県で活動しているチームはない。
	以前、沖縄でチームが設立されたが、選手が増えず活動の継続
	が難しい。直近2年間活動できていない。
	大分県では、福祉施設「太陽の家」が母体となりCPサッカーを
	含むサッカーを長く行なっていたが、現在は、協会登録はして
	いない。
	福岡からプレーしたいと問い合わせをいただくが、受け皿がな
	く近いチームが神戸、大阪になってしまう。やりたいと思った
	時にやれる場所がない。
	その他
	関東、関西以外で継続して活動できているチームは、知的障が
	い等CPの選手以外、健常者も含めて活動している。誰とでも一
	緒にやれる場を広げていけたらいい。
ソーシャルフットボール	活動状況
	九州では200名程度が登録し、12~15チームが活動している。
	宮崎県を除く8県では、チームが活動している。病院、医療関
	係が中心となっている。
	活動目的
	鹿児島では、病院内のテニスコートをフットサルコートに設備
	をかえて活動している。目的は3つで、①当事者の治療、②職
	員の福利厚生、③地域との交流(フットサルコートの地域への ####
	解放)。
	サッカー協会との連携 熊本県サッカー協会)
	年2回ソーシャルフットボールの方を中心とした交流フットサ
	年2回ノーシャルノットホールの方を中心とした交流ノットリール大会「スカンビオカップ」を開催している。
	一課題
	行派で行動しているか、近隣にケームがなく対戦が応じてきない。
	その他
	イタリアにはフットボールを通じた治療のリカバリープログラ
	ムがある。
 知的障がい者サッカー/	活動状況
知的障がい者フットサル	九州では、レベルをふたつに分けている。競技志向の強いリー
Net Jimo (To / / 1 / / / /	グとフレンドシップのリーグ。長崎、福岡、鹿児島は非常に競
	技志向が強い。熊本、佐賀、大分(フットサル)はフレンドシ
	ツプ志向。
	サッカー協会と連携
	全国障害者スポーツ大会の競技で、県協会とは連携の関係にあ
	全国体育有人が ラス芸の競技で、
電動車椅子サッカー	チーム数について
	九州では、鹿児島、佐賀、福岡(未登録)の3チームが活動し
	ており、九州独自のリーグ戦を年3回実施している。
	- **- / / / **/ / / / / / / / / / / / / / /

鹿児島には、宮崎から選手が1名来ている。 チームが集中している関東、関西と比較して試合経験が少な い。日本代表選手は所属しているが、世界との壁は広がってい 費用面。電動車椅子購入には国からの補助金があるが、そのま までは座れない選手もいるので改造したり(フィッティング) が必要。そのための業者は横浜にしかない。 移動には、ヘルパーも含む2名の費用がかかる。 ブラインドサッカー/ 活動状況 ロービジョンフットサル 福岡で2チーム、沖縄で1チームが活動している。 福岡では、国内ルールでは晴眼者も選手としてアイマスクをし て出場できるが、チームの方針として選手は視覚障がい者のみ で行なっている。理由は、サッカーできる場、自由に走れる場 を奪ってしまうのではないかということから。 沖縄では、日本協会主催の地域リーダープログラムを通じて、 ノウハウを学んでチームを立ち上げた。 選手発掘 福岡では、選手は学校の先輩、後輩や色々な繋がりから学校経 由で入ってくる。 沖縄では、盲学校の先輩、後輩の繋がりで入ってくることが多 V10 資金調達 助成金、基金をいただき活動費に充てている。 チームのグッズ(タオル)を製作し、その売り上げを活動費と している。 Jリーグクラブとの連携 アビスパ福岡) 監督、GKはアビスパ福岡のコーチがやっている。 大分トリニータ) 大分県からの委託で学校を訪問しサッカー体験を行なってお り、その中で各協会から道具を借りアンプティサッカー、ブラ インドサッカーの体験を実施した。その数を増やしていきた V10 サガン鳥栖) ホームゲームのイベントとして、ピッチでブラインドサッカー の体験教室を行った。対象が小学生で、選手にも参加してもら った。 サッカー協会との連携 沖縄県サッカー協会) 沖縄では、チームが沖縄県サッカー協会の障がい者特別委員会 に参加している。イベントでは、デフサッカー、電動車椅子サ ッカーと合わせてラインドサッカー体験会を行なった。 デフサッカー/ 活動状況 九州では福岡、熊本で2チームが活動している。熊本のチーム デフフットサル は、活動頻度は低い。 課題 チームが少なく、活動する場所が少ない。

> 以前はろう学校の子ども達が多く活動していたが、ろう学校自 体に行く子どもが減っている。普通学校に進学しサッカーをや

っている子ども達が多いが、なかなか見つけられない。

コーチなどがろうの子どもが入ることを断ることがある。部活動にも入れない。そのため、ろうの子ども達がサッカーできない状況もある。

福岡では、一般の社会人リーグに参加したことがあるが、試合中に聞こえないことが原因で相手チームと揉めることがあった。たくさんの試合を経験したいが、なかなか参加するのが難しい。障がい理解を深めていければ。

Jリーグクラブ・他競技との連携

アビスパ福岡)

アビスパ福岡、福岡大学との連携でイベントを実施し、他の障がい者サッカーとも繋がりを持っている。

要望

都道府県サッカー協会の4種にろう者の子どもを受け入れているチームの情報が集まり、日本ろう者サッカー協会と情報連携できると、デフサッカーを知る機会にもなる。

その他

東京では半分が聴覚障がい、半分が健聴者という「レプロ東京」が活動し、東京都リーグに参加している。デフの選手も4級ライセンスを取得し帯同審判として活動している。入れる側の心配もあったが、理解を得ている。

Jリーグクラブ Jリーグ百年構想クラブ

事例

ギラヴァンツ北九州)

普及コーチが年に数回ブラインドサッカーのチームのトレーニングをサポートしている。

ミクニワールドスタジアム北九州の稼働後、車椅子の方のアテンドについて障がい者の支援団体の方にクラブ職員全員を対象に、出前授業を行なっていただきレクチャーしてもらう機会をつくった。

大分トリニータ)

ソーシャルアクション事業部が主導し、ということで、障がい者のスポーツ体験、学校訪問、ホームタウン活動、環境問題など、取り組んでいる。ホームゲーム時、会場障がい者スポーツの体験会を行っている。

スポンサーから、障がい者スポーツの大会ができないかという 打診を受けている。

テゲバジャーロ宮崎)

すべての障がい者サッカーのカテゴリーの選手を、スクールの中で一緒に活動している。活動は5年目。アンプティサッカーは、九州バイラオールと連携している。CP、精神、知的、電動車椅子、ロービジョンの人に教えている。

宮崎県サッカー協会の事業部と連携し、2019年にパラフットボールスクールを開始した。障がい者サッカー等の協会主催のイベントが支援学校から初めての子たちが参加する発掘を担い、その子たちをクラブとして日常的にできるようにする。その先は、サッカーの指導者ライセンスを持った専門性のある方々がスクールとして実施する。サッカーのアプローチのため、スクールを協会主催の位置付けとした。

インクルーシブのイベントとして、「ユニファイドスポーツフェスティバル」を毎年実施していて、2020年で3回目。

今後について ホームゲームの場、ビジョンや前座の時間帯を利用して、県民 へPRの場をつくっていきたい。

サッカー協会

事例

沖縄県サッカー協会)

2016年10月から特別委員会を協会内に立ち上げ活動している。 年1回フェスティバルとして参加できる場をつくっている。た だ、年1回では少ないので特別支援学校にキッズ委員会の指導 者に訪問いただき指導してもらっている。指導者も選手も増や していきたい。

熊本県サッカー協会)

これまでは「障がい者サッカー部会」という組織内で臨時的な 位置付けだったが、「チャレンジド委員会」として今年度から 正式に位置付けた。県協会で行う功労者表彰に障がい者サッカ ーの選手も対象とした。

長崎県サッカー協会)

長崎国体の後、V・ファーレン長崎と共同事業で障がい者のスポーツ大会などをやっていたが、運営部隊の変更などもあり現在は県協会独自でやっている。

宮崎県サッカー協会)

テゲバジャーロ宮崎と連携し、パラフットスクールを立ち上げた。

2026年の全国障害者スポーツ大会に向けて、知的障がい者サッカーのチームを作り上げて出場させたい。

佐賀県サッカー協会)

3年前に障がい者委員会を県協会内に設置した。

知的障がい者サッカーチーム (約20名が活動) が、日本協会の 0-60シニアリーグに登録している。

大分県サッカー協会)

これまで「大分県障がい者サッカー協会」会長として13年間活動してきて、今年「大分県サッカー協会理事」となり障がい者サッカー協会の中で予算対象となり、施設も使いやすくなった。より圏内に広めていく。

鹿児島県サッカー協会)

「新春ドリームサッカー」において、昨年は電動車椅子サッカー選手、今年は他の障がい者サッカーの選手も呼んで開催した。まだ知らない人も多いので、継続して行なっていく。

今後について

福岡では、専門部署は設けていないが協力していく。4面のフルピッチを活動できる。グラウンドを見ながら、何ができるか話し合っていきたい。







③参加者の声

■とても満足 22名

- ・情報の共有が多くできて、いいインプットになった。
- 知らなかったことが多く、全てが勉強になった。
- ・一堂に集まったことにより、様々な実情が聞けたので勉強になった。
- ・各JIFF協会・各クラブ、各県協会の現状、取り組みが聞けてとても良かった。
- 各団体の情報を共有でいる場が実現できたことがよかった。
- ・各県協会の取り組みや他の障がい者サッカーがかかえる課題などが聞けた。
- ・SNS上やメールなどでコンタクト取ったりはできるが、実際に顔を合わせて話せたのがよかった。
- ・他の障害分野、Jリーグ、JFAの方々の話を聴く事ができてよかった。 各地域、クラブの取り組みや現状を聞けて参考になりました。
- ・Jリーグやサッカー協会の方との連携のきっかけをつかむことができた。つながりたい協会、Jリーグとコンタクトがとれた。
- ・委員会立ち上げに際し、多くのヒント、情報を得ることができた。
- ・7団体が集まることもなかなかないうえ、Jリーグのチームや県協会とのつながりができたことが嬉しい。いろんな情報を知れた。
- ・クラブの取り組みもっと連携したいと感じることができた。

■満足 6名

- ・昨年に比べてこれだけ多くの方々で開催できて良かった。時間が足りないくらいだった。
- ・各FAやJリーグクラブの参加率が高く、連携という観点で有効な場になった。
- ・知る事が多かった。知っていただくことができた。
- ・Jリーグとの話がもう少しできれば良かったが、情報をいろいろと知ることができ良かった。
- 多くの話が聞けて良かった。
- ・JIFFからの資料は揃っているが、各発表者の資料やサマリーも揃っていると県に戻ってからの報告・情報がしやすい。

■普通 2名

- 人数が多過ぎではないか。
- ・毎回各々の環境、状況を理解できるけど、前進している気がしない。

■不満 1名

・伝えたかった事あったが、時間が足りなかった。

感想・気づいた点

- ・知り合うことの重要性を改めて感じる会だった。
- ・それぞれ抱えている課題など聞いた時、自分だけではなかった、みんな同じだったと感じることができた。
- ・13~16時では短いと感じた。皆さん、それぞれ熱い想いを持っていらっしゃることがわかっただけに、まだまだ聞き足りないと感じた。
- ・県協会、クラブ、それぞれ分かれてのディスカッションもあって良かった。しかし、こんなに一同に集まって全員が発言できるという機会はとても貴重でありがたかった。
- ・地元に帰って新たな取り組みをしていきたい。
- ・県サッカー協会の方と7団体の協会やクラブチーム、Jクラブがつながるきっかけになったのは、とても良い機会だと感じた。受け身ではなくて、自分たち自身が積極的に切り開いていかないといけないと思った。

- ・皆さん熱い気持ちを持って取り組みを話していたので、普段はない刺激を感じることができた。
- ・これからの活動や事業を進める上で参考になる事が学べた。
- ・障がい者サッカーの中でも、競技人口の数やレベルなどが全然違い、 驚いた。今回伺った話を持ち帰り、障がい者サッカーの普及を考えた い。
- ・NF(障がい者サッカー)とクラブからの発信力を高める必要性を感じた。
- ・盛り沢山で時間が不足した。
- ・一口に障がい者サッカーといっても種類が多く、課題のシリアスさも 違う。なにをどうすべきか、考えさせられる。
- ・テーマに対して人数が多過ぎ。時間が短すぎるのではないか。
- ・各障がい者サッカーの現状、課題がわかり、各団体同じような問題を かかえていることが分かった。
- ・今回は多方面から出席があり、時間延長となったが致し方ないと思う。
- 時間がない。
- ・Jリーグクラブと7つの障がい者サッカーは連携と、お互いに良い事業ができると気づきがあった。
- ・いろいろな断片的な知識がつながっていく所があった。
- ・各競技団体の代表が来ていただいて、よかった。
- ・ワークショップなどができれば、距離が縮まって、企画等も進めやすい。
- ・懇親会があるともっと色んな情報を知る機会になる。
- ・県協会、クラブ、それぞれ分かれてのディスカッションもあって良かった。
- ・各団体の問題を共に解決できるような場があると良いと思った。サッカーファミリーとして団結していきたい。
- ・もう少し人数を減らして詳しく聞く時間がほしい。
- ・自己紹介とディスカッションは時間やグループを分けて、課題(議題)別で興味ある話についてディスカッションした方が効率が良い。深く話せる。30人以上が集まるので、興味ない話もある。聴く時間が長い。例えば、「クラブ運営」「競技力向上」「地域(Jクラブ)との連携」「資金調達」「普及活動」など、時間を区切って、テーマ別に分かれて話した方が良い。せっかく集まったので、もっと効率良くやりたい。ある程度時間が過ぎたらフリートークタイムもあってもよい。Jリーグクラブをうまく使えたら良い。
- ・障がい者サッカーの各種で競技人口や課題感が大きく違うことを知れた。
- ・質問ができなかった点が残念だった。
- ・地域の大会も含めて、より細かいところまでを資料も含めて整理できると、もっと理解を深められる。
- ・県、クラブ単位で分かれたディスカッションの時間を設定し、より深く意見交換すると良いのではないか。
- かなりの人数なので進行スケジュールを整える。
- ・事前の資料をフォーマット統一するなどしてはどうか。
- ・事前に活動報告は資料提供(各地区、各団体が)しておいて、テーマ、課題について話を深められると良い。
- ・コーヒーブレイクなどをうまくセッティングすると、もっと参加者間のコミュニケーションが取れるのでは。

今後同様の会議を実施する場合の単位	■実施単位 9地域ごと 17名 都道府県ごと 4名 9地域ごと・都道府県ごと両方 1名 その他 10名 「その他」の意見 ・3年に1度程度、全国規模で集まれるとよい。 ・年2回ほど行いたい。 ・地域ごとではなくどの地域でも参加できるようにして欲しい(人数調整は難しいと思いますが) ・医師なども交えて、障がいの種別ごとで行いたい。 コメント ・基本的には今の規模での会議が妥当。何年かに一回、西日本や全国で集まれると刺激になる。 ・九州は北部と南部で分けたらどうか。 ・西日本で集まりたい。 ・地域ごとと、全国で行いたい。
その他	・体験会があってもよい。・会議後、交流会を行なってもらいたい。・各競技に特化した会議があってもよい。

Ⅳ. インクルーシブフットボールフェスタ

JIFF が推進している、地域におけるインクルーシブな場づくり(インクルーシブフットボールフェスタ)の事例を紹介する。

1. インクルーシブフットボールフェスタとは

理念に掲げる共生社会の実現に向け、JIFF が設立された 2016 年から毎年 12 月に都内で開催しているイベントのことである。障がい者と健常者が一緒にサッカーを楽しむことで心のバリアを取り除く。障がい者サッカー7 競技団体、東京都内の J リーグクラブ (FC 東京、FC 町田ゼルビア、東京ヴェルディ)、F リーグクラブ (フウガドールすみだ、府中アスレティック FC、ペスカドーラ町田)、なでしこリーグクラブ (日テレ・ベレーザ、スフィーダ世田谷 FC) の指導者の協力を得て指導者を派遣いただき、小学生を対象とした「インクルーシブフットボール」、年齢に関係なく誰でも、電動車椅子の方や全盲の方も一緒に楽しめる「まぜこぜスマイルウォーキングサッカー」、「障がい者サッカー体験会」等を実施している。

2018年度に広島県で初めて開催し、2019年度は東京都、広島県、茨城県での開催を予定していた(新型コロナウイルス感染拡大のため開催延期)。

■インクルーシブフットボールフェスタ紹介動画

ショートバージョン (3分26秒) URL: https://youtu.be/Y_s2NSF7floロングバージョン (6分15秒) URL: https://youtu.be/dxqFq6q8SxI



2. 東京での連携事例(JIFF インクルーシブフットボールフェスタ)

(1) 所属クラブの枠組みを超えた協働の実現(Jリーグクラブ、Fリーグクラブ、なでしこリーグクラブとの連携)

JIFF インクルーシブフットボールフェスタでは、毎年 J リーグクラブ、F リーグクラブ、なでしこリーグクラブの協力を得て指導者派遣をいただいている。2019 年度は、さらに連携を深めるために、事前にコーチ会議を実施した。プログラムのアイディアを持ち寄り、お互いに意見を出し合った。

会議には在京Jリーグクラブ、Fリーグクラブ、なでしこリーグクラブの担当コーチだけでなく、普段は障がい福祉に関わるインクルーシブフットボールコーチ(JIFFが認定する登録指導者)や自身が障がい者サッカー選手として活躍するJFA職員など、クラブや所属を超えて集い、「すべての子ども達に楽しんでもらいたい」という共通のゴールに向かって取り組んだ。運営スタッフ側の連携も生み出し、所属クラブの枠組みを超えた協働を実現した。





FC 東京/FC 町田ゼルビア/東京ヴェルディ・日テレベレーザ/スフィーダ世田谷 FC/フウガドールすみだ/府中アスレティック FC/ペスカドーラ町田(五十音順)

(2)大学・支援団体との連携の実現(大学、公益財団法人日本ケアフィット共育機構との連携)

イベント当日多くのスタッフを要するため、障がい者スポーツおよび障がい者サッカーに関心のある学生の支援を得た。大学横断のネットワークに支援を呼びかけた。5大学から学生が集まり、障がい者サッカー体験会サポート、小学生の「まぜこぜサッカー」サポート、会場設営・撤収作業、参加者誘導等、全体の運営サポートとしての役割を担った。







協力いただいた大学:桐蔭横浜大学、東海大学、筑波大学、中央大学、日本体育大学

また、JIFF がアライアンスパートナーである公益財団法人日本ケアフィット共育機構から「サービス介助士」の資格を有するスタッフにサポートいただき、介助を専門とするスタッフの配置を行なった。

- 3. 地域での連携事例(インクルーシブフットボールフェスタ広島、インクルーシブフット ボールフェスタ茨城)
 - *新型コロナウイルス感染拡大のため、2019年度のイベントは延期

・主管団体との連携

インクルーシブフットボールフェスタを地域展開するため、地域の団体と連携し主管委 託し、地元の障がい者サッカーチーム、」リーグクラブ等の協力、地元企業・団体の協賛を 得て開催する。イベント開催を通じてネットワーク構築を目指した。

広島では広島県インクルーシブフットボール連盟(HIFF)、茨城では茨城県サッカー協会 と連携した。

広島・茨城での事例

広島開催

役割

JIFF

資金調達 (営業体制の構築、

地元企業への営業活動)・イベント集客

・企画

・後援申請 ・リリース

・制作物 ・報告書作成

・資金調達 (地元企業への営業活動)

・スタッフ、ボランティア集め

・会場確保 ・当日運営

・体験会実施

茨城開催

役割 JIFF

資金調達 (営業体制の構築)

・企画

・制作物 ・後援申請 ・リリース

・報告書作成

茨城県サッカー協会

・ 資金調達 (地元企業への営業活動)

・イベント集客

・スタッフ、ボランティア集め

・会場確保 ・当日運営

・体験会実施

• 資金調達

イベントを通じて地域で多くの支援者を得るため、JIFF パートナー企業の地方支店およ び主管団体の協力を得て、営業チームを構成し地元企業・団体への営業活動を実施した。

4. 各イベント実施概要

- (1) JIFF インクルーシブフットボールフェスタ 2019 (2019 年 12 月 22 日開催)
- ①実施体制
- ・主催団体:一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(JIFF)
- ・共催団体:障がい者サッカー7競技団体(日本アンプティサッカー協会、日本 CP サッカ 一協会、日本ソーシャルフットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅 子サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ろう者サッカー協会)
- ・協力団体:在京Jリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Fリーグクラブ(FC東京、FC町 田ゼルビア、東京ヴェルディ/日テレベレーザ、スフィーダ世田谷、フウガドールすみだ、 府中アスレティック FC、ペスカドーラ町田)

②実施に向けての準備

2019年8月	企画	JIFF にて日時、会場、当日スケジュール、コンテンツ、ゲスト、
		必要スタッフ及びボランティア人数等を決定
8月~10月	企画	共催団体である日本アンプティサッカー協会、日本電動車椅子サ
		ッカー協会、日本ブラインドサッカー協会に障がい者サッカー体
		験会運営を依頼、詳細のすり合わせ
8月~11月	企画	ウォーキングサッカー関係者へのまぜこぜスマイルウォーキン
		グサッカー運営を依頼、詳細のすり合わせ
8月~11月	企画	障がい者サッカー7競技団体、パートナー企業、大学生へのボラ
		ンティア、MC、医療スタッフ、手話通訳、撮影スタッフに協力依
		頼、詳細のすり合わせ
10 月	運営	後援申請
10 月	運営	イベントTシャツ及び運営備品の準備、作成(10月~)
10月~11月	運営	参加者募集準備(10月)※11月8日募集開始

③参加者募集の方法

Google フォームを用いての一般募集。JIFFのHP、Twitter、Facebook、Instagram を通じての情報公開。また共催・協力団体への告知協力依頼、関係各所へのチラシ等の配布を通じて周知活動を行った。

④ボランティアの集め方

- ・JIFF パートナー企業ボランティア: 各社最大2名までと定め、JIFF より各社窓口担当者 ヘボランティア参加申込みURL (Google フォーム)を展開し参加を募った。
- ・学生ボランティア: JIFF より関東圏内の大学に協力を要請し、参加を募った。
- ・JIFF 指導者登録者:全登録者へ、指導者用メールマガジンを使用して募集した。
- (2) インクルーシブフットボールフェスタ広島 2020 (2020 年 2 月 22 日開催予定→延期)

①実施体制

- ・主催団体:一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 (JIFF)
- ・主管団体:一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟(HIFF)
- ・協力団体:広島県内サッカークラブ及び障がい者サッカークラブ(サンフレッチェ広島、広島エフ・ドゥ、アンジュヴィオレ広島、A-pfeile 広島等)

②実施に向けての準備

JIFF と HIFF でイベント日時、会場、内容の決定を行った。その後 HIFF が中心となり協

賛企業、各コンテンツの準備、スタッフ・ボランティアの確保を行い、JIFF は協力団体 へ連携協力の依頼、イベントに必要な製作物(バックボード、T シャツ)の作成、ゲスト 依頼・調整等を行った。

③準備全体スケジュール

2019年6月	営業	協賛営業活動の開始	
9月	企画	キックオフ MTG、会場視察、コンテンツの検討	
10 月	企画	コンテンツの決定	
11 月	企画	スタッフ・コーチ・ボランティア等への協力依頼	
12 月	企画	T シャツ等イベント備品の製作、ゲスト調整・依頼	
2020年1月	運営	協賛ボランティア募集・参加者募集開始	
2月	運営	運営マニュアル等の作成、最終打合せ	

※2月20日に新型コロナウイルスの拡大状況を鑑み、JIFF及びHIFFにて延期の決定をした。

④イベント協賛企業について

HIFF と JIFF パートナー企業である東京海上日動火災保険株式会社を中心に地元企業に営業活動を行い、JIFF が協賛契約手続きを行った。協賛金額ごとにロゴの掲出サイズに差をつけた。

⑤障がい者サッカー7団体との連携について

JIFF より7団体への協力依頼はなし。HIFF より、日頃一緒にイベントを行っている広島 県内の障がい者サッカーチームへ協力の依頼を行った。

⑥参加者募集の方法

Google フォームを用いての一般募集。JIFF と HIFF の HP 及び各種 SNS を通じての情報公開。また、HIFF が地元障がい者福祉施設や学校等を訪問し告知協力依頼を行い、更に、各所へのチラシ等の配布を通じて周知活動を行った。

⑦ボランティアの集め方

- ・協賛企業ボランティア:各社最大2名までと定め、JIFFより各社窓口担当者へボランィア参加申込みURL (Google フォーム)を展開し参加を募った。
- ・学生等ボランティア: HIFF より関係者及び広島県内の大学に協力を要請し、参加を募る。

(3) インクルーシブフットボールフェスタ茨城 2020 (2020 年 3 月 7 日開催予定→延期)

①実施体制

・主催団体:一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 (JIFF)

・主管団体:公益財団法人茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会(IFA)

協力団体:茨城県内のサッカークラブ及び障がい者サッカークラブ
 (鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホック、つくば FC、FC アウボラーダ、ポケットファイ FC、IDFC、Derroto Saber 茨城、Avanzare つくば、FC SFIDA つくば)

②実施に向けての準備

JIFF と IFA でイベント日時、会場、内容の決定を行った。その後茨城県庁と IFA が中心となりスポンサー企業集め、各コンテンツの準備、スタッフ・ボランティアの確保を行い、 JIFF は協力団体へ連携協力の依頼、イベントに必要な製作物(T シャツ等)の作成、ゲスト調整・依頼等を行った。

③準備の全体スケジュール

2019年10月	企画	キックオフ MTG、コンテンツの検討
11 月	企画	会場視察、コンテンツの確定、協力団体への協力依頼
	営業	協賛営業活動の開始
12 月	企画	運営スタッフへの協力依頼
2020年1月	企画	T シャツ等イベント備品の製作、ゲストの調整・依頼、
		参加者募集開始
2月	運営	学生ボランティア協力依頼、協賛企業ボランティア募集開始
3月	運営	運営マニュアル等の作成、最終打合せ

※2月20日に新型コロナウイルスの拡大状況を鑑み JIFF 及び IFA にて延期の決定をした。

④イベント協賛企業について

茨城県庁、IFA、JIFFパートナー企業である東京海上日動火災保険株式会社、JIFFが協力をして地元企業に営業活動を行い、JIFFが協賛契約手続きを行った。協賛金額ごとにロゴの掲出数やサイズに差をつけた。

⑤障がい者サッカー7団体との連携について

JIFF より7団体へ参加者募集についての協力依頼。イベントチラシ及び申込URLを共有し7団体から関係各所へ展開をしてもらった。その他、協力団体である茨城県内の障がい者サッカークラブに対するサポートを依頼した。

⑥参加者募集の方法

Google フォームを用いての一般募集。JIFF と IFA の HP 及び各種 SNS を通じての情報公開。また、IFA が茨城県内の特別支援学校等を訪問し告知協力依頼を行い、JIFF より協力団体への告知協力依頼・チラシ等の配布を通じて周知活動を行った。

⑦ボランティアの集め方

- ・協賛企業ボランティア:各社最大2名までと定め、JIFFより各社窓口担当者へボランティア参加申込みURL(Googleフォーム)を展開し参加を募る。
- ・学生ボランティア: JIFF より茨城県内をはじめとする関東圏内の大学に協力を要請し、 参加を募る。

V. 成果

障がい者スポーツ団体(障がい者サッカー団体)を対象とした支援のニーズ調査および体制整備に係る助言、同団体支援への理解の促進を図るための情報提供を行うことを目的として実施したアンケート調査と、一般のスポーツ団体(サッカー団体)と障がい者スポーツ団体(障がい者サッカー団体)間の連携を図ることを目的として実施した地域連携会議を通じて、3 つの成果を得られることができた。障がい者サッカーのネットワークの構築(連携機会の創出)、全国の好事例・先進事例の把握、7 競技団体の共通の課題の抽出ができ、大きな成果が得られた。地域連携会議では、アンケート調査結果を示し情報提供を行なった。

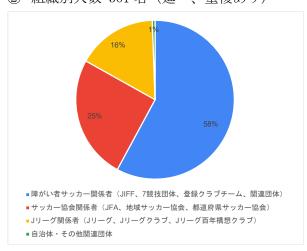
1. 障がい者サッカーネットワークの構築(連携機会の創出)

地域連携会議を通じて、障がい者サッカーネットワークの構築し連携機会の創出をすることができた。7競技団体の地域担当者、7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、全国9地域(北海道、東北・宮城県、関東・東京都、北信越・長野県、東海・愛知県、関西・大阪府、中国・広島県、四国・愛媛県、九州・鹿児島県)で延べ340名が参加し、<u>各組織の窓口となる</u>担当者同士が繋がることができた。

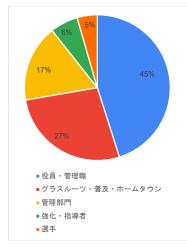
① 地域別参加人数

北海道	21 名
東北	28 名
関東/午前の部	61 名
関東/午後の部	36 名
北信越	31 名
東海	32 名
関西	39 名
中国	31 名
四国	23 名
九州	38 名
合計	340 名

② 組織別人数 361名(延べ、重複あり)



③部門別人数 357名 (延べ、重複あり)



2. 全国の好事例・先進事例の把握

調査アンケートおよび地域連携会議を通じて、全国の好事例・先進事例を把握することができた。

(1) 地域連携を推進する組織または会議帯の状況把握

JFA では、2015 年から都道府県サッカー協会に障がい者サッカー担当者を設置した。それを受けて、都道府県サッカー協会では地域における障がい者サッカーの活動を推進する委員会等を設置し、 障がい者クラブチームとの連携・支援を進める窓口ができた。

JIFF が目指すのは、以下の3つである。

- a. 都道府県サッカー協会内に障がい者サッカーを推進する委員会等が設置されること
- b. 地域に障がい種別を超えた障がい者サッカーの横断的な組織または会議体があること
- c. 障がい者サッカーの活動をする組織間でスムーズな連携がとれていること

これらが設置され、発展していくことで、地域における障がい者サッカーの活動と競技環境の整備が進んでいくと考える。

地域	9地域 または 都道府県	都道府県サッカー協会内の 障がい者サッカーを扱う組織	地域における 障がい者サッカー統括組織 まはた 障がい者サッカーチームを含む会議帯
北海道	北海道	北海道サッカー協会 チャレンジド委員会	北海道サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
東北	宮城県	宮城県サッカー協会 地域交流委員会	
	東京都		日本障がい者サッカー連盟とコリーグクラブ等が連携し会議、イベントを実施
	神奈川県		神奈川県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
関東	千葉県		障がい者サッカーチームを集めた会議帯発足の動き
	埼玉県		障がい者サッカーチームを集めた会議帯発足の動き
	茨城県	茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	群馬県	群馬県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
vo dilumino	長野県	長野県サッカー協会 グラスルーツ委員会	長野県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
北信越	石川県	石川県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
	福井県	福井県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
= *=	静岡県	静岡県サッカー協会 チャレンジド委員会	静岡県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
東海	愛知県		愛知県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
関西	兵庫県	兵庫県サッカー協会 障がい者サッカープロジェクト	
中国	広島県		広島県インクルーシブフットボール連盟
	四国	四国サッカー協会 インクルーシブ委員会	
四国	愛媛県	愛媛県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	徳島県	徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	佐賀県	佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員会	
	熊本県	熊本県サッカー協会 チャレンジド委員会	
九州	大分県	大分県サッカー協会 パラ委員会	
25 2753	宮崎県	宮崎県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
	沖縄県	沖縄県サッカー協会障がい者サッカー特別委員会	

(2)継続的な支援事例の把握

都道府県サッカー協会、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ等による障がい者サッカーへの継続支援事例としては、障がい者サッカークラブチームへの指導者派遣による競技力向上支援、大会への金銭的支援、人的支援(運営スタッフ、審判派遣)、選手およびホームゲーム会場を活用した広報支援(前座試合・体験会の実施、選手を起用した啓発、運営スタッフとして活用)、特別支援学校へのサッカー教室等の発掘・普及支援が挙げられ、全国で行われている(それぞれの取り組みについては、Ⅲ.9地域障がい者サッカー連携会議を参照)。

そのなかで、特記すべき事例を挙げる。

・よりよい街づくりのための地域連携

ヴァンフォーレ甲府、松本山雅FC、アビスパ福岡では、それぞれ行政、地元の障がい者サッカーチームと連携し、障がい者サッカーをツールとした巡回授業やサッカー教室を通じてよりよい街づくりに取り組んでいる。

・県サッカー協会とJリーグ百年構想クラブによる連携

テゲバジャーロ宮崎が日々の活動(スクール)内でイベント等への参加により発掘された障がい当事者の受け入れを行い日常的なプレーの場の受け皿となり、宮崎県サッカー協会がより専門性の高いサッカースクールを立ち上げ、発掘・育成で連携をしている。

- ・Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ内における障がい者サッカーカテゴリーの設置 横浜 F・マリノス、鹿児島ユナイテッド FC が知的障がい者サッカーチーム、奈良クラブが知的障が い者サッカーチーム、電動車椅子サッカーチームをクラブ内に設置している。
- 3. 障がい者サッカー7 競技団体の共通課題の抽出 調査アンケートおよび地域連携会議では、以下の6つの共通課題が挙げられた。
- a. 学校教育におけるインクルーシブ教育の推進により、普通学校へ通学する障がい者が増えたことで競技団体およびクラブチームと障がい当事者との接点がつくりにくく、選手の発掘が困難になってきている。
- b. 競技ごとに選手発掘の傾向がみえているが、十分なアプローチができていない。
- c. 地域ごとの普及状況 (競技者数、チーム数等) の格差が大きい。関東や関西にチームが集中し、 他地域では障がい種別ごとのチームづくり、環境整備が難しい傾向にある。
- d. 障がい特性、競技特性により、介助・サポートの確保や競技用具の調達等、競技者の費用負担が大きく、競技活動を開始するハードルになっている。
- e. 多くの障がい者サッカークラブチームには、競技に精通したサッカー専門の指導者が不在。
- f. チーム運営を継続するにあたり、活動資金の調達が課題。

おわりに

2019 年度は一般のスポーツ団体(サッカー団体)と障がい者スポーツ団体(障がい者サッカー団体)間の連携として「連携機会の創出」と「情報共有の場」ができたが、今後は「連携の活用」と「活動創出の場」へと発展するよう継続して実施し障がい者サッカー団体の連携および体制整備に向けた事業を展開していく。

	2019年度	2020年度以降
障がい者サッカー ネットワークの構築	連携機会の創出 JIFF加盟7競技団体の地域担当者、加盟 7競技団体に登録する地元障がい者サ ッカークラブチーム担当者、JFAが管 轄する47都道府県サッカー協会関係者、 Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラ ブの関係者による初顔合わせ	連携の活用 2019年度抽出した個別および共通課題をもとに、都道府県単位でディスカッションを行うまた、その後も定期的なディスカッションとイベント等の実働が継続されるよう仕組みづくり(都道府県単位での会議帯または組織発足を促す)を行う
地域に応じた 障がい者サッカーの 活動の推進	情報共有の場 全国の障がい者サッカーの普及状況および活動実態の把握、全国の好事例・ 先進事例の把握、7つの障がい者サッカーの個別および共通課題の抽出	活動創出の場 インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた 障がい者サッカーの活動を連携しなが ら創出する場

【添付資料】

- 1. メディア関連資料
- 2. アンケート調査資料
- 3.9地域障がい者サッカー連携会議案内資料



JFA PRESS RELEASE



19X - 4102019年10月21日

報道関係各位

公益財団法人 日本サッカー協会 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)が 2019 年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」を受託 JFAとJIFF が協働し、全国 9 地域で障がい者サッカー連携会議を初開催

日本サッカー協会 (JFA) と日本障がい者サッカー連盟 (JIFF) は協働して、10 月27 日 (日) より順次、全国 9 地域 (北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)で「9 地域障がい者サッカー連携会議(以下、地域 連携会議)」を初めて開催します。

「地域連携会議」は、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりを推進するため、地域における障がい者サッカー 団体と47 都道府県サッカー協会・」リーグクラブ・Jリーグ百年構想クラブによる協力体制を整備するものです。2019年度 スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」の JIFF への受託が決定したことを受け、これまで JFA が各都道府県 FA と行ってきた会議をさらに拡大したものがこの「地域連 携会議です。

東京オリンピック・パラリンピックを 2020 年に控え、障がい者スポーツ推進の機運醸成の流れを非パラリンピック競技へ、活動 エリアを全国へと拡大し、地域で障がい者サッカーに携わる方々が一堂に会しネットワークを構築することにより、それぞれの地 域の活動状況や普及の度合いに応じた障がい者サッカーの活動を促進していきます。そして、サッカーから他の競技団体へと 水平展開できるモデルとして情報公開し、障がい者の継続的なスポーツ実施に繋げていきます。

【9 地域障がい者サッカー連携会議 概要】

■会場·日程

	開催地域	開催日	開催場所
北海道	北海道札幌市	2020年1月11日(土)	札幌ドーム
東北	宮城県仙台市	2019年11月30日(土)	仙台市 生涯学習センター
関東	東京都文京区	2020年2月2日(日)	JFA ハウス
北信越	長野県松本市	2020年1月19日(日)	やまびこドーム
東海	愛知県名古屋市	2019年10月27日(日)	名古屋市公会堂
関西	大阪府吹田市	2019年12月15日(日)	パナソニック スタジアム 吹田
中国	広島県広島市	2019年12月14日(土)	広島市心身障害者福祉センター
四国	愛媛県松山市	2019年11月23日(土)	二番町ホール
九州	鹿児島県鹿児島市	2020年1月25日(土)	天文館ビジョンホール

■内容 参加メンバーによる取り組み事例の共有、グループディスカッション。

障がい者サッカー関連イベント等がある場合、視察実施

■参加対象者 47 都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、9 地域サッカー協会担当者

JIFF に加盟する障がい者サッカーフ 団体*の地域担当者

地域連携会議開催県で活動する障がい者サッカーチーム担当者

その他地域連携会議に参加が必要とされる障がい者サッカー団体

J リーグクラブ担当者、J リーグ百年構想クラブ担当者、地域連携会議開催県の地方自治体

JIFF 担当者、JFA 障がい者サッカー担当者

*=特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会(切断障がい)、一般社団法人日本 CP サッカー協会(脳性麻痺)、

特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会(精神障がい)、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟(知的障がい)、一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会(重度障がい)、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会(視覚障がい)、一般社団法人日本ろう者サッカー協会(聴 覚障がい)

各地域で実施する「地域連携会議」のご取材のほか、JIFFとJFAで協働する本取り組みについて、代表者/担当者へのインタビ ュー等も随時承っております。「地域連携会議」および本取り組み、代表者/担当者への個別取材をご希望の方は、JFA 広報部 【media@jfa.or.jp】または JIFF 事務局【jiff_info@jfa.or.jp】 (担当:神谷)までご連絡ください。

●2020 年 1 月 1 日 読売新聞 全国版







HOME

日本のスポーツビジョン

数字で見るスポーツの価値

最新現場レポート

インタビュー

TOP > サッカー界全体と地域が協力して7つの障害者サッカーをアシスト!

2020年2月7日12:00

サッカー界全体と地域が協力して7つの障害者サ ッカーをアシスト!

地域活性化とスポーツ 障害者スポーツ 最新現場レポート

1,340 | | いいね! タッイート | Q LINEで送る



- 障害の有無を問わず、みんなが一緒に1つのボールを追いかける
- 2016年から「インクルーシブフットボールフェスタ」を継続開催
- 全国9地域で障害者団体と健常者団体の連携を促進
- まとめ

これまでスポーツの分野においては「障害者」と「健常者」は分けて捉えられ、各競技を管轄する団体は大半の競 技が「障害者団体」と「健常者団体※1」が個別に存在している状況です。

行政でも、かつては障害者スポーツの所管は「厚生労働省」でしたが、現在はスポーツ庁に業務が移管され、例え ばトップアスリートの強化では「オリパラ一体化」の方針で取組が進んでおり、自治体レベルでも障害者スポーツ の管轄を福祉部局ではなくスポーツ部局に一元化する動きが一定程度認められます。しかし、活動ベースでは、ま だまだ「障害者」と「健常者」で個別に実施されているのが現状です。

このような課題に対応して水泳界では2013年10月に3つの障害種の水泳団体を構成員に日本障がい者水泳協会を設 立し、2014年2月に日本水泳連盟に加盟。2016年4月には日本サッカー協会の傘下団体として7つの障害種のサッカ ー団体を構成員に日本障がい者サッカー連盟を設立。また、2018年4月には日本バスケットボール協会の傘下団体 として4つの障害種のパスケットボール団体を構成員に日本障がい者パスケットボール連盟が誕生しました。

このような障害の有無や障害の種類に関わらない連携が活発になり、課題の解決等が図れることが望まれます。 今回はサッカー界の取組についてレポートしていきます。



大学スポーツの総合王者はどこだ? 競技横断 大学対抗戦「UNIVAS CUP2019-20 (ユニバス カップ 2019-20)」が開催中



スポーツを起点に広がる地域活性化 の姿~ラグビーW杯でみる スポーツ ツーリズム~



日本人の座位時間は世界最長「7」時 間!座りすぎが健康リスクを高める あなたは大丈夫?その対策と



運動ができるようになると、アタマ もよくなる!?専門家に聞く!子供 > の能力を引き出すためのメソッド



スポーツ庁が考える「スポーツ」と は?Deportareの意味すること

動画×スポーツ庁



2019年度次世代アスリート・キャリ



運動部活動イノベーション ~学校・ 地域・民間が協働する部活動改革~



スポーツ庁委託事業「スポーツキャ リアサポート戦略」「Athelete Career Challenge」Kick Off カンフ

もっと見る >

政策別カテゴリ

- > スポーツ庁の政策
- > 子供の体力向上
- > 学校体育·運動部活動
- 国民のスポーツライフ
- > スポーツ競技力向上
- 国際交流・国際協力
- > スポーツ施設の整備運営 > 地域活性化とスポーツ
- > スポーツインテグリティ
- > スポーツを通じた女性活躍促進

特集カテゴリ一覧

) 日本のスポーツビジョン



TOP > NEWS > 記事詳細

日本障がい者サッカー連盟がサッカー協会とタッグ!27日から 初の「9地域障がい者サッカー連携会議」を開催

19/10/26 07:00 【サッカー全般 一覧】



ば、アンプティサッカーの選手もいる。様々な 境遇をお互いに尊重する社会づくりのモデルを

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)が日本サッカー協会 (JFA)と協働して、 10 月27日の名古屋市公会堂を皮切り に、 全国9 地域(北海道、 東北、 関東、 北信越、 東海、 関西、 中国、 四国、 九州)で「9 地域障がい者サッカー連 携会議(以下、 地域連携会議)」を初めて開催することにな った。

「地域連携会議」は、 誰もが、 いつでも、 どこでもサ ッカーを楽しめる環境づくりを推進するため、 地域におけ る障がい者サッカー団体と47 都道府県サッカー協会・J リ ーグクラブ・Jリーグ百年構想クラブによる協力体制を整備 することが目的。 2019年度スポーツ庁委託事業「障害者 スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び

体制整備への支援事業)」のJIFFへの受託が決定したことを受け、 これまでJFAが各都道府県FAと 行ってきた会議をさらに拡大した。地域密着をうたうJリーグのクラブ関係者が入り、健常者サッ カーと障がい者サッカーのそれぞれの現場にいる人たちが直接顔を突き合わせて会話することで、 課題を深く共有し、問題解決にむけた機運を作り、スピードを加速させたい考えだ。

東京オリンピック・パラリンピックを2020年に控え、 障がい者スポーツ推進の機運醸成の流れ を非パラリンピック競技へ、 活動エリアを全国へと拡大し、近い将来、 サッカーから他の競技団 体へと水平展開できるモデルとして情報公開し、 障がい者の継続的なスポーツ実施に繋げていくつ

【9地域障がい者サッカー連携会議 概要】

■会場・日程

①東海:愛知県名古屋市 2019年10月27日 名古屋市公会堂

②四国:愛媛県松山市 2019年11月23日 二番町ホール

③東北:宮城県仙台市 2019年11月30日 仙台市生涯学習センター

④中国:広島県広島市 2019年12月14日 広島市心身障害者福祉センター

⑤関西:大阪府吹田市 2019年12月15日 パナソニックスタジアム吹田

⑥北海道:北海道札幌市2020年1月11日 札幌ドーム

⑦北信越:長野県松本市2020年1月19日 やまびこドーム関西

⑧九州:鹿児島県鹿児島市2020年1月25日 天文館ビジョンホール

⑨関東:東京・文京区 2020年2月2日 JFAハウス

■内容

参加メンバーによる取り組み事例の共有、 グループディスカッション。 (障がい者サッカー関連イベント等がある場合、 視察実施)

■参加対象者

- ・47都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者
- ・9地域サッカー協会担当者
- ·JIFF に加盟する障がい者サッカー7 団体の地域担当者
- ・地域連携会議開催県で活動する障がい者サッカーチーム担当者
- ・その他地域連携会議に参加が必要とされる障がい者サッカー団体
- ・Jリーグクラブ担当者
- ・ J リーグ百年構想クラブ担当者
- ・地域連携会議開催県の地方自治体
- · JIFF 担当者
- · JFA 障がい者サッカー担当者



アクセスランキング > もっと見る

■ 石川直宏氏が一部コメントに「ど んな理由があっても許せないし許 さない。



2 イニエスタが元神戸選手に「彼が 恋しい」



「9月入学・新学期」導入ならJ秋 春制再検討も?17年の否決理由が 揺らぐ可能性



4 酒井高徳が退院後初コメント「コ ロナウィルスの恐ろしさを痛感し ました」



5 元代表MF福西氏が選ぶ「最強ポ ランチ3人」…1位は"よく怒られ た"W杯優勝キャプテン





特集企画



Jリーグ



AFCチャンピオンズリーグ



海外組ガイド



UEFAチャンピオンズリーグ



UEFAヨーロッパリーグ



W杯アジア2次予選

「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」

障がい者サッカークラブチームの皆様へアンケートご協力のお願い

2019年9月27日 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、日本サッカー協会(JFA)と協働し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりのため、2019年10月より9地域障がい者サッカー連携会議を順次実施いたします。地域連携会議に向けて、障がい者サッカー7団体に登録するクラブチームを対象にチームを取り巻く環境や活動状況についてアンケートを実施いたします。障がい者サッカーのさらなる発展のために、お手数をおかけしますが、本調査へのご協力をよろしくお願い致します。

【調査目的】障がい者サッカー7団体に登録するクラブチームを対象にチームを取り巻く環境や活動状況について調査し実態を把握すること。これにより、この調査結果をもとに 2019年度に開催する「9地域障がい者サッカー連携会議」において、各地域の活動および普及状況にあわせた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりに寄与すること。

【調査対象】JIFF に加盟する障がい者サッカー7団体(日本アンプティサッカー協会、日本CP サッカー協会、日本ソーシャルブットボール協会、日本知的障がい者サッカー連盟、日本電動車椅子サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会、日本ろう者サッカー協会)に登録するクラブチーム

【主 催】一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

【協 力】桐蔭横浜大学

【記入方法など】

- ●問1から順にお答えください。
- ●この調査についてのご意見・お問い合わせ、視覚障がい等の理由によりデータでアンケートの回答及び返信をご希望される方は、下記の調査担当までご連絡ください。

【その他】

- ●所要時間は、15~20分程度です。当てはまる回答項目に○印を記入ください。
- ●アンケートの**締め切りは10月11日(金)**でお願いします。
- ●調査結果は、JIFF、JFA、スポーツ庁の公式サイト等に掲載される可能性があります。その際、個人が特定されることはありません。
- ●下記は、略語対比表です。ご参照ください。

略語	組織名称
JFA	公益財団法人日本サッカー協会
JIFF	一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

●本調査は、桐蔭横浜大学臨床研究倫理審査委員会の審査基準に準じて実施しています。

[調査担当] 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟 事務局TEL 03-3818-2030 / MAIL jiff_info@jfa.or.jp

〈フェイスシート〉チームについて伺います。

F 1.	チーム名を教えてください。	
()
ГО		
,	アンケートの回答者名を教えてください。	\
()
F 3.	回答者のチームにおける主たる役割を教えてください。(複数	回答可)
()チーム代表者	, , , , , ,
)監督	
)選手	
)コーチ	
)トレーナー	
) メカニック・イクイップメント	
() スタッフ (総務・通訳・広報担当)	
()保護者	
() その他 ()	
F 4.	実施している競技を教えてください。(複数回答可)	
() アンプティサッカー	
)CP サッカー	
() ソーシャルフットボール (精神障がい者サッカー)	
() 知的障がい者サッカー/知的障がい者フットサル	
()電動車椅子サッカー	
() ブラインドサッカー/ロービジョンフットサル	
()デフ(ろう者)サッカー/デフフットサル	
F 5.	活動地域(都道府県)を教えてください(複数ある場合は、最も	·活動している地域)。
()	
F 6.	設立から現在までの活動期間を教えてください。	
() 設立から1年未満	
()設立から1年以上3年未満	
() 設立から3年以上6年未満	
()設立から6年以上	
F 7.	チームの人数を教えてください。	
コーチ	-・スタッフ()人	
選	手 ()人	

【アンケート】

質問数は全部で18問です。項目を「選択」するものと「自由記載」のものがあります。

チーム活動について教えてください。

問1.	練習頻度 平均して1週間にどれくらいの頻度で練習していますか。
()週に4日以上
()週に3日
()週に2日
()週に1日
() その他 (
問2.	練習場所 普段どこでサッカー・フットサルのチーム練習をしていますか。(複数回答可)
()障がい者スポーツ施設
()障がい者スポーツ施設以外の公共施設(市民体育館など)
()民間スポーツクラブ(フットサル場、企業施設など)
()学校/教育機関
()病院/医療・福祉関係施設
()河川敷/公園
() その他 ()
問3.	選手が競技活動をするうえで、支障となっていることは下記の項目の中にあります か。(複数回答可)
()練習場所の確保ができない
() チーム練習ができるだけの十分な選手数が揃わない
() 障がいのある選手の発掘・育成が進まない
()競技専門のスタッフが不足している
()競技以外のサポートスタッフが不足している
()費用がかかる
()チームの練習に必要な用具が十分に備わっていない
()施設が十分な対応をしていない
`	(競技活動に必要な用具使用への理解、バリアフリー環境等)
()大会および試合の開催回数が少ない
()仕事との調整が難しい
()練習場所に通うのが大変
()支障に感じたことはない
	7 2 4 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1

問4.	. 問3で選択した項目について、具体的な理由を教えてくださ に課題に感じていることがあれば教えてください。	い。また、その他に特
問5.		
	答可)	
()特別支援学校での告知や体験会の実施	
()病院等での告知や体験会の実施	
()他団体が主催するイベント等での告知や体験会の実施	
()都道府県サッカー協会を通じての告知や体験会の実施	
() 地元の J リーグクラブ等 (F リーグクラブ、なでしこリーク	「クラブ含む)を通じて
	の告知や体験会の実施	
()公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信	
()チラシ配布/ポスター掲示	
()障がい者スポーツセンターからの紹介	
()親の会を通じての紹介	
()知り合いを通じての紹介	
()講演会の実施	
()その他(具体的に:)
問6.	. 現在のチームメンバーは、どのようにチームに入りましたか	'。(複数回答可)
()特別支援学校・特別支援級関係者の紹介、活動を通じて	
()特別支援学校・特別支援級以外の教育関係者の紹介、活動を	を通じて
()病院、医療・福祉関係者等の紹介、活動を通じて	
()イベント・体験会(特別支援学校、病院、医療・福祉関係し	以外)を通じて
()チームの公式サイト・ブログ・SNS 等での情報発信を見て	
()チラシ・ポスターを見て	
()メディアによる報道を通じて	
()講演会を通じて	
()障がい者スポーツセンターからの紹介を通じて	
()親の会を通じて	
()知り合いを通じて	
() その他 (具体的に:)

問7.	活動資金はどのように得ていますか。(複数回答可)
()選手・スタッフからの会費
()補助金/助成金
()寄付金
()物販収入
()スポンサー収入
()その他(具体的に:)
都道府	守県サッカー協会、地元Jリーグクラブとの連携および期待について教えてください。
問8.	クラブ含む)と既に連携して実施していることがあれば、教えてください。)都道府県サッカー協会主催のリーグや大会に出場している
()都道府県サッカー協会を通じて告知や体験会を実施している)都道府県サッカー協会を通じて会場(グラウンド等)利用面で支援を受けている
() 地元の「リーグクラブ等の試合やイベントを通じて告知や体験会を実施している
() 地元の「リーグクラブ等から会場 (グラウンド等) 利用面で支援を受けている
() 地元の「リーグクラブ等からの人的な支援(コーチ派遣等)を受けている
()地元の「リーグクラブ等から資金的な支援(寄付、協賛等)を受けている
() 地元の J リーグクラブ等のクラブチームとして活動している
()地元の「リーグクラブ等が大会開催を主催(もしくは共催)している
() その他(具体的に:))
•	
問9.	都道府県サッカー協会と連携したいこと、または一緒に何かをできるアイディアが あれば、教えてください。(フリーワード回答)
). 地元Jリーグクラブと連携したいこと、または一緒に何かをできるアイディアがあ 教えてください。(フリーワード回答)
7,5,5,	SACTION (A) A LIBIT

	· 回答)
ラブチームで実施している交流活動について教えてくだ	さい。
12. 健常者クラブチームと練習、試合等の交流、トレー	ーンがもナファレルもりますみ
1 2. 健吊有クノノナームと練音、試合寺の交流、 F レー) ある	ーング どすることはめりよすか。
) ない	
, ,	
問12で「ある」と回答したクラブチームのみ)	
13. 実施している場合、その目的、頻度、内容を教えて	ください。(フリーワード回答)
問12で「ない」と回答したクラブチームの回答くださ	
14.実施したくても実現できていない場合、障壁になっ	っていることがあれば教えてくだ
い。(フリーワード回答)	

問 1 5. 他の障がい種別や他競技のクラブチームとの交流はありますか。 () ある () ない
(問15で「ある」と回答したクラブチームのみ回答ください) 問16. 交流の機会がある場合、その目的、頻度、内容を教えてください。(フリーワード回答)
(問15で「ない」と回答したクラブチームのみ回答ください) 問17. 交流の機会を持ちたいが出来ていない場合、どのようなことが障壁になっていまか。(フリーワード回答)
問18.スポーツ庁事業として、2020年度に全国各地で特別支援学校の児童を中心として、 地域住民や地域の企業等を巻き込んだ運動会の開催を予定しているようです。開催にあた り、ご意見やご要望があれば、教えてください。(フリーワード回答)

「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」

「9地域障がい者サッカー連携会議」開催概要

2019年10月16日 公益財団法人日本サッカー協会 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

日本サッカー協会(JFA)と日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は協働し、地域における障がい者サッカー団体と 47 都道府県サッカー協会・J リーグクラブ・J リーグ百年構想クラブとの連携および体制整備を目的に、2019 年 10 月より全国 9 地域で「9 地域障がい者サッカー連携会議(以下、地域連携会議)」を順次実施いたします。昨年までは JFA と 47 都道府県サッカー協会が会議を行っておりましたが、今年は更なる連携を図るため JFA と JIFFが協働して行います。

地域連携会議では、各地域の活動および普及状況にあわせた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりを推進していきます。

なお、本会議は2019年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト(障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業)」として実施いたします。

<概要>

会議名:9地域障がい者サッカー連携会議

目的:地域における障がい者サッカー団体と 47 都道府県サッカー協会・J リーグクラブ・J リーグ百年構想クラブとの連携および体制整備

会場:全国9地域にて開催(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)

日程:2019年10月~2020年2月

	開催地域	開催日	開催場所
北海道	北海道札幌市	2020年1月11日(土)	札幌ドーム
東北	宮城県仙台市	2019年11月30日(土)	仙台市 生涯学習センター
関東	東京都文京区	2020年2月2日(日)	日本サッカー協会ビル(JFA ハウス)
北信越	長野県松本市	2020年1月19日(日)	やまびこドーム
東海	愛知県名古屋市	2019年10月27日(日)	名古屋市公会堂
関西	大阪府吹田市	2019年12月15日(日)	パナソニック スタジアム 吹田
中国	広島県広島市	2019年12月14日(土)	広島市心身障害者福祉センター
四国	愛媛県松山市	2019年11月23日(土)	一番町ホール
九州	鹿児島県鹿児島市	2020年1月25日(土)	天文館ビジョンホール

内容・時間:

- ・地域連携会議は約3時間を予定しており、参加メンバーによる取り組み事例共有とグループディスカッションの2部構成で実施します。
- ・開催地域で障がい者サッカー関連の大会やイベントがある場合は、会議とは別に視察を行います(詳細は地域ごとの要項をご確認ください)。

参加対象者:47 都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者 9 地域サッカー協会担当者

> JIFF に加盟する障がい者サッカー7団体*の地域担当者 地域連携会議開催県で活動する障がい者サッカーチーム担当者 その他地域連携会議に参加が必要とされる障がい者サッカー団体

【リーグクラブ担当者

Jリーグ百年構想クラブ担当者 地域連携会議開催県の地方自治体

IIFF 担当者

JFA 障がい者サッカー担当者

*=特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会(切断障がい)、一般社団法人日本 CP サッカー協会(脳性麻痺)、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会(精神障がい)、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟(知的障がい)、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会(重度障がい)、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会(視覚障がい)、一般社団法人日本ろう者サッカー協会(聴覚障がい)

参加条件:

47 都道府県サッカー協会の方へ)

- ① 47 都道府県サッカー協会からの障がい者サッカー担当者の会議および視察の参加は必須となります。やむを得ず出席できない場合は、各地域での取り組み内容をお話しできる方が必ず代理出席いただきますようお願いいたします(グループに分かれ取り組み内容をお話いただく時間がございます)。
- ② 会議室の都合上、地域連携会議開催県を除く都道府県サッカー協会からの参加者は原則 1名までとさせていただきます。2名以上で参加ご希望の場合は、ご相談ください。 JIFF に加盟する障がい者サッカー7団体の方へ)
- ① 会議および視察には、各地域での取り組み内容をお話しできる地域担当者が参加ください。やむを得ず出席できない場合は、必ず代理出席いただきますようお願いいたします。
- ② 開催県で活動する障がい者サッカーチーム(本紙3枚目に記載、開催県にチームがない場合は隣県から参加)にご案内ください。

公益財団法人 日本サッカー協会 技術部 グラスルーツ推進グループ 松田・堀地 TEL 03-3830-1826

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟 事務局 TEL 03-3818-2030 / MAIL jiff_info@jfa.or.jp

<各地域連携会議の参加対象者の記載は、次ページ以降にございます。>

【北海道】2020年1月11日(土)・札幌ドーム(北海道札幌市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	北海道サッカー協会	1名以上
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	アシルスフィーダ北海道 AFC(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム(開催県にチーム	調整中(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	調整中(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	Safilva (電動車椅子サッカー)	1名
	ナマーラ北海道(ブラインドサッカー)	1名
	HTD.FC (デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	北海道コンサドーレ札幌	1名
北海道内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		22 名~

【東北】2019年11月30日(土)・仙台市 生涯学習センター(宮城県仙台市)>

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	青森県サッカー協会	1名
	岩手県サッカー協会	1名
	宮城県サッカー協会	1名以上
	秋田県サッカー協会	1名
	山形県サッカー協会	1名
	福島県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	東北サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	調整中(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム (開催県にチーム	調整中(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	エスプランドルみやぎ(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	コルジャ仙台ブラインドサッカークラブ(ブライン	1名
	ドサッカー)	
	調整中(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	ヴァンラーレ八戸	1名
	いわてグルージャ盛岡	1名
	ベガルタ仙台	1名
	ブラウブリッツ秋田	1名
	モンテディオ山形	1名
	福島ユナイテッドFC	1名
Jリーグ百年構想クラブ	ラインメール青森	1名
宮城県内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		34 名~

【関東】2020年2月2日(日)・日本サッカー協会ビル(JFAハウス)(東京都文京区)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	茨城県サッカー協会	1名
	栃木県サッカー協会	1名
	群馬県サッカー協会	1名
	埼玉県サッカー協会	1名
	千葉県サッカー協会	1名
	東京都サッカー協会	1名
	神奈川県サッカー協会	1名
	山梨県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	関東サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	調整中(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム(開催県にチーム	調整中(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	調整中(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	調整中(ブラインドサッカー)	1名
	調整中(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	鹿島アントラーズ	1名
	水戸ホーリーホック	1名
	栃木SC	1名
	ザスパクサツ群馬	1名
	浦和レッズ	1名
	大宮アルディージャ	1名
	ジェフユナイテッド千葉	1名
	柏レイソル	1名
	FC 東京	1名
	東京ヴェルディ	1名
	FC町田ゼルビア	1名
	川崎フロンターレ	1名
	横浜F・マリノス	1名
	横浜FC	1名
	Y. S. C. C. 横浜	1名
	湘南ベルマーレ	1名

	SC相模原	1名
	ヴァンフォーレ甲府	1名
Jリーグ百年構想クラブ	栃木シティフットボールクラブ	1名
	東京武蔵野シティ FC	1名
東京都内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		49 名~

【北信越】2020年1月19日(日)・やまびこドーム(長野県松本市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	長野県サッカー協会	1名以上
	新潟県サッカー協会	1名
	富山県サッカー協会	1名
	石川県サッカー協会	1名
	福井県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	北信越サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	調整中(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム(開催県にチーム	調整中 (CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	調整中(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	F.C.長野 RAINBOW(ブラインドサッカー)	1名
	調整中(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	松本山雅FC	1名
	AC長野パルセイロ	1名
	アルビレックス新潟	1名
	カターレ富山	1名
	ツエーゲン金沢	1名
長野県内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		32 名~

【東海】2019年10月27日(日)・名古屋市公会堂(愛知県名古屋市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	静岡県サッカー協会	1名
	愛知県サッカー協会	1名以上
	三重県サッカー協会	1名
	岐阜県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	東海サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	ガネーシャ静岡 AFC(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム(開催県にチーム	FC プログレッソ(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	調整中(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	DKFBC ディスカバリー(電動車椅子サッカー)	1名
	Mix Sense 名古屋(ブラインドサッカー)	1名
	調整中(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	清水エスパルス	1名
	ジュビロ磐田	1名
	藤枝MYFC	1名
	アスルクラロ沼津	1名
	名古屋グランパス	1名
	FC岐阜	1名
愛知県内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		31 名~

【関西】2019年12月15日(日)・パナソニック スタジアム 吹田(大阪府吹田市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	滋賀県サッカー協会	1名
	京都府サッカー協会	1名
	大阪府サッカー協会	1名以上
	兵庫県サッカー協会	1名
	奈良県サッカー協会	1名
	和歌山県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	関西サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	関西 Sete Estrelas(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム (開催県にチーム	大阪 PAZ(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	調整中(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	大阪ダイバンズ(ブラインドサッカー)	1名
	大阪アジアンタール FC(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	京都サンガ F.C.	1名
	ガンバ大阪	1名
	セレッソ大阪	1名
	ヴィッセル神戸	1名
Jリーグ百年構想クラブ	奈良クラブ	1名
大阪府内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		32 名~

【中国】2019 年 12 月 14 日(土)・広島市心身障害者福祉センター(広島県広島市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	鳥取県サッカー協会	1名
	島根県サッカー協会	1名
	岡山県サッカー協会	1名
	広島県サッカー協会	1名以上
	山口県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	中国サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
その他障がい者サッカー団体	広島県インクルーシブフットボール連盟	1名
開催県で活動する障がい者サ	A-pfeile 広島 AFC(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム (開催県にチーム	調整中(CP サッカー)	1名
がない場合は同地域内から参	ジェネローゾ広島 FC(精神障がい者サッカー)	1名
加)	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	調整中(ブラインドサッカー)	1名
	調整中(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	ガイナーレ鳥取	1名
	ファジアーノ岡山	1名
	サンフレッチェ広島	1名
	レノファ山口FC	1名
広島県内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		31 名~

【四国】2019 年 11 月 23 日(土)・一番町ホール(愛媛県松山市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	香川県サッカー協会	1名
	徳島県サッカー協会	1名
	愛媛県サッカー協会	1名以上
	高知県サッカー協会	1名
9 地域サッカー協会	四国サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	調整中(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム(開催県にチーム	調整中(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	愛媛オレンジスピリッツ(精神障がい者サッカー)	1名
	調整中(知的障がい者サッカー)	1名
	調整中(電動車椅子サッカー)	1名
	調整中(ブラインドサッカー)	1名
	調整中(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	カマタマーレ讃岐	1名
	徳島ヴォルティス	1名
	愛媛FC	1名
Jリーグ百年構想クラブ	FC 今治	1名
愛媛県内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		29 名~

【九州】2020年1月25日(土)・天文館ビジョンホール(鹿児島県鹿児島市)

所属	組織名	参加人数
47 都道府県サッカー協会	福岡県サッカー協会	1名
	佐賀県サッカー協会	1名
	長崎県サッカー協会	1名
	熊本県サッカー協会	1名
	大分県サッカー協会	1名
	宮城県サッカー協会	1名
	鹿児島県サッカー協会	1名以上
	沖縄県サッカー協会	1名
9地域サッカー協会	九州サッカー協会	1名
JIFF に加盟する障がい者サッ	日本アンプティサッカー協会	1名
カー7 団体	日本 CP サッカー協会	1名
	日本ソーシャルフットボール協会	1名
	日本知的障がい者サッカー連盟	1名
	日本電動車椅子サッカー協会	1名
	日本ブラインドサッカー協会	1名
	日本ろう者サッカー協会	1名
開催県で活動する障がい者サ	FC 九州バイラオール(アンプティサッカー)	1名
ッカーチーム(開催県にチーム	ルナソル FC(CP サッカー)	1名
がない場合は隣県から参加)	こだまユナイテッド(精神障がい者サッカー)	1名
	鹿児島ユナイテッド FC フューチャーズ(知的障が	1名
	い者サッカー)	
	Nanchester United 鹿児島(電動車椅子サッカー)	1名
	調整中(ブラインドサッカー)	1名
	福岡ケルベロス FC(デフサッカー)	1名
Jリーグクラブ	アビスパ福岡	1名
	ギラヴァンツ北九州	1名
	サガン鳥栖	1名
	V・ファーレン長崎	1名
	ロアッソ熊本	1名
	大分トリニータ	1名
	鹿児島ユナイテッドFC	1名
	FC琉球	1名
Jリーグ百年構想クラブ	テゲバジャーロ宮崎	1名
鹿児島県内の地方自治体	日本サッカーを応援する自治体連盟	調整中
JIFF	事務局	2名
JFA	グラスルーツ推進グループ	2名
Jリーグ	社会連携本部	2名
合計		38 名~